資料第3号

令和7年度
文京区アカデミー推進計画の
点検・評価

（案）

令和　年　月

目 次

第1章 計画の体系 2

第2章 事業の点検・評価の考え方 7

1. 概要 7
2. 体制と手法 8
3. 新型コロナウイルス感染症の影響について 10

第3章 学習活動分野の点検・評価 11

1. 学習活動分野の評価 11
2. 主要事業一覧 12
3. 分野別基本方針に対する事業を通じた達成状況 13
4. 主要事業の成果に対する評価 16

第4章 スポーツ分野の点検・評価 41

1. スポーツ分野の評価 41
2. 主要事業一覧 42
3. 分野別基本方針に対する事業を通じた達成状況 44
4. 主要事業の成果に対する評価 47

第5章 文化芸術分野の点検・評価 72

1. 文化芸術分野の評価 72
2. 主要事業一覧 73
3. 分野別基本方針に対する事業を通じた達成状況 75
4. 主要事業の成果に対する評価 79

第6章 観光分野の点検・評価 113

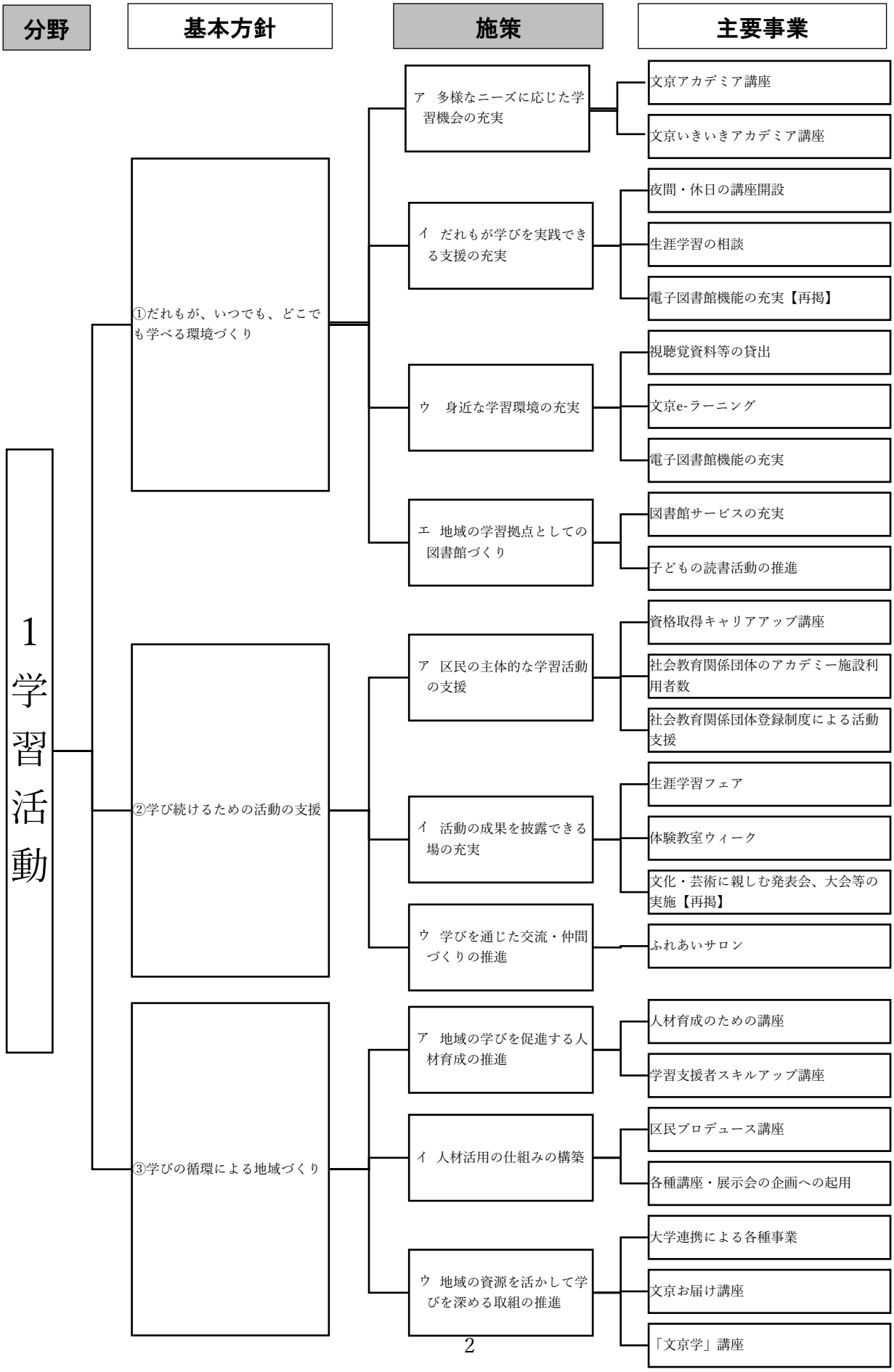
1. 観光分野の評価 113
2. 主要事業一覧 114
3. 分野別基本方針に対する事業を通じた達成状況 115
4. 主要事業の成果に対する評価 119

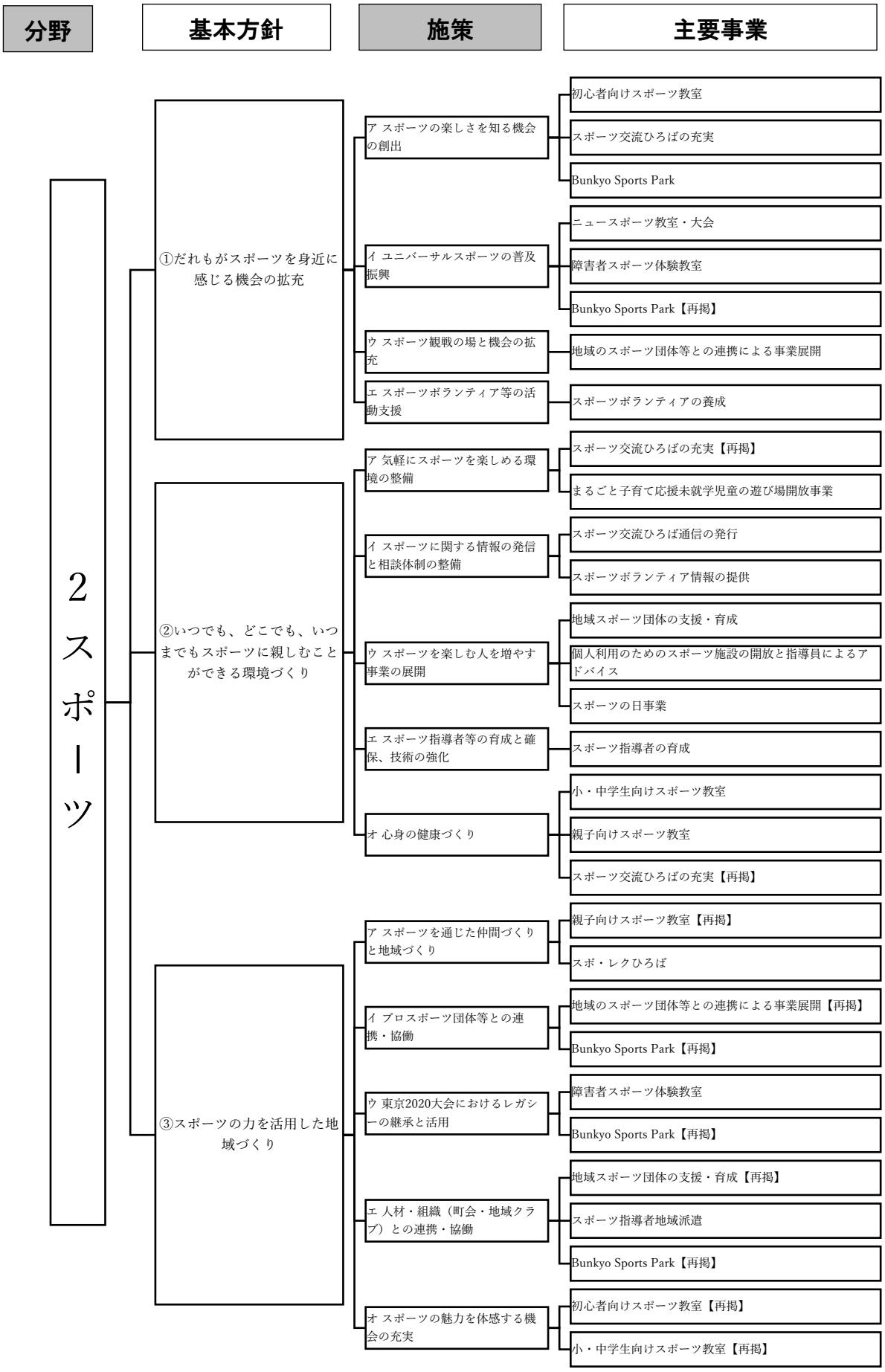
第7章 国内・国際交流分野の点検・評価 133

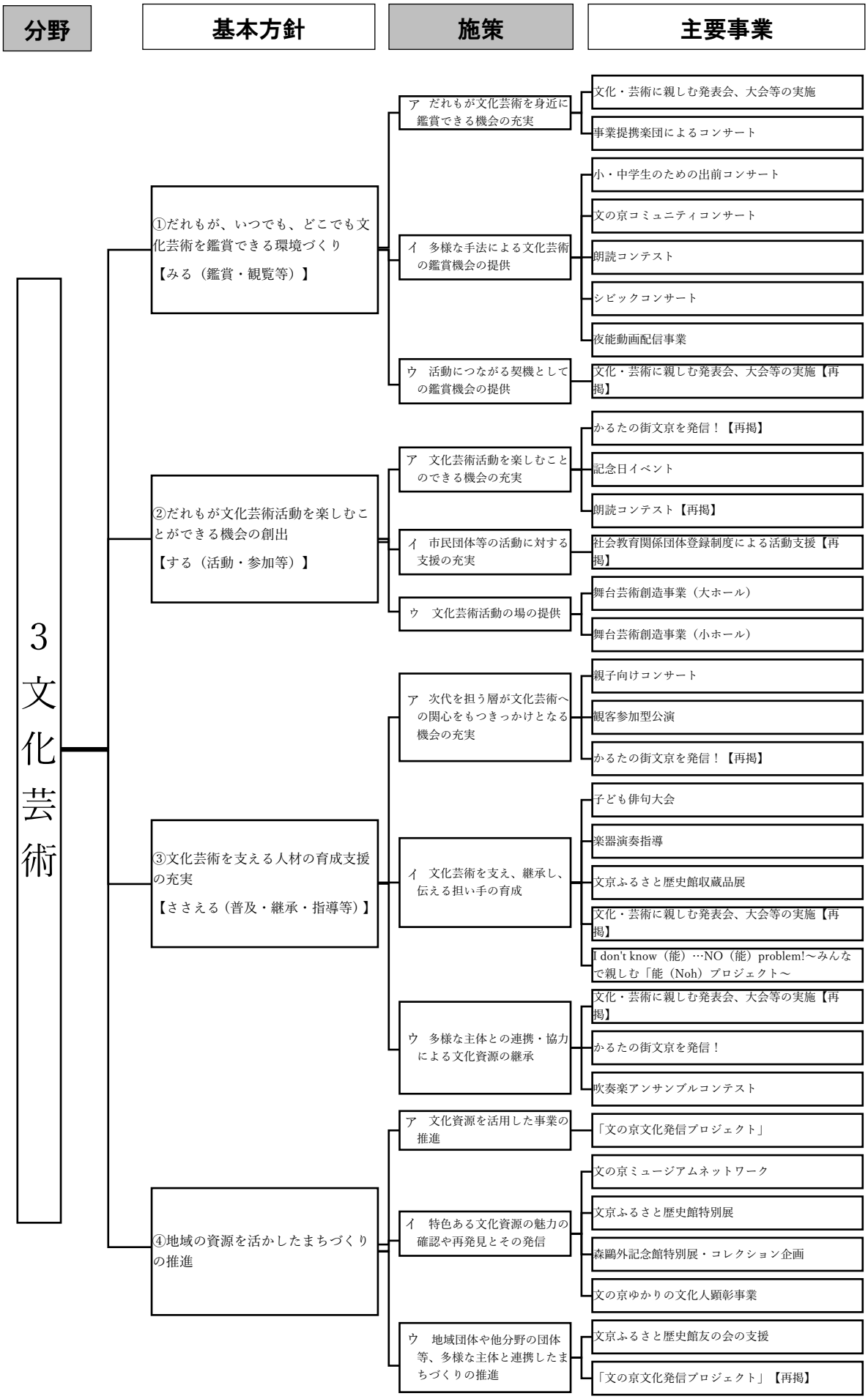
1. 国内・国際交流分野の評価 133
2. 主要事業一覧 134
3. 分野別基本方針に対する事業を通じた達成状況 135
4. 主要事業の成果に対する評価 138

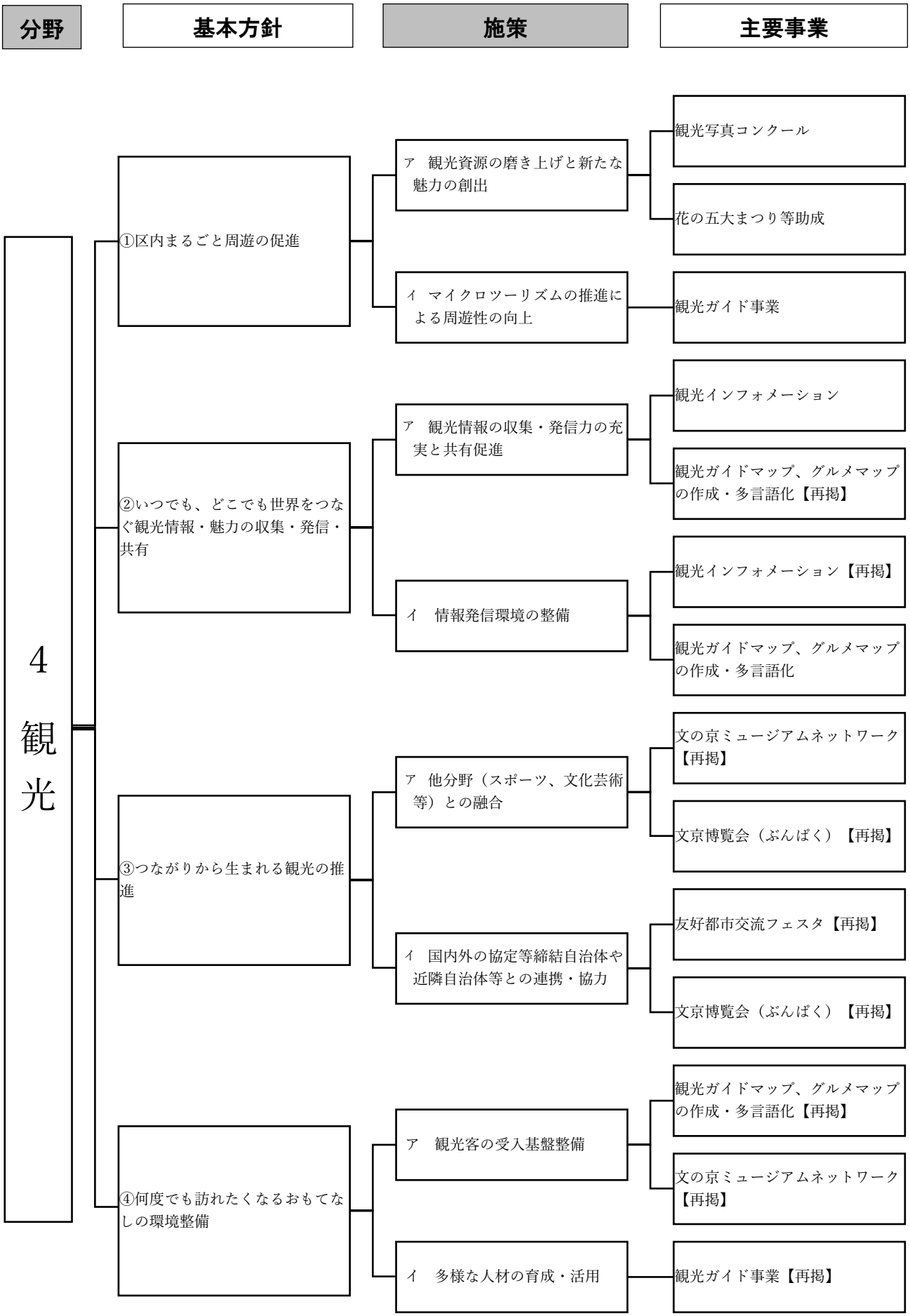
第8章 事業実施状況調査の調査結果（別冊） .....

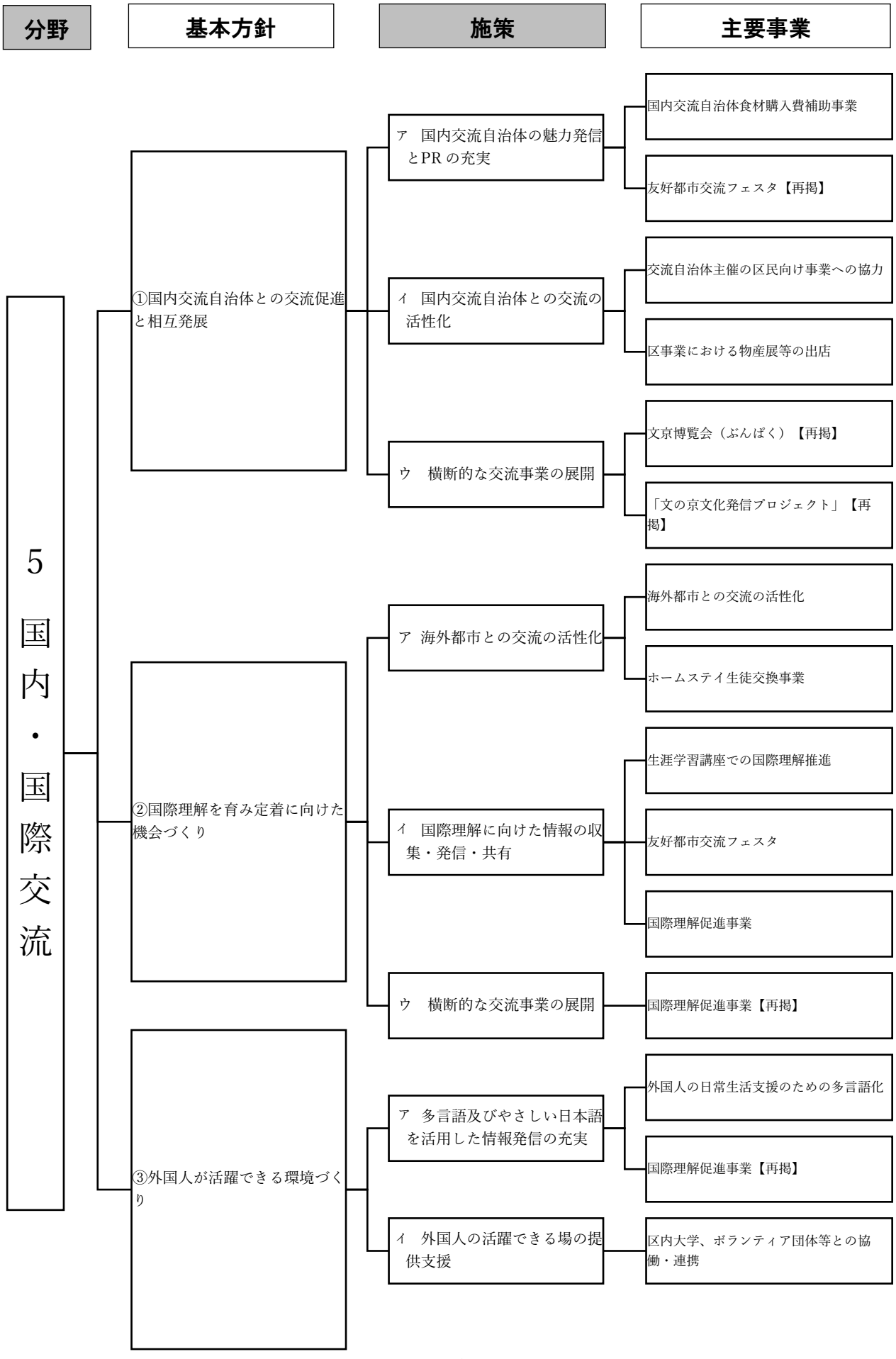
第１章　計画の体系


分野
基本方針
施策
主要事業
1 学習活動
①だれもが、いつでも、どこでも学べる環境づくり
ア　多様なニーズに応じた学習機会の充実
文京アカデミア講座
文京いきいきアカデミア講座
イ　だれもが学びを実践できる支援の充実
夜間・休日の講座開設
生涯学習の相談
電子図書館機能の充実【再掲】
ウ　身近な学習環境の充実
視聴覚資料等の貸出
文京e-ラーニング
電子図書館機能の充実
エ　地域の学習拠点としての図書館づくり
図書館サービスの充実
子どもの読書活動の推進
②学び続けるための活動の支援
ア　区民の主体的な学習活動の支援
資格取得キャリアアップ講座
社会教育関係団体のアカデミー施設利用者数
社会教育関係団体登録制度による活動支援
イ　活動の成果を披露できる場の充実
生涯学習フェア
体験教室ウィーク
文化・芸術に親しむ発表会、大会等の実施【再掲】
ウ　学びを通じた交流・仲間づくりの推進
ふれあいサロン
③学びの循環による地域づくり
ア　地域の学びを促進する人材育成の推進
人材育成のための講座
学習支援者スキルアップ講座
イ　人材活用の仕組みの構築
区民プロデュース講座
各種講座・展示会の企画への起用
ウ　地域の資源を活かして学びを深める取組の推進
大学連携による各種事業
文京お届け講座
「文京学」講座


分野
基本方針
施策
主要事業
2 スポーツ
①だれもがスポーツを身近に感じる機会の拡充
ア スポーツの楽しさを知る機会の創出
初心者向けスポーツ教室
スポーツ交流ひろばの充実
Bunkyo Sports Park
イ ユニバーサルスポーツの普及振興
ニュースポーツ教室・大会
障害者スポーツ体験教室
Bunkyo Sports Park【再掲】
ウ スポーツ観戦の場と機会の拡充
地域のスポーツ団体等との連携による事業展開
エ スポーツボランティア等の活動支援
スポーツボランティアの養成
②いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる環境づくり
ア 気軽にスポーツを楽しめる環境の整備
スポーツ交流ひろばの充実【再掲】
まるごと子育て応援未就学児童の遊び場開放事業
イ スポーツに関する情報の発信と相談体制の整備
スポーツ交流ひろば通信の発行
スポーツボランティア情報の提供
ウ スポーツを楽しむ人を増やす事業の展開
地域スポーツ団体の支援・育成
個人利用のためのスポーツ施設の開放と指導員によるアドバイス
スポーツの日事業
エ スポーツ指導者等の育成と確保、技術の強化
スポーツ指導者の育成
オ 心身の健康づくり
小・中学生向けスポーツ教室
親子向けスポーツ教室
スポーツ交流ひろばの充実【再掲】
③スポーツの力を活用した地域づくり
ア スポーツを通じた仲間づくりと地域づくり
親子向けスポーツ教室【再掲】
スポ・レクひろば
イ プロスポーツ団体等との連携・協働
地域のスポーツ団体等との連携による事業展開【再掲】
Bunkyo Sports Park【再掲】
ウ 東京2020大会におけるレガシーの継承と活用
障害者スポーツ体験教室
Bunkyo Sports Park【再掲】
エ 人材・組織（町会・地域クラブ）との連携・協働
地域スポーツ団体の支援・育成【再掲】
スポーツ指導者地域派遣
Bunkyo Sports Park【再掲】
オ スポーツの魅力を体感する機会の充実
初心者向けスポーツ教室【再掲】
小・中学生向けスポーツ教室【再掲】


分野
基本方針
施策
主要事業
3 文化芸術
①だれもが、いつでも、どこでも文化芸術を鑑賞できる環境づくり
【みる（鑑賞・観覧等）】
ア　だれもが文化芸術を身近に鑑賞できる機会の充実
文化・芸術に親しむ発表会、大会等の実施
事業提携楽団によるコンサート
イ　多様な手法による文化芸術の鑑賞機会の提供
小・中学生のための出前コンサート
文の京コミュニティコンサート
朗読コンテスト
シビックコンサート
夜能動画配信事業
ウ　活動につながる契機としての鑑賞機会の提供
文化・芸術に親しむ発表会、大会等の実施【再掲】
②だれもが文化芸術活動を楽しむことができる機会の創出
【する（活動・参加等）】
ア　文化芸術活動を楽しむことのできる機会の充実
かるたの街文京を発信！【再掲】
記念日イベント
朗読コンテスト【再掲】
イ　市民団体等の活動に対する支援の充実
社会教育関係団体登録制度による活動支援【再掲】
ウ　文化芸術活動の場の提供
舞台芸術創造事業（大ホール）
舞台芸術創造事業（小ホール）
③文化芸術を支える人材の育成支援の充実
【ささえる（普及・継承・指導等）】
ア　次代を担う層が文化芸術への関心をもつきっかけとなる機会の充実
親子向けコンサート
観客参加型公演
かるたの街文京を発信！【再掲】
イ　文化芸術を支え、継承し、伝える担い手の育成
子ども俳句大会
楽器演奏指導
文京ふるさと歴史館収蔵品展
文化・芸術に親しむ発表会、大会等の実施【再掲】
I don't know（能）…NO（能）problem!～みんなで親しむ「能（Noh）プロジェクト～
ウ　多様な主体との連携・協力による文化資源の継承
文化・芸術に親しむ発表会、大会等の実施【再掲】
かるたの街文京を発信！
吹奏楽アンサンブルコンテスト
④地域の資源を活かしたまちづくりの推進
ア　文化資源を活用した事業の推進
「文の京文化発信プロジェクト」
イ　特色ある文化資源の魅力の確認や再発見とその発信
文の京ミュージアムネットワーク
文京ふるさと歴史館特別展
森鷗外記念館特別展・コレクション企画
文の京ゆかりの文化人顕彰事業
ウ　地域団体や他分野の団体等、多様な主体と連携したまちづくりの推進
文京ふるさと歴史館友の会の支援
「文の京文化発信プロジェクト」【再掲】


分野
基本方針
施策
主要事業
4 観光
①区内まるごと周遊の促進
ア 観光資源の磨き上げと新たな魅力の創出
観光写真コンクール
花の五大まつり等助成
イ マイクロツーリズムの推進による周遊性の向上
観光ガイド事業
②いつでも、どこでも世界をつなぐ観光情報・魅力の収集・発信・共有
ア 観光情報の収集・発信力の充実と共有促進
観光インフォメーション
観光ガイドマップ、グルメマップの作成・多言語化【再掲】
イ 情報発信環境の整備
観光インフォメーション【再掲】
観光ガイドマップ、グルメマップの作成・多言語化
③つながりから生まれる観光の推進
ア 他分野（スポーツ、文化芸術等）との融合
文の京ミュージアムネットワーク【再掲】
文京博覧会（ぶんぱく）【再掲】
イ 国内外の協定等締結自治体や近隣自治体等との連携・協力
友好都市交流フェスタ【再掲】
文京博覧会（ぶんぱく）【再掲】
④何度でも訪れたくなるおもてなしの環境整備
ア 観光客の受入基盤整備
観光ガイドマップ、グルメマップの作成・多言語化【再掲】
文の京ミュージアムネットワーク【再掲】
イ 多様な人材の育成・活用
観光ガイド事業【再掲】


分野
基本方針
施策
主要事業
5 国内・国際交流
①国内交流自治体との交流促進と相互発展
ア 国内交流自治体の魅力発信とPRの充実
国内交流自治体食材購入費補助事業
友好都市交流フェスタ【再掲】
イ 国内交流自治体との交流の活性化
交流自治体主催の区民向け事業への協力
区事業における物産展等の出店
ウ 横断的な交流事業の展開
文京博覧会（ぶんぱく）【再掲】
「文の京文化発信プロジェクト」【再掲】
②国際理解を育み定着に向けた機会づくり
ア 海外都市との交流の活性化
海外都市との交流の活性化
ホームステイ生徒交換事業
イ 国際理解に向けた情報の収集・発信・共有
生涯学習講座での国際理解推進
友好都市交流フェスタ
国際理解促進事業
ウ 横断的な交流事業の展開
国際理解促進事業【再掲】
③外国人が活躍できる環境づくり
ア 多言語及びやさしい日本語を活用した情報発信の充実
外国人の日常生活支援のための多言語化
国際理解促進事業【再掲】
イ 外国人の活躍できる場の提供支援
区内大学、ボランティア団体等との協働・連携

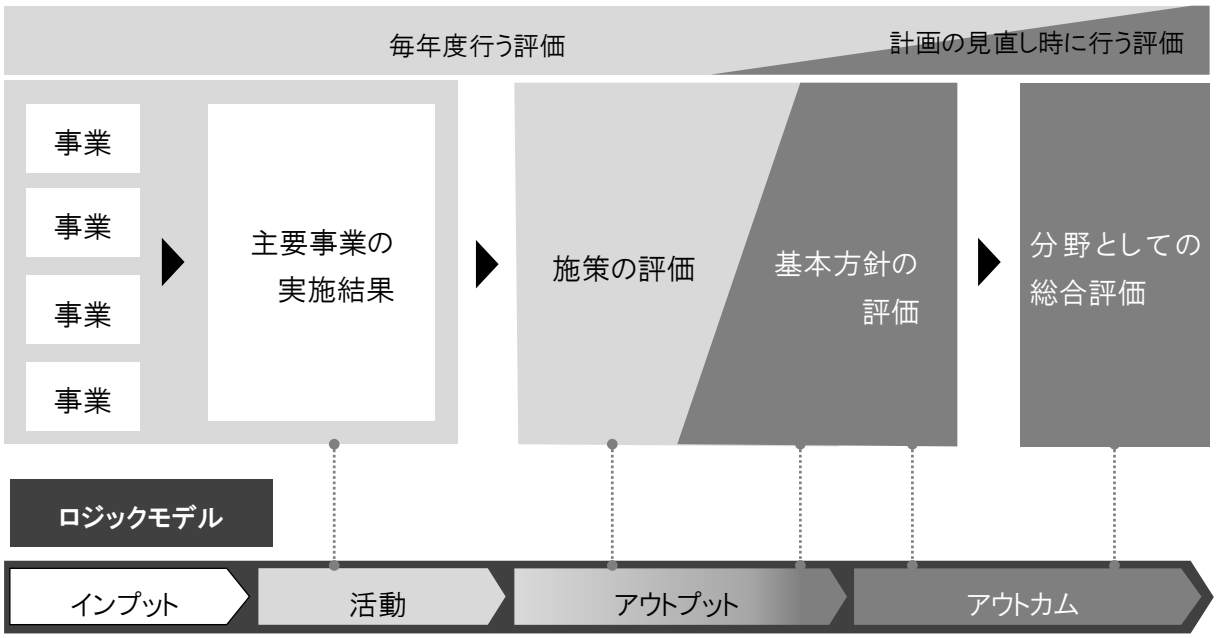
第２章　事業の点検・評価の考え方

1. 概要

評価の枠組み

令和3年度に策定したアカデミー推進計画の点検・評価は、策定時に構築した以下のロジックモデルを踏まえて、毎年度行う評価と、計画の見直し時に行う評価とを組み合わせて実施する。毎年度行う評価は、あらかじめ各分野の事業の中から選定しておいた主要事業の実施結果を取りまとめ、施策ごとに評価を行うものとする。計画の見直し時に行う評価は、毎年度行う評価に加えて、基本方針ごとに掲げた指標に基づいて評価を行い、分野としての総合評価を行うものとする。

アカデミー推進計画の評価フレーム



（用語解説）

主要事業……施策を評価する上でより重要度の高い事業、所管課が任意で選定
（分野別基本方針を支える主な事業、各施策の主な取り組みに基づく）

インプット……予算、人員など行政活動を実施するために投入する資源

活動 ……モノ、サービスを提供するために行う行政活動

アウトプット……行政活動の結果、産み出されたモノ、サービス
（例）アカデミア講座の実施回数

アウトカム……政策（施策、事業）が目指す成果（初期、中期、長期と段階あり）
（例）アカデミア講座の参加者数（初期）、
1年間に学習活動を行った人の割合（中期）、基本理念の実現（長期）

2. 体制と手法

(1)点検・評価の体制

点検・評価は、学識経験者、関係団体及び区民等で構成する協議会にて実施した。

■令和8年度　文京区アカデミー推進協議会経過

会議名	開催日	主な検討内容
第1回アカデミー推進協議会	令和8年　5月11日	アカデミー推進計画の改定及び点検・評価について
第1回分野別分科会	令和8年　5月25日(学習活動) 令和8年　5月27日(観光) 令和8年　5月29日(文化芸術) 令和8年　6月　4日(スポーツ) 令和8年　6月　9日(国内・国際交流)	各分野の定義及び現状と課題について
第2回アカデミー推進協議会	令和8年　7月6日	次期アカデミー推進計画の構成案について
第2回分野別分科会	令和8年　7月23日(学習活動) 令和8年　7月27日(観光) 令和8年　7月29日(国内・国際交流) 令和8年　7月31日(文化芸術) 令和8年　8月　7日(スポーツ)	各分野の施策体系(案)について
第3回アカデミー推進協議会	令和8年　8月21日	次期アカデミー推進計画の構成(案)について
第3回分野別分科会	令和8年　9月　9日(文化芸術) 令和8年　9月14日(スポーツ) 令和8年　9月16日(国内・国際交流) 令和8年　9月18日(学習活動) 令和8年　9月29日(観光)	各分野の施策等について アカデミー推進計画の点検・評価について
第4回アカデミー推進協議会	令和8年　10月29日	次期アカデミー推進計画の素案について アカデミー推進計画の点検・評価について(まとめ)

(2)点検・評価手法

協議会に5つの分科会を設置し、各分野別基本方針ごとに点検・評価を行った。

評価は、令和7年度実施した主要事業(分野別基本方針を支える主な事業、各施策の主な取り組みに基づく)の実績調査結果及び事務局が作成した点検・評価を資料配付し、主要事業の成果に対する評価について意見を聴取した。

分野別基本方針に対する事業を通じた達成状況については、分科会での協議内容を踏まえ、各分科会の座長が総括して点検・評価を行った。

各分科会の委員から出された意見・要望及び座長の意見等について、第　回協議会で報告し、審議を行った後、令和7年度事業の点検・評価とした。

（3）主要な事業の選定と指標・目標の設定について

5分野における主要事業の選定と指標・目標の設定は以下により行った。

また、社会情勢の変化に応じた区民ニーズに柔軟に対応するため、主要事業の選定と指標・目標の設定は、毎年度確認・見直しを行いながら進めることとする。

①指標の設定と毎年度の目標・実績を把握できる事業

分野ごとに評価・点検を行うには、基本方針毎に設定した指標の現状を把握することが重要であるが、アンケート調査に拠らなくては確認できない指標もある。しかし、アンケート調査は、計画策定に向けて実施してきた経緯があり、毎年度実施することは現実的ではない。そこで現状評価の基礎となる事業として、指標を設定し、年度ごとの目標と実績を確認できる事業を選定することが望ましい。一方で短期的な数値の変動で評価することが馴染まない事業や、天候等により変動の大きい事業があることも考慮する必要がある。

②定量的目標を設定できる事業

目標の設定にあたっては、客観的に評価しやすい定量的な方法を採用できる事業が望ましい。事業の性質により、定性的な目標を掲げる場合には、評価主体により評価内容に大きな差が生じないように、目標として掲げる状態を具体的にすることが重要である。

③基本方針、施策の実現に向けた重要性が高い事業

基本方針や施策に掲げた事項の充実が計画の推進おいて重要な事項である。事業の選定にあたっては、基本方針、施策の実現に向けた重要性が高い指標・目標を設定できるものであることを考慮するものとする。

④計画の推進にあたって重視する3つの視点

計画の推進にあたって「人」「環境づくり」「資源活用」の3つの視点を重視しているため、これらの視点を加味して指標を設定することが望ましい。

⑤継続的に実績を評価できる事業

目標は過去から未来への実績を踏まえ、継続的に評価することで、信頼性や妥当性を確保することができる。一方で、新規事業や社会情勢の変化に等により、評価の優先順位が経年により変化する可能性にも留意する必要がある。

（4）事業の目標数値の考え方について

各事業の目標数値は、計画期間中に10％増を達成することを基準とする。（10％は「文の京」総合戦略（令和2年度～令和5年度）における将来人口推計による令和6年度までの直近5年の人口増加率9.2％を上回るもの）なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、実際の人口の増加は推計を下回っていることに留意する必要がある。

また、事業の性質や目標の設定方法により、現状の維持継続が望ましい事業や、さらに高度な目標設定が望ましい事業も想定できる。

3. 新型コロナウイルス感染症の影響について

全世界的に人々の生活や社会経済活動に大きな影響を及ぼした新型コロナウイルス感染症は、日本国内では令和2年4月以降「緊急事態宣言」の発出や「まん延等重点措置」の適用が度々行われましたが、令和5年5月に感染症法上の位置付けが5類へと移行されると、様々な分野の事業が再開されました。

コロナ禍において軒並み中止、延期、規模縮小を余儀なくされた文化芸術・観光・交流・スポーツ関連のイベントは、制約等のある一方で、生活様式の変化により、文化芸術・学習面においてリモートコンサートやオンライン講座など、デジタル・トランスフォーメーションが急速に進みました。

しかし、現在も変異株の流行等による事業中止や縮小等の可能性が、完全に払拭されたわけではありません。今後は、本アカデミー推進計画を着実に前へと進められるよう、普段から迅速かつ的確な対応に努め、感染症等で事業に影響が出た場合でも、これまでの経験を踏まえ、可能な範囲で事業を継続し、その際には、本計画における適切な点検・評価方法を検討していきます。

そして、これからも文京区では、文化芸術・スポーツ等を楽しむ機会を通じ、暮らしの中に安心と豊かさを感じることができるような様々な施策を推進してまいります。

＊感染症法とは、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の略である。

第３章　学習活動分野の点検・評価

１．学習活動分野の評価

文京区アカデミー推進協議会委員（学識経験者）
学習活動分科会座長　荻野　亮吾

学習活動分野について、基本方針ごとに評価する。

基本方針①「だれもが、いつでも、どこでも学べる環境づくり」

令和元年度調査と比較して、1年間に学習活動を行った人の割合が上昇し、目標値を上回っている点を高く評価できる。文京アカデミア講座や文京いきいきアカデミア講座の受講者数は前年度と同水準にあり、夜間や休日の講座開設にも力を入れ、生涯学習の機会の保障が着実になされていることがわかる。また、文京e-ラーニングでYouTubeでの配信を行い、図書館で利用環境の改善や電子図書館機能の充実に取り組むなど、学習ニーズの変化に対応しようとする姿勢も見られる。課題として、生涯学習の相談件数が伸び悩んでいる点が挙げられる。すでに窓口の開設時間をニーズの高い時間帯に統一するなどの改善策を講じているが、相談内容が明確で窓口を利用する区民は限られており、行事やイベントの際の区民の声を拾うなど、アウトリーチ型の相談形式も取り入れることが有効ではないかと考えられる。

基本方針②「学び続けるための活動の支援」

さまざまな方法で学習成果・活動成果を共有し、仲間づくりを進める取組みがなされ、区民の自主的学習を多面的に支援している点を評価できる。ただし、個々の事業には課題が見受けられる。社会教育関係団体のアカデミー施設利用者は前年度を下回り、目標値に達していない。各団体へのヒアリングなどを通じて利用率の向上を図るべきである。サークル展示や活動紹介を行う生涯学習フェアの参加団体数や来場者数も伸び悩んでいる。声かけや広報も重要であるが、開催時期や方式の再検討も必要ではないだろうか。地域アカデミーにおける体験教室ウィークの参加団体数は増加しており、身近な場で活動の成果を共有し、区民の興味・関心を引き出す仕掛けが有効と考えられる。資格取得キャリアアップ講座については、目標値には達していないが、開催講座数を絞り込むことで、受講者数は前年度を上回る成果をあげている。引き続き、区内の大学の特色を生かしつつ、区民ニーズを反映できるようアンケートなどをもとに内容を精査することが重要である。

基本方針③「学びの循環による地域づくり」

個人やNPO等が企画する区民プロデュース講座、大学連携による事業（夏休みこどもアカデミアの拡充など）、区職員が講師となって行政情報を提供する文京お届け講座、文京区の歴史・文化・自然を学ぶ「文京学」講座など、区内の豊かな人材・機関・資源を活かした学習支援が積極的に行われている点を高く評価できる。課題として、文京アカデミアサポーターや、文の京生涯学習司、文の京地域文化インタープリターなどの学習支援者の育成を目指す事業の受講者数の減少が挙げられる。各講座の開催は依然として重要だが、次の段階として、講座の後の活動の支援やネットワークづくりなど、学習の成果を地域に還元・展開する方策に一層力を入れるべきであろう。

現在、検討中の次期の文京区アカデミー推進計画の学習活動分野の施策案では、生涯学習の機会を保障するだけでなく、学習と活動の連環を創り出し、学習の成果を地域に還元していくという生涯学習の流れが強く意識されている。それぞれの講座や事業をこの流れに位置づけた上で、相乗効果を発揮できるような体制づくりを期待したい。

2. 主要事業一覧

分野別基本方針①だれもが、いつでも、どこでも学べる環境づくり		アカデミー推進計画	総合戦略	重点
ア　多様なニーズに応じた学習機会の充実				
1	文京アカデミア講座	○		
2	文京いきいきアカデミア講座	○		
イ　だれもが学びを実践できる支援の充実				
3	夜間･休日の講座開設	○		
4	生涯学習の相談	○		
5	電子図書館機能の充実 【再掲】	○	○	
ウ　身近な学習環境の充実				
6	視聴覚資料等の貸出	○		
7	文京e-ラーニング	○		
8	電子図書館機能の充実	○	○	
エ　地域の学習拠点としての図書館づくり				
9	図書館サービスの充実	○		
10	子どもの読書活動の推進	○		
分野別基本方針②学び続けるための活動の支援		**アカデミー推進計画**	**総合戦略**	**重点**
ア　区民の主体的な学習活動の支援				
11	資格取得キャリアアップ講座	○		
12	社会教育関係団体のアカデミー施設利用者数			
13	社会教育関係団体登録制度による活動支援	○		
イ　活動の成果を披露できる場の充実				
14	生涯学習フェア	○		
15	体験教室ウィーク			
16	文化･芸術に親しむ発表会、大会等の実施【再掲】	○	○	
ウ　学びを通じた交流･仲間づくり				
17	ふれあいサロン	○	○	
分野別基本方針③学びの循環による地域づくり		**アカデミー推進計画**	**総合戦略**	**重点**
ア　地域の学びを促進する人材育成の推進				
18	人材育成のための講座	○		
19	学習支援者スキルアップ講座	○		
イ　人材活用の仕組みの構築				
20	区民プロデュース講座	○		
21	各種講座･展示会の企画への起用	○		
ウ　地域の資源を活かして学びを深める取組の推進				
22	大学連携による各種事業	○		
23	文京お届け講座	○		
24	「文京学」講座	○		

※総合戦略の欄は、「文の京」総合戦略（令和6年度～令和9年度）に掲載されている事業。

※重点の欄は、令和7年度に文京区の重点施策として選定された事業。

3. 分野別基本方針に対する事業を通じた達成状況

(1)分野別基本方針① だれもが、いつでも、どこでも学べる環境づくり

指標	現状値		目標値
1年間に学習活動を行った人の割合	67.2% （令和元年度調査）	75.7% （令和７年度調査）	70.0%

【分野別基本方針①だれもが、いつでも、どこでも学べる環境づくりの状況】

多様なニーズに応じた学習機会の充実では、文京アカデミア講座において、協定締結自治体や国外の友好都市等をテーマとした講座を提供するなど、幅広いうえに区のオリジナリティを活かした学習機会の充実を図ることで、高い評価を得ました。引き続き、関連自治体に関する講座や区内大学等との連携講座をさらに充実させ、質の高い学習機会の提供に努めます。

だれもが学びを実践できる支援の充実では、多様な区民ニーズに応えるため、昨年度に引き続き夜間と休日に全22講座を開講しました。平日昼間に参加できない層の学習機会確保により、新たな学びの意欲喚起に繋がったため、さらに潜在的ニーズの掘り起こしや効果的な周知を行います。生涯学習窓口では、開設日時をニーズが高い午後の時間帯に統一し、効果的な相談対応に努めましたが、前年度を下回る結果となったため、効果的な広報や窓口を積極的に案内するなど、相談件数の増加に向けた働きかけを行います。

身近な学習環境の充実では、新たに特別公開講座の配信、令和7年12月からより身近なYouTubeでの配信に切り替えたことで、アクセス数は前年度を大きく上回り、受講者層の拡大と利便性の向上に繋がりました。また、電子図書館機能の充実において、電子書籍の計画的な購入により蔵書の充実を図るとともに体験会を実施し、更なる利用の拡大を図りました。今後も読み放題パックの更なる拡充を図り、児童の電子書籍の充実を図るとともに、新たなサービスとして音楽配信サービスを導入します。

地域の学習拠点としての図書館づくりでは、図書館サービスの充実として図書館システムの更新を実施し、全館にICタグを活用したセルフ貸出機等を導入することにより、貸出手続きの迅速化やプライバシーの一層の配慮等、利用環境の充実を図りました。今後は、3D書架をWeb上に構築し、時間や場所に捉われない新たなサービスを提供するなど、更なる利便性の向上を図ります。

今後様々な取組を進めていくことで、状況に応じた学習を実践できるよう、ICTの特性を有効に活用し、だれもが、いつでも、どこでも学べる環境づくりを推進します。

【アカデミー推進協議会の意見】

◎本計画では定量的な目標値を軸に評価してきたと思うが、定量的な評価だけでなく、定性的、質的な評価も重要であると考える。

◎生涯学習相談の件数減少について、夜間や土日の開設など、時間帯を検討してほしい。

◎人口減少社会を踏まえ、アンケート等の満足度など、質的評価の適切な反映を希望する。

◎相談機能については、窓口を訪れる強い意思を持つ人だけでなく、様々な人の声を拾える柔軟な仕組みが望ましい。

(2)分野別基本方針② 学び続けるための活動の支援

指標		社会教育関係団体のアカデミー施設利用者数			
現状値 (令和元年度)	目標値	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値
161,731人	167,000人	102,057人	113,394人	140,807人	134,470人

【分野別基本方針② 学び続けるための活動の支援の状況】

区民の主体的な学習活動の支援では、学び続けるための活動支援の指標である社会教育関係団体のアカデミー施設利用者数は、前年度まで順調に回復していましたが、令和7年度は目標値の8割5分程度で前年度を下回りました。社会教育関係団体のアカデミー施設利用は、区民の活動を通じた交流の場の提供や自主的な活動の支援につながることから、今後も団体の活動に触れる機会を設けることで、参加を促していきます。

活動成果を披露できる場の充実では、生涯学習フェアにおいてサークル展示や活動紹介を行いましたが、参加団体と来場者数はともに前回を下回りました。この取組は、日頃の学習成果の披露や区民同士の交流機会の提供など、学習意欲の向上等に繋がることから、生涯学習団体等からの声を踏まえた分析を行い、新たな団体の発掘やSNS等を通じた広報の強化などにより、事業の活性化を図ります。

学びを通じた交流・仲間づくりの推進では、地域活動センターのふれあいサロン事業において、今年度は昨年度よりも5講座多く実施することで、様々な世代に参加機会を提供し、社会福祉協議会との連携では、区民間の交流を進めることができました。これからも、地域ニーズに即した講座を実施できるよう、アンケート内容を踏まえて人材発掘につながる講座を充実させ、区民間の交流を促進していきます。

学習活動を継続していくためには、仲間や成果発表の場が重要であり、学びによる効果的な気づきの場でもあります。自らの学習を振り返り、やりがいと達成感を得ることのできる、継続的な学習活動への取組を支援します。

【アカデミー推進協議会の意見】

◎資格取得キャリアアップ講座について、単に講座数を増やすのではなく、ニーズに合致した設置及び内容とする工夫を希望する。

◎区独自の資格である文の京生涯学習司、文の京地域文化インタープリター等について、そのPRや体系化、資格取得後の活動支援を強化してほしい。

◎DXやリカレント教育など、時代のニーズに合わせた講座内容の再構築が必要であると考える。

（3）分野別基本方針③　学びの循環による地域づくり

指標	現状値		目標値
これまでに学んだ内容を他人や地域のために活かした人の割合	19.1% （令和元年度）	19.8% （令和７年度）	25.0%

【分野別基本方針③　学びの循環による地域づくりの状況】

地域の学びを促進する人材育成の推進では、文の京地域文化インタープリターの活動を安定的に支援するとともに、文京アカデミアサポーター養成講座においては、現在の活動実績に即した講座内容に見直しました。受講者減の課題はあるものの、関係機関と協働して事業を支える新たな人材を育成し、地域における生涯学習の活性化につながる成果を得ました。幅広い年代の多くに受講を促すため、受けやすい日程の設定等に継続して取り組み、育成人材が終了後も意欲的に活動を継続できるよう、関係機関とも連携した体制の充実に努めます。

人材活用の仕組みの構築では、区民プロデュース講座において、新たな人材の掘り起こしに努め、連携団体からの提案によるアカデミア講座等、多彩なメニューを実施しました。各期を通じて定員を上回る応募があり、区民の関心の高さとニーズを的確に捉えた講座を運営しました。各種講座の企画への起用件数は減となったが、各団体の主体的な活動を支援する体制づくりに努め、区民のニーズに応える質の高い生涯学習の機会提供につなげました。

地域の資源を活かして学びを深める取組の推進では、区内各大学との情報共有をはかることで、双方の強みを生かした講座企画を展開しました。令和7年度は、夏休みこどもアカデミアを拡充実施したほか、多くの講座で定数超えの応募がありました。受講者の増には結びついていませんが、大学の専門的知見を活かした多様な講座を提供し、区民の知的好奇心を満たす機会確保につながりました。大学と連携した質の高い講座企画を継続し、より多くの区民がその知見に触れる機会を得られるよう、効果的な事業展開と参加機会の創出に努めます。「文京学」講座では、区民の地域学習への高いニーズに応え、区の歴史や文化、ゆかりの自治体に対する理解を深める取組を行いました。引き続き、地域に根ざしたテーマの講座を企画し、地域への愛着醸成を図ります。

学習活動を通して知識やスキルを得た区民が担い手となり、様々な地域活動から地域がつながっていく仕組みの構築により、地域コミュニティの活性化につなげていきます。

【アカデミー推進協議会の意見】

◎学びの成果の活用に関する指標は、目標値が高すぎて達成が困難だと考える。

◎資格養成講座などを隔年でなく毎年開催したり、受講後のネットワーク作りや活躍の場を保証・支援したり、学びの循環を強化することが大切であると思う。

◎文京お届け講座について、オンライン申請導入などの対応により、実施件数が大幅に増えた点を評価する。

4. 主要事業の成果に対する評価

（1）分野別基本方針①　だれもが、いつでも、どこでも学べる環境づくり
ア　多様なニーズに応じた学習機会の充実

1-①-ア　文京アカデミア講座

事業概要

区民の学習を支援するため、地域、文学、歴史・社会、自然科学、芸術、くらし、語学、健康・スポーツなど、バラエティに富んだ講座を提供します。

指標：受講者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	1,802	2,000	2,250	2,500	2,500
実績（D）	1,646	1,998	1,918	1,965	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	年間を通じ、幅広い分野の講座の提供が叶ったほか、文京アカデミアサポーターの協力により、充実した講座運営に繋がりました。一方で定員割れの講座については、設定時期や時間の関係、或いはコロナ禍による影響もあったものと思われます。	一部、定員に満たない講座もあったことから、講座内容や周知方法の工夫により、受講者の増加を図ります。
R5	生涯学習支援者等による企画提案のほか、大学からの新たな提案もあり、幅広い分野かつ、アンケートによる満足度の高い講座を提供しました。	これまでのメニューを継続しつつ、新たな主体との協働にも注力し、講座メニューの充実を図ります。
R6	これまでに囚われることなく、幅広く多彩なメニューを用意し、概ね、定員を超える申し込みにつながり、また、アンケートでも高い評価を得ました。	関連自治体との協力講座や文京区にゆかりのある人物、事象に関する講座等、オリジナリティを活かした幅広い講座の提供に努めます。
R7	国内の協定自治体や国外の友好都市等をテーマとした幅広い講座を提供し、本区のオリジナリティを活かした学習機会の充実を図ることで、交流自治体への区民の理解と認知度を高める内容となり、アンケートでも高い評価を得ました。	国内外の協定自治体・友好都市等に関する講座を継続実施するとともに、区内大学等との連携による協力講座をさらに充実させます。本区独自のネットワークや多様な「知の資源」を活かし、区民のニーズに応える質の高い学習機会の提供に努めます。

1－①－ア　文京いきいきアカデミア講座

事業概要

高齢者を対象とした２年制講座。１年次は教養課程で共通科目を履修し、２年次の専門課程に進みます。専門課程は、共通科目と選択科目を受講し、所定の受講回数（単位）をもって卒業認定とします。

指標：受講者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	40	40	60	60	60
実績（D）	40	37	60	57	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	第８期の初年度として40名が教養課程を受講し、履修により、広く基礎を学んだ37名が進級しました。様々な事業がある中でも単位を修得し、進級・卒業できるようサポートする必要があります。	受講生同士のコミュニケーションを密にするほか、モチベーションの維持・向上について工夫していきます。
R5	進級した37名が専門課程で学び、そのうち必要単位を取得した33名が卒業しました。全体的に出席率が高く、講座科目も好評であり、学習のみならず、仲間づくりにも繋がりました。	教養課程の魅力ある講座科目の工夫により、進級のサポートとモチベーション維持に努めます。
R6	コロナ禍を経て定員を60名に増員しました。教養課程として、これまでと趣向の異なるプログラムも用意し、必要単位を取得した57名が進級しました。	ミュージアムネット施設の見学、アカデミア講座受講を中心に、モチベーションを維持し全員が卒業できるよう、丁寧にサポートします。
R7	受講生への丁寧なサポートに努めた結果、全体的に高い出席率を維持し、進級した57名のうち54名が必要単位を取得して卒業しました。講座内容も好評を得たほか、学習活動を通じた受講生同士の仲間づくりにも繋がるなど、高齢者の多様な学習ニーズへの対応や生きがいづくりにおいて成果を得ました。	区の現状や魅力を学ぶ講座や、健康・経済・趣味など、日々の生活を豊かにする情報を共通講座として展開します。地域の歴史・課題や実用的な知識を共に学ぶことで受講生同士の交流を深めるとともに、一人ひとりに寄り添ったサポートを継続し、高齢者の学習意欲の向上と地域における生きがいづくりに繋げます。

イ だれもが学びを実践できる支援の充実

1－①－イ 夜間･休日の講座開設

事業概要

平日の昼間に講座を受講することが困難な方のために、平日夜間や休日にも講座を開設します。

指標:受講者数(人)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標(P)	439	500	500	500	500
実績(D)	370	405	492	478	

	成果･評価(D･C)	次年度に向けた取組等(A)
R4	文京アカデミア講座において19講座を平日の夜間や休日に実施し、アンケートで高い評価を得ることができました。一方で、社会情勢などを的確に捉えた講座選定等を行う必要があります。	アカデミア講座全体のバランスを考慮しつつ、アンケート結果を分析し、ニーズに合わせた講座を検討・企画していきます。
R5	アカデミア講座において全16講座を夜間・休日に開講したほか、メセナ講演会、特別公開講座についても休日に開講したことで、新たな参加者層の確保とニーズの把握に繋がりました。	大学構内における休日・夜間開講について検討するほか、幅広い年代の受講となるよう、より学びやすい学習環境の提供について検討していきます。
R6	アカデミア講座において全20講座を夜間・休日に開講したほか、特別公開講座についても休日に開講したことで、新たな参加者層の確保とニーズの把握に繋がりました。	大学での実施検討を継続するほか、アカデミー文京においても人員配置の勘案やアカデミア講座サポーターとの調整について、より学びやすい学習環境の提供について検討していきます。
R7	多様な区民ニーズに応えるため、夜間・休日に全22講座を開講しました。受講者は微減でしたが、平日昼間に参加できない層の学習機会の確保と、新たな学びの意欲の喚起に繋がりました。	さらなる参加者の確保に向け、潜在的ニーズの掘り起こしや効果的な周知を行います。

1－①－イ　生涯学習の相談

事業概要

区民がそれぞれのニーズや目的に応じて生涯学習に取組めるよう総合的に紹介等を行います。

指標：相談件数（件）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	180	180	190	200	200
実績（D）	171	140	165	104	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	原則、週３回、文の京生涯学習司による「生涯学習相談」を通年で実施し、広く相談を受け付けたほか、区内の生涯学習サークルの活動や情報も紹介しました。また、コロナ禍で外出を自粛したことと合わせ、生涯学習活動の不活性があったものと推測される一方で、区民プロデュースに関しては多くの相談があり、魅力ある講座が提案されました。	令和５年度より週２回に変更となりましたが、現在の体系を維持するとともに、より本事業の周知に注力し、事業周知の範囲とアプローチの手法についても検討していきます。
R5	実施日数が週２回となった期間もありましたが、年間を通して提案・相談を受けられる体制の強化として相談員の増員を行い、環境を再構築したうえで継続しました。	本体制を継続しつつ、一層充実した企画提案が叶う体制・環境の醸成について、支援者団体等と課題や情報共有にも努めます。
R6	文の京生涯学習司による「生涯学習相談」を通年で実施し、広く相談を受け付けたほか、区内の生涯学習サークルの活動や情報を紹介する「生涯学習フェア」も通常開催しました。	相談の多い時期、曜日、時間帯に合わせた窓口開設や人員の増と併せ、適切にかつ効果的に周知することにより、区民の学びのきっかけ作りや継続の一助となるよう努めます。
R7	窓口開設日時をニーズが高い午後の時間帯に統一し、相談者が利用しやすく、効果的な相談対応に努めましたが前年を下回る結果となりました。	午後の時間帯に統一した相談窓口の定着を図るとともに、効果的な広報を工夫や財団の事業等で相談窓口を積極的に案内するなど、相談件数の増加に向けた働きかけを行っていきます。

1－①－イ　電子図書館機能の充実【再掲】

事業概要

電子書籍やオーディオブックといった電子媒体資料や、デジタル化した地域資料を提供することにより、図書館に来館することが困難な方も含め、様々な利用者の読書活動を推進します。

指標：電子書籍の貸出数（点）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	28,120	28,500	29,000	29,500	30,000
実績（D）	28,120	33,991	39,318	33,339	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	電子書籍については、資料の特性や利用動向を考慮した選定を行い、提供しました。文の京デジタル文庫に、大正期の小石川植物園の図版、人口統計資料など、郷土資料及び行政資料を追加しました。	電子書籍等については、魅力ある蔵書とするため、計画的に選定・収集するとともに、特集を組むなど周知を強化し、一層の利用促進を図ります。また、地域資料のデジタル化を進め、広報に努めます。
R5	計画的な購入により、蔵書数を増やすとともに、8月を「電子図書館周知強化月間」とし、ポスター掲示、利用案内の作成・配布、「健康」「料理」等ジャンルごとのQRコードを印字したカードの作成・配布等に取り組んだ結果、貸出数の増加につながりました。	更なる貸出数や予約数の増加を図るため、令和5年度に行った取組内容に加え、周知活動の強化や魅力ある書籍の選定等を行うとともに、読書バリアフリー化に取り組みます。
R6	前年度に引き続き、10月に「電子図書館周知強化月間」として、ポスターの掲示及び利用案内の作成・配布を行ったほか、電子図書館の体験会を実施し、更なる利用の拡大を図りました。 また、オーディオブックの普及を図るため、朗読と音楽を融合したイベントを実施しました。	魅力ある書籍の充実に引き続き取り組み、更なる貸出数や予約数の向上を図るとともに、児童図書に閲覧制限のない読み放題パックの拡充を図り、児童の電子書籍の利用を推進していきます。
R7	計画的な購入により蔵書の充実を図るとともに電子書籍の体験会を実施し、更なる利用の拡大を図りました。	読み放題パックのさらなる拡充を図り、児童の電子書籍の充実を図ります。また、新たなサービスとして音楽配信サービスを導入します。

ウ 身近な学習環境の充実

1－①－ウ 視聴覚資料等の貸出

事業概要

学習や地域活動に必要な視聴覚学習資料を地域の保育園、図書館、社会教育登録団体、個人等に貸出しを行います。

指標:貸出件数(件)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標(P)	160	160	160	160	160
実績(D)	200	180	160	127	

	成果・評価(D・C)	次年度に向けた取組等(A)
R4	各団体等に対し、広く貸出に対応したほか、ニーズに合わせて新規に資料を購入しました。また、視聴覚ライブラリー目録の改訂版を発行しました。個人利用が増加したこととともに、町内会組織等による利用については、コロナの一定の収束に伴い、活動が再開されたことに起因するものと推測されます。	18ミリをはじめ、フィルムの適正な保存環境の整備と映写技術者の確保・育成について、検討を進めます。
R5	各団体等に対する貸出を継続したほか、支援者団体の意見も取り入れた新規資料を購入をしました。また、適正な保管環境整備のため、除湿器を設置しました。	より広い貸出と並行して、貴重な資料であるフィルムの現況確認と適正な保存環境の整備について、検討を継続します。
R6	各団体等に対する貸出を継続したほか、支援者団体の意見も取り入れた新規資料を購入をしました。また、フィルム外装の掃除など、適正な保管に努めました。	より広い貸出と並行して、貴重な資料であるフィルムの現況確認に関する人員配置や適正な保存環境の整備について、検討を継続します。
R7	保育園・図書館等に対し、計127件の貸出を行いました。また、貴重な視聴覚資料である16ミリフィルムについて、適正な保存環境の維持や現況確認に継続して取り組み、より良い状態での提供に努めました。	保育園・図書館等の学習ニーズに応じた視聴覚資料の貸出を継続するとともに、16ミリフィルムの適正な保管・現況確認等の環境整備に引き続き取り組みます。

1－①－ウ　文京e-ラーニング

事業概要

外出困難な人や時間に制約のある人などを対象に、時間や場所に関係なく各種講座等を受講できるように、インターネットを活用した講座を配信します。

指標：アクセス数（件）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	7,000	8,000	9,000	10,000	10,000
実績（D）	6,649	2,563	2,117	3,155	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	新たに、特別公開講座を含めて27番組収録・配信したほか、これまでに実施した講座も継続して配信し、ライフスタイルに応じた視聴環境の提供につなげました。しかし、掲載していたメニューが著作権の承認期間の経過により、公開を終了したことが、目標値に達しなかった大きな要因の一つと思われます。	配信する主体や講座内容の拡充と並行し、インターネット配信に適した講座について検討します。また、アカデミア講座「十八の町物語」をアーカイブ化し公開することで、新たな視聴者層の獲得に努めます。
R5	新たに学長講演会、特別公開講座の２番組を掲載ました。一定のＩＴリテラシーや環境が必要なほか、依然として掲載メニュー減少の影響が大きく、前年度より実績が減っていますが、時間と場所を選ばない学習機会を提供しました。	スマートフォンやタブレットなどのIT機器が普及している中、e-ラーニングの重要性を強く認識していることから、ＳＮＳの活用をはじめ、一層の事業周知とあわせ、大学講座のオンライン・オンデマンド配信等の協力を求めるなど、番組数の増とコンテンツの充実を図ることにより視聴数増と視聴者層拡充を図ります。
R6	特別公開講座、及び大学学長講演会の２番組を公開しました。一定のＩＴリテラシーや環境が必要なほか、依然として掲載メニュー減少の影響が大きく、目標値とは乖離がありますが、時間と場所を選ばない学習機会の提供に努めました。なお、ＺＯＯＭにより実施する最先端生命科学講座は各回とも定員を上回る申し込みがあり、講師と調整のうえ、最大限可能な人数を受け入れました。	講義形式の講座内容の公開に限らず、新たに掲載メニューを具体的に検討することで、提供コンテンツの充実と、アカデミア講座等においても事業周知により、受講者層の拡大に努めます。
R7	特別公開講座を新たに配信しました。また、昨年12月からより身近なプラットフォームであるYouTubeでの配信に切り替えたことで視聴のハードルが下がり、アクセス数は前年度を大きく上回る3,155件を記録しました。配信方法の改善により、受講者層の拡大と利便性向上に繋がりました。	アクセス数増加に繋がったYouTubeでの配信を通して、視聴者の利便性向上を維持します。今後も、多様な学習ニーズに応える新たなコンテンツの企画・追加を検討するとともに、各種媒体を通じた周知を強化し、受講機会のさらなる拡大を図ります。

1－①－ウ　電子図書館機能の充実

事業概要

電子書籍やオーディオブックといった電子媒体資料や、デジタル化した地域資料を提供することにより、図書館に来館することが困難な方も含め、様々な利用者の読書活動を推進します。

指標：電子書籍の貸出数（点）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	28,120	28,500	29,000	29,500	30,000
実績（D）	28,120	33,991	39,318	33,339	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	電子書籍については、資料の特性や利用動向を考慮した選定を行い、提供しました。文の京デジタル文庫に、大正期の小石川植物園の図版、人口統計資料など、郷土資料及び行政資料を追加しました。	電子書籍等については、魅力ある蔵書とするため、計画的に選定・収集するとともに、特集を組むなど周知を強化し、一層の利用促進を図ります。また、地域資料のデジタル化を進め、広報に努めます。
R5	計画的な購入により、蔵書数を増やすとともに、８月を「電子図書館周知強化月間」とし、ポスター掲示、利用案内の作成・配布、「健康」「料理」等ジャンルごとのQRコードを印字したカードの作成・配布等に取り組んだ結果、貸出数の増加につながりました。	令和５年度に行った取組内容を踏まえ、更なる貸出数や予約数の増加を図るため、周知活動の強化や魅力ある書籍の選定等を行うとともに、読書バリアフリー化に取り組みます。
R6	前年度に引き続き、10月に「電子図書館周知強化月間」として、ポスターの掲示及び利用案内の作成・配布を行ったほか、電子図書館の体験会を実施し、更なる利用の拡大を図りました。	魅力ある書籍の充実に引き続き取り組み、更なる貸出数や予約数の向上を図るとともに、児童図書に閲覧制限のない読み放題パックを導入し、児童の電子書籍の利用を推進していきます。
R7	計画的な購入により蔵書の充実を図るとともに電子書籍の体験会を実施し、更なる利用の拡大を図りました。	読み放題パックのさらなる拡充を図り、児童の電子書籍の充実を図ります。また、新たなサービスとして音楽配信サービスを導入します。

エ　地域の学習拠点としての図書館づくり

1－①－エ　図書館サービスの充実

事業概要

図書館資料やレファレンスサービス等の充実を図るほか、各種行事や資料の特集展示などを行い、図書館の利用促進と区民の読書活動の推進を図ります。

指標：総貸出数（冊・点）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	3,846,252	3,911,000	3,977,000	4,045,000	4,114,000
実績（D）	3,846,252	3,723,216	3,558,422	3,330,805	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	図書館資料の充実を図るとともに、時節に応じた特集展示を区立図書館全体で年間1,200回実施しました。また、森鷗外没後100年、樋口一葉生誕150年記念事業を含む様々な行事にも取り組み、区民の読書活動の推進を図りました。	図書館資料の充実を進め、利用者の興味関心を引き出す様々なテーマの行事や特集展示を実施するほか、令和５年度においては「藩校サミット」関連事業などにも取り組むことにより、区民の身近な学習拠点として多様なニーズに対応した資料提供と情報発信を図ります。
R5	区民の読書活動の推進を図るため、図書館資料の充実を図るとともに、全館で「藩校サミット」「関東大震災100年」等、区の事業に関連した取組を実施したほか、各館が様々な行事や時節に応じた特集展示を実施しました。	引き続き、図書館資料の充実や、利用者の興味関心を引き出す様々なテーマの行事や特集展示を実施します。また、令和６年度においては石川県金沢市及び熊本県玉名市との協定締結5周年に関する事業等に取り組むほか、区民の身近な学習拠点として、閲覧環境の整備を図ります。
R6	区立図書館の「学びの拠点」としての機能向上を図るため、真砂中央図書館及び水道端図書館において、電源付き閲覧席の増設を行いました。 また、文京区ゆかりの文学者に関する事業に取り組み、熊本県玉名市との協定締結５周年に伴い夏目漱石に関する展示や講演会を実施したほか、吉本隆明氏生誕100年を記念して氏とその家族の作品展示などを行いました。	引き続き、図書館資料の充実を進め、図書館の利用促進及び区民の読書活動の推進を図るとともに、図書館システムを更新し、全館でICタグを活用したセルフ貸出機・返却機の導入を行う等、更なる図書館利用の利便性の向上を図っていきます。
R7	図書館システムの更新を実施し、全館にICタグを活用したセルフ貸出機等を導入しました。これにより、貸出手続の迅速化やプライバシーの一層の配慮等、利用環境の充実を図りました。	背表紙画像を活用した3D書架をWeb上に構築し、時間や場所にとらわれない新たな図書館利用サービスを提供します。また、シビックセンターに予約した資料の受け取りロッカーを設置し、更なる利便性の向上を図ります。

1－①－エ　子どもの読書活動の推進

事業概要

子どもたちが生涯にわたり読書習慣を身につけられるよう、発達段階に応じた行事や読書支援を行います。また、保護者への啓発や地域団体等との連携により、子どもの読書環境の整備に取り組みます。

指標:児童図書貸出数(冊)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標(P)	1,252,301	1,273,000	1,295,000	1,317,000	1,339,000
実績(D)	1,252,301	1,215,183	1,165,835	1,090,397	

	成果・評価(D・C)	次年度に向けた取組等(A)
R4	「子ども読書活動推進計画」に基づく読書環境の整備と読書活動の充実を図るため、ブックリストの作成や、図書の充実、保護者や子どもへの啓発を行い、区立図書館の利用促進を図りました。読み聞かせやおはなし会などの行事を実施し、親子や子どもが本に親しむ機会を提供しました。	引き続き、「子ども読書活動推進計画」に掲げる37の事業について、関係機関との連携のもと、着実に実施します。図書館においては、子どもの発達段階に応じたブックリストの作成・紹介や各種行事を実施し、子どもたちに多くの読書機会を提供するとともに保護者向け講演会等を行い、啓発を行います。さらに、地域の保育園、幼稚園、小・中学校への図書の貸出や出張おはなし会等を実施し、地域の読書活動を支援します。
R5	「子ども読書活動推進計画」に基づく読書環境の整備と読書活動の充実を図るため、ブックリストの作成や、図書の充実、保護者や子どもへの啓発を行い、区立図書館の利用促進を図りました。読み聞かせやおはなし会などの行事を実施し、親子や子どもが本に親しむ機会を提供しました。令和５年度より保健サービスセンターからの依頼に基づき、「あつまれ！フレッシュママ」へ図書館員が出張し読み聞かせをする取り組みを新たに始め、一層の子どもの読書環境の整備に取り組みました。	引き続き、「子ども読書活動推進計画」に掲げる37事業について、関係機関との連携のもと、着実に実施します。図書館においては、子どもの発達段階に応じたブックリストの作成・紹介や各種行事を実施し、子どもたちに多くの読書機会を提供するとともに保護者向け講演会等を行い、啓発を行います。さらに、地域の保育園、幼稚園、小・中学校への図書の貸出や出張おはなし会等を実施し、地域の読書活動を支援します。子どもが過ごしやすい図書館を目指し、職員一人ひとりのスキルアップを目指します。
R6	「子ども読書活動推進計画」に基づく読書環境の整備と読書活動の充実を図るため、発達段階に応じたブックリストの作成や、図書の充実、保護者や子どもへの啓発を行い、区立図書館の利用促進を図りました。読み聞かせやおはなし会などの行事を実施し、親子や子どもが本に親しむ機会を提供しました。また、他部署や地域のイベントと連携した出張おはなし会など、図書館以外の場における取り組みを行い、子どもの読書環境の一層の整備に取り組みました。	引き続き、「子ども読書活動推進計画」に掲げる37事業について、関係機関との連携のもと、着実に実施します。図書館においては、子どもの発達段階に応じたブックリストの更新・紹介や各種行事を充実させ、子どもたちに多くの読書機会を提供するとともに保護者向け講演会等を行い、啓発を行います。さらに、地域の保育園、幼稚園、小・中学校への図書の貸出や出張おはなし会等を実施し、地域の読書活動を支援します。子どもが過ごしやすい図書館、来館したくなる図書館を目指し職員一人ひとりが創意工夫していきます。

R7	「子ども読書活動推進計画」に基づき、発達段階に応じたブックリストの作成や、図書の充実、保護者やこどもへの啓発を行い、区立図書館の利用促進を図りました。読み聞かせやおはなし会などの行事を実施し、親子やこどもが本に親しむ機会を提供しました。他部署や地域のイベントと連携した出張おはなし会など、図書館以外の場における取り組みを行い、こどもの読書環境の一層の整備に取り組みました。また、こどもの読書環境を整備するため、令和８年度～12年度までの「子ども読書活動推進計画」を策定しました。	新たに策定しました「子ども読書活動推進計画」に基づき、ブックリストの更新・紹介や各種行事により、発達段階に応じた多くの読書機会を提供するとともに、多様なこどもたちへの読書機会の充実を図ります。 また、こどもたちの読書意欲を喚起するため、小学生及び中高生世代向け電子書籍の充実を図るとともに、区立小中学校の全児童・生徒並びに希望する区内在住・在学の小中学生及び高校生世代を対象に、電子書籍のＩＤ・パスワードを交付し、タブレットによる電子書籍の利用環境を整えます。

(2)分野別基本方針② 学び続けるための活動の支援
ア 区民の主体的な学習活動の支援

1－②－ア 資格取得キャリアアップ講座

事業概要

区民の資格取得やキャリアアップを支援するため、区内大学と連携し、大学で開講する講座を区民が受講する際に一部補助を行い、区民の資格取得やキャリアアップを支援します。

指標:受講者数(人)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標(P)	70	70	70	70	70
実績(D)	31	33	31	35	

	成果・評価(D・C)	次年度に向けた取組等(A)
R4	平時から連携している区内大学による資格取得に直結した講座により、能力の習熟に繋がりました。しかし、定員に満たない講座があったことから、受講者数を増やすための取組が必要です。	ラインナップの充実と合わせ、内容や日時のほか、タイトルや導入文にも工夫を重ねるなど、広報にも工夫し受講者の増加につなげます。
R5	区内大学との協働により、主としてオンデマンドにより５講座を実施しました。学習時間の確保やモチベーション維持にも課題があると思われ、定員には達しませんでしたが、一人ひとりのライフスタイルに応じたキャリア選択や、新たなステージで求められるスキルアップに繋がりました。	時事に即したメニューや、技術・技能等のスキル向上に関する専門的、実践的な講座提案について依頼するとともに、区報やＳＮＳも活用するなど、一層の事業周知に努めます。
R6	これまで同様、資格取得に直結した５講座について、様々な環境やライススタイルに合わせた学習機会の提供となるよう、オンデマンド視聴やe-ラーニング形式により実施しました。 定員には達していませんが、必要なタイミングでの学び直しと、仕事に役立つスキル習得に繋がりました。	資格取得以外にも、語学や、メンタルヘルス等、時事に即したメニューやいくつになっても学び直しができるメニューの提案について依頼するとともに、アカデミア講座等においても事業周知に努めます。
R7	区内大学と連携し、区民のキャリアアップや学び直しを支援するため、６講座を実施しました。時事に即したメニューの提案を大学へ依頼するとともに事業周知に努めた結果、講座数・定員を絞ったものの全体の受講者数は前年度を上回りました。	受講者数増加を踏まえ、時事や学び直しに対応したメニュー提供と周知に努めます。また、他の区内大学との連携についても検討を進め、各大学の特色を活かした講座を拡充し、より効果的なキャリアアップや学び直しの機会を創出していきます。

1－②－ア　社会教育関係団体のアカデミー施設利用者数

事業概要

区民の自主的な文化・スポーツ・学習活動を促進するため、一定の要件を満たす団体を社会教育関係団体として登録し、その団体の施設利用を支援します。

指標:社会教育関係団体のアカデミー施設利用者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	102,057	135,000	150,000	160,000	167,000
実績（D）	102,057	113,394	140,807	134,470	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	多くの社会教育関係団体によるアカデミー施設の利用があり、学習活動を通じて交流できる場を提供することで、区民の主体的な活動を支援することができました。	新型コロナ感染症の影響で活動を控える団体が多かったですが、令和８年度の167,000人の利用を目標に、引続き社会教育関係団体登録制度と並行して、活動の場を提供します。
R5	令和５年度は感染症による制限が全面的に撤廃された結果、多くの施設利用があり、区民の自主的なサークル・団体活動を支援することができました。	区民に活動の場を提供するとともに、社会教育関係団体への参加も促していきます。
R6	多くの社会教育関係団体によるアカデミー施設の利用があり、文化・スポーツ・学習活動を通じて交流できる場を提供することで、区民の主体的な活動を支援することができました。	引続き、区民に活動の場を提供するとともに、社会教育関係団体の活動に参加する機会を設けることで、参加を促していきます。
R7	社会教育関係団体の活動に参加する機会を設け、交流できる場を提供することで、区民の自発的な活動を支援することができました。	令和８年度の目標に向け、区民に社会教育関係団体の活動に参加する機会を設けるとともに、活動への参加を促していきます。

1－②－ア　社会教育関係団体登録制度による活動支援

事業概要

区民の自主的な文化・スポーツ・学習活動を促進するため、一定の要件を満たす団体を社会教育関係団体として登録し、施設の優先利用や利用料金の減額などを行い、その活動を支援します。

令和8年度に向けた目標（P）

登録団体の活動内容を正確に把握し、広く区民に周知することで、団体活動の活性化と区民に各種活動への参加機会を提供し、区民の自主的な文化・スポーツ・学習活動を支援します。

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	登録団体名簿の関連施設への配架及びホームページへの掲載により、登録団体を広く周知し、区民の自主的な活動の促進につながりました。 また、３年に一度の更新を実施し、活動している団体をより正確に把握することができました。	引続き、区民の自主的な活動促進のため、登録団体名簿を更新し、関連施設へ配架の上、ホームページへ掲載します。登録団体の活動内容を正確に把握し、区民へ活動実績の周知を図ります。
R5	関連施設への登録団体名簿の配架やホームページの更新により、正確な情報を周知することで、区民へ活動への参加を促すことができました。 また、実績報告書の提出を求めることで、団体の活動内容を把握をすることができました。	登録団体名簿やホームページの更新に加え、登録団体からの実績報告書の提出により、活動内容を正確に把握していきます。その上で、引き続き、区民の自主的な活動促進を図ります。
R6	登録団体からの実績報告書の提出により、活動内容を正確に把握し、登録団体名簿やホームページの更新を行ったことで、区民の自主的な活動を促すことができました。	３年に一度の登録更新により、活動している団体を正確に把握、周知することで、区民の自主的な活動促進を図ります。
R7	登録の更新手続きにより、各団体の活動状況を正確に把握するとともに、日頃の新たな申請や変更申請に基づき、登録団体名簿やホームページを適宜更新し、その情報を周知することで、区民の活動への参加につなげることができました。	引続き、区民の主体的な活動を促進するため、登録団体の情報を名簿及びホームページへ掲載し、活動実績を区民へ周知することで、活動への参加を促します。

イ 活動の成果を披露できる場の充実

1－②－イ 生涯学習フェア

事業概要

文京アカデミア講座や区内大学生涯学習センターの紹介、講座受講相談を実施し、区民に対し生涯学習活動への参加を促す機会をつくるとともに、区内サークルの活動紹介や体験コーナー、ステージでの活動発表等を行うことにより、学習成果披露の場や区民同士の交流の機会を提供します。

指標：来場者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	590	1,100	1,200	1,300	1,400
実績（D）	590	500	730	379	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	アカデミア講座や区内大学生涯学習センター、区内で活動する生涯学習サークルの活動紹介のほか、ステージ発表等により、区民の学びを表現する場を設けることで、学習意欲の向上を図りました。	引き続き、学習成果の発表機会提供と団体間の交流を図るとともに、活動意欲向上、及び新たな一歩を踏み出す契機に繋がるよう、団体との連携や広報に工夫をします。
R5	シビックセンター改修工事に伴い、サークルの展示や活動紹介の会場が、例年と異なりアートサロン１会場のみでの実施となりました。展示団体や展示作品数が大きく減少したことに伴い来場者も減少しましたが、アカデミア講座や区内大学が実施する生涯学習講座とあわせ、小ホールでは舞台発表により、学習意欲の向上と学習活動へ一歩踏み出す契機の提供に繋がりました。	通常の２会場開催となる予定であることから、参加サークルの増強と区内大学の直接的な参加について能動的に誘起するほか、各種講座等での開催周知を図ります。
R6	サークルの展示や活動紹介が従前通りの開催となり、参加団体、来場者共に増加しました。アカデミア講座や区内大学が実施する生涯学習講座を紹介したことで、学習意欲の向上と学習活動へ一歩踏み出す契機の提供に繋がりました。	活動意欲向上、及び新たな一歩を踏み出す契機に繋がるよう、区内生涯学習団体への周知について長期的に対応し、参加団体の増加に努めます。
R7	ギャラリーシビック等の充実した会場にて、計25団体の参加のもと開催しました。参加団体及び来場者数は前年度を下回りましたが、日頃の学習成果の披露や区民同士の交流の機会を提供することができました。	来場者数等減少の要因について、生涯学習団体等の声も踏まえて分析を行います。その上で、既存の周知手法にとらわれず、新たな団体の発掘やSNS等を通じた来場者向け広報の強化などアプローチ手法を検討し、事業の活性化を図ります。

1－②－イ　体験教室ウィーク

事業概要

地域におけるコミュニティの育成と生涯学習活動の支援を目的として、各地域アカデミーで活動する生涯学習団体を区民に紹介するとともに、生涯学習団体の活動に区民が参加する機会を創出し、団体活動を支援します。

指標：参加団体数（団体）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	47	49	50	51	52
実績（D）	47	62	68	73	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	年２回開催する体験教室ウィークについては、コロナ禍による参加団体の低減が予想された中、想定以上の団体の参加がありました。 なお、アカデミー湯島の１回目は、開催期間が改修工事と重なり、止む無く中止しました。	（公財）文京アカデミーのホームページや広報紙による周知に加え、各館において、各団体への案内を積極的に行うことで、参加団体の増加に努めます。
R5	新型コロナウイルス感染症の行動制限がなくなり、参加団体数もコロナ禍以前の数を上回る結果となりました。	従来の広報や各館での積極的な声掛けに加え、生涯学習フェア等、他事業との連携を深め、参加団体の増加に努めます。
R6	アカデミー千石は、空調工事のため１回目の事業を実施できませんでしたが、全体では、年間参加団体数が過去最高となりました。	広報や各館での積極的な声掛け等により既存参加団体の継続参加を促すと共に、新規参入団体の増加に努めます。
R7	年間参加団体数が昨年度より増加し、過去最高となりました。参加団体からは、「体験教室ウィークのおかげで会員が増えた」との声をいただいており、団体活動の支援に繋がっています。	従来の周知活動を工夫し、新規に参加する団体の更なる増加に向けて取り組んでまいります。

1－②－イ　文化・芸術に親しむ発表会、大会等の実施【再掲】

事業概要

文京区秋の文化祭（華道展、茶会、書道展、絵画展）、各種つどい・大会事業（民謡、謡曲、吟剣詩舞道、合唱、日本舞踊、三曲、民踊）、企画展等の展示や能楽及びかるた関係事業等を実施します。

指標：事業参加者数の合計（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	14,340	19,120	23,900	23,900	25,000
実績（D）	29,680	20,556	19,383	20,612	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	各事業の参加者数の合計を成果指標としています。コロナ禍で再開できない事業もありましたが、コロナ禍前の２年間（平成30年、令和元年）の平均値23,900人の６割の14,340人を目標としました。 令和４年度単年度事業「文の京ミューズネット施設入館料助成」をのべ16,398人が利用したこともあり、目標を大きく超える実績となりました。	令和５年度は参加者数をコロナ禍前の８割の水準に戻すことを目標とします。全国藩校サミットや文の京ミューズネット加入施設周遊デジタルスタンプラリーなどの新規事業に取り組み、周知活動にも力を入れ、文化事業への参加者を増やします。
R5	各事業の参加者数合計を成果指標としています。令和５年度は参加者数をコロナ禍前の８割の水準に戻すことを目標とし、達成できました。 単年度事業の「全国藩校サミット文京大会」や企画展等各種記念事業では、区民に江戸時代の文化や教育にふれる機会を提供し、多くの参加者がありました。区内障害者施設で制作された絵画等を展示した「Bunkyo Brut」には昨年開催時（462人）の約２倍となる959人の観覧者が訪れました。	定例事業である文化祭や伝統芸能の発表会を開催するとともに、かるた関係の展示や体験イベントを開催して区の文化資源であるかるたの区民への定着及び若年層の文化事業への参加を促します。障害者の芸術活動発表の場である「Bunkyo Brut」も開催３年目を迎え、グッズの販売等内容をさらに充実させていきます。
R6	各事業の参加者数合計を成果指標としていますが、令和６年度は目標を超えることができませんでした。 「文京区×ちはやふるの世界展」を開催し、区内外に区の文化資源であるかるたを身近に感じられるよう競技かるた体験等の機会を提供し、延べ2,129人が来場しました。 また、障害者の芸術活動発表の場である「Bunkyo Brut」には、前年と同程度の観覧者が訪れました。	令和７年度は、謎解きとかるたを組み合わせた体験イベントの実施、児童館等へのかるた講師派遣を行い、若年層の認知度向上を図ります。 また、障害者による文化芸術活動のさらなる活性化を目指すため、有識者が厳選した作品の展示及びギャラリートーク（作品解説）を行い、観覧を楽しみながら作品や障害者に対する理解を深める展示を行います。

R7	各事業の参加者数合計を成果指標としていますが、令和７年度は目標を達成することができませんでした。 「かるた謎解き展」では、謎解きをメインに、区のかるた事業を紹介するパネル展示や動画の放映、競技かるた体験などを実施し、延べ1,549人が来場しました。また、かるた講師派遣は、前年度と同程度の派遣を行いました。 障害者アートの展示では、作品数の十分な確保が苦慮しましたが、創作者の背景を理解しながら鑑賞できるようなキャプションの作成やギャラリートークを実施したことで、作品および障害について理解を深めていただきました。	令和８年度は、かるたの展示は実施しませんが、引き続き児童館等へのかるた講師派遣を実施し、若年層への認知度向上を図ります。 また、障害者アートの展示については、作品数の確保が課題となったことから、令和８年度は作品募集の範囲を「区内障害者通所施設」から「区内在住・在勤・在学」へと広げます。

ウ　学びを通じた交流・仲間づくりの推進

１－②－ウ　ふれあいサロン

事業概要

地域活動センターにおいて、幅広い年代の区民が参加する各種イベントや様々な教室を開催し、生きがいづくりや区民間の交流の支援、地域のさらなる活性化を目指します。

令和8年度に向けた目標（P）

各地域の特色を生かしながら、住民の相互交流を促進し、地域活動を担う人材発掘につながる講座を実施していきます。

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	新型コロナウイルス感染拡大以降、実施回数を縮減していましたが、令和４年度は感染対策を徹底しながら昨年度実績の２倍を上回る講座を実施し、区民間の交流を進めることができました。	アフターコロナを見据え、実施回数をさらに増やすとともに、時事に即した事業を実施し、幅広い層の参加を促進していきます。
R5	令和５年度は昨年度実績を上回る講座を実施することができました。また、社会福祉協議会と連携し、新たな内容の講座を行うことができました。	事業内容について検討を行い、地域活動を担う人材発掘につながる講座を充実していくとともに、様々な世代の参加を促進していきます。
R6	令和６年度は昨年度と同数の講座を実施することができました。また、社会福祉協議会と連携し、地域住民との交流を深める講座を行うことができました。	事業内容について検討を重ね、社会福祉協議会等と連携しながら人材発掘につながる講座を充実していくとともに、様々な世代の参加を促進していきます。
R7	令和７年度は昨年度より５講座多く実施することで、様々な世代の参加機会を提供しました。また、社会福祉協議会と連携することで、区民間の交流を進めることができました。	地域課題やニーズに即した講座を実施できるよう、実施後アンケート等を取り入れつつ、社会福祉協議会等と連携し、人材発掘につながる講座を充実させ、区民間の交流を促進していきます。

(3)分野別基本方針③ 学びの循環による地域づくり
ア 地域の学びを促進する人材育成の推進

1－③－ア 人材育成のための講座

事業概要

区や（公益）文京アカデミー等と協働して事業を行う人材を育成するため、「文の京生涯学習司」、「文の京地域文化インタープリター」「文京アカデミアサポーター」の３つの養成講座を実施します。

指標：受講者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	39	45	45	45	45
実績（D）	41	28	25	19	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	区内大学及び文京アカデミアサポーターの会の協力を得て、「文の京生涯学習司養成講座（隔年）」「サポーター養成講座」を実施し、地域人材の掘り起こしと新たな認定者の確保に繋がりました。また、講座運営には一定の人数を確保する必要があり、途中で参加を取り止める受講者も想定し、かつ講座運営が可能な人数の受講としたため、実績が目標を上回りました。	講座の継続のほか、生涯学習団体等と積極的な情報交換を行い、人材の育成・確保に努めます。
R5	区内大学との協働により「文の京地域文化インタープリター養成講座」について、幅広い年代の受講を見込み午前中の開催へと変更し実施しました。思惑と異なり定員には至りませんでしたが、受講者全員の12名が新たに認定されました。 文京アカデミアサポーターの会の協力を得て「サポーター養成講座」を実施し、受講を修了した16名が新規会員となり、アカデミア講座に従事いただきました。	文の京生涯学習司養成講座の実施にあたり、魅力的かつ実践的なメニュー等を協議・選定することにより、幅広い年代の地域人材の掘り起こしと、新たな認定者による生涯学習の活性に繋げます。
R6	区内大学との協働により「文の京生涯学習司養成講座」を実施しました。新たに土曜日にも設定するなど、幅広い年代の受講が叶うよう努めました。定員には至りませんでしたが、受講者全員の15名が新たに認定されました。 また、文京アカデミアサポーターの会の協力を得て「サポーター養成講座」を実施し、受講を修了した８名が新規会員となり、アカデミア講座に従事しました。	「文の京地域文化インタープリター養成講座」の実施年であることから、安定した講座運営と併せ、「文京アカデミアサポーター養成講座」についても実情に合わせた講座メニューとするなど、幅広い年代のによる生涯学習の活性化に繋げます。
R7	文の京地域文化インタープリターの活動を安定的に支援するとともに、文京アカデミアサポーター養成講座においては、現在の活動実情に合わせた講座メニューに見直して実施しました。受講者減という課題はあるものの、区や関係機関と協働して事業を支える新たな人材を育成し、地域の生涯学習の活性化に繋がる成果を得ることができました。	より多くの区民、特に幅広い年代の受講を促すため、広報手法の工夫や受講しやすい日程の設定等に継続して取り組みます。また、育成した人材が修了後も意欲的に活動を継続できるよう、関係機関等と連携したフォローアップ体制の充実に努めます。

1－③－ア　学習支援者スキルアップ講座

事業概要

（公財）文京アカデミーと協働して事業を行う「文京アカデミアサポーター」「文の京生涯学習司」「文の京地域文化インタープリター」などの生涯学習支援者を対象としたスキルアップ講座を実施し、より多角的な活動が行える技能等を学習する機会を提供します。

指標：受講者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	50	70	70	70	70
実績（D）	46	48	50	52	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	より生涯学習支援活動に欠かせなくなりつつあるパソコン講座など、支援者のニーズを踏まえた講座や、支援者の企画運営する講座を実施し、効果的なスキルアップに繋げました。	活動に必要なスキルを学ぶほか、関心の高い事象に関して情報共有を図ることで、充実した学習機会を提供します。
R5	情報モラルとインターネットの安全な使い方、傾聴やコミニケーションスキル向上を目的とした講座を実施し、ＩＣＴを使用した情報収集、知見の蓄積の支援、幅広い企画提案力向上に繋げました。	新たな主体との協働にも注力し、講座内容の充実を図ることで、潜在的な企画提案希望者の掘り起こしや、モチベーションの向上を図ります。
R6	生涯学習活動はもとより、幅広く人生が豊かになるよう、情報収集・処理能力の向上を目的とした「ChatGPT講座」、アカデミア講座に拘ることなく、地域等でもさまざまなイベントの企画提案能力や実行力の向上に資するよう「講座企画提案」に関する講座を実施し、ＩＣＴを使用した情報収集、知見の蓄積の支援、幅広い企画提案力向上に繋げました。	区内企業との協働や講師の掘り起こしにも注力し、先駆的な生涯学習機会の充実と、新たな企画提案希望者の掘り起こしに努めます。
R7	学習支援者がより先駆的かつ多角的な活動を行えるよう、講師の掘り起こし等に注力しました。生成AIを活用し「調べて、まとめて、伝える力」を養う講座や、地域イベントプロデューサー等を講師に招いた「情報の集め方・活かし方」に関する講座を実施したことで、支援者のICT活用スキルの向上に加え、地域で人と人を繋ぐための多角的な視点や企画力の底上げに寄与しました。	学習支援者のさらなるスキル向上と実際の活動への還元を目指し、支援者のニーズに即した実践的な講座テーマの設定に努めます。引き続き、区内企業や地域人材等からの新たな講師発掘に注力し、時代の変化に合わせた多角的な学習機会を提供することで、生涯学習支援者の活動の活性化を図ります。

イ 人材活用の仕組みの構築

1－③－イ 区民プロデュース講座

事業概要

区民の学習成果を活かし、地域に根差した生涯学習を推進するため、個人・ＮＰＯ等の団体が企画する講座を公募して実施します。

指標：受講者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	202	300	300	300	300
実績（D）	186	230	310	237	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	文の京生涯学習司によるきめ細かい相談体制により、地域の人材から広く提案され、特色ある講座の開講に繋がりました。その一方で、コロナ禍から目標・実績ともに影響を受ける結果となりました。	相談体制を継続するとともに、新たな提案の創出に向けて、周知を行う範囲とアプローチの手法について検討していきます。
R5	生涯学習相談にて、事前相談や申込書の書き方レクチャーを継続したとともに、企画選定委員会においては、社会のトレンドも意識した講座を選定しました。	区や区民の持つポテンシャルを活かした講座や、継続性のある学習活動の入口となる講座の実施となるよう、区民視点での講座選定や、多角的な視点からのコーディネートに取り組みます。
R6	年間を通して実施している「生涯学習相談」において、相談者の来庁時期を考慮し開設時間帯の変更を行うなど、いつでも提案・相談を受けられるよう環境を整備しました。	相談体制を継続するとともに、文京アカデミア生涯学習推進委員会とも連携を図り、区民の目線から一層多彩なメニューの選定と、新たな人材の掘り起こしに努めます。
R7	学習推進委員会との連携や相談体制の継続により、新たな人材の掘り起こしに努め、宝生流能楽師の提案による能楽講座等、多彩なメニューを実施しました。受講者数は237人でしたが、各期を通じて定員を上回る応募があり、区民の関心の高さと学習ニーズを的確に捉えた講座運営を実施することができました。	学習推進委員会と連携した多彩なメニューの選定と、地域の新たな人材の発掘に努めます。また、区民の企画提案を支援する相談体制を維持・充実させるとともに、高い学習ニーズに応えるため、より多くの区民が参加できる効果的な広報や講座運営に取り組みます。

1－③－イ　各種講座・展示会の企画への起用

事業概要

文の京地域文化インタープリターや文の京生涯学習司等の活躍を支援し、区の文化事業に活かしていく事業（企画展等）を展開していきます。

指標：生涯学習支援者企画講座開催数（件）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	30	30	30	30	30
実績（D）	30	37	28	18	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	アカデミア講座の選定のほか、イベント・公開講座の開催等、生涯学習支援者の協力を得て、多様なニーズに対し区民目線から質の高い学習機会を提供できました。	生涯学習支援者との連携を密にした積極的な意見交換により、活動の活性と講座の充実に向け、継続的に支援していきます。
R5	アカデミア講座の提案、特別公開講座の企画、受託による実施など、幅広い領域のコーディネートにより、区民と生涯学習を結びつける大きな要素となりました。	各種人材養成講座を継続し、新たな認定者を確保するとともに、区民の学びの促進につながるよう、各団体の主体性を尊重しつつ、その専門的な知見を活かした活動機会を提供していきます。
R6	アカデミア講座の提案、特別公開講座の企画・運営など、幅広い領域で連携を図ったことで、区民ニーズを大切にした生涯学習の提供に繋がりました。	財団と各団体との役割を明確にし、長所を活かしながら講座の充実と各団体の主体的な活動に繋げます。
R7	講座開催件数は減となったが、各団体の主体的な活動を支援する体制づくりに努めました。インタープリターや生涯学習司等の知見を活かした企画展や事業を連携して展開し、区民の学習ニーズに応える質の高い生涯学習機会の提供に繋げました。	各支援者団体の主体性を尊重した支援体制を維持し、それぞれの得意分野や知見を活かした活動をサポートします。財団との緊密な連携のもと、区民の学習ニーズに応える質の高い講座等の継続的な開催に努めます。

ウ 地域の資源を活かして学びを深める取組の推進

1－③－ウ 大学連携による各種事業

事業概要

区民のニーズにあった生涯学習機会を提供するため、大学と連携した事業を展開します。

指標：受講者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	1,231	1,300	1,400	1,500	1,500
実績（D）	974	1,059	1,250	921	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	高度かつ専門的な学習機会提供のため、アカデミア講座、学長講演会、資格取得キャリアアップ講座等、人材、キャンパスを活用した講座を実施しました。また、オンライン・オンデマンドにより実施もしましたが、定員に満たなかったことが多かったため、継続的に内容や日時のほか、タイトルや導入文にも工夫を重ねます。	多くの方へ学習機会の提供が叶うよう、大学と連携した広報や、担当者とのコミュニケーションに努めます。
R5	アカデミア講座、学長講演会、資格取得キャリアアップ講座等を継続したほか、大学との意見交換や情報の共有を通し、新たな講座メニューの提供に繋がりました。	大学の主体性を尊重しつつ、課題や認識の共有を図るとともに、双方の長所を活かし、一層充実した企画提案が叶う体制・環境の醸成に努めます。
R6	アカデミア講座、学長講演会、資格取得キャリアアップ講座等を継続したほか、意見交換や情報の共有機会を充実させるため、大学担当者との会議スタイルを変更しました。	新たなメニューの提案や夜間・休日開講の実現に向け、課題や認識の共有を図るとともに、双方の長所を活かし、一層充実した企画提案が叶う体制・環境の醸成に努めます。
R7	各大学との情報共有を図ることで、双方の強みを活かした講座企画を展開しました。今年度は「夏休みこどもアカデミア」を拡充して実施したほか、多くの講座において定員を超える多くの応募がありました。受講者数は減少したものの、大学の専門的知見を活かした多様な講座を提供し、区民の知的好奇心を満たす充実した学習機会の確保に繋がりました。	大学との連携による質の高い講座企画を継続し、区民の知的好奇心を満たす多様な学習メニューを提供します。今年度好評を得たこども向け講座や専門性の高い講座の傾向を踏まえ、より多くの区民が大学の知見に触れられるよう、効果的な事業展開と参加機会の創出に努めます。

1－③－ウ　文京お届け講座

事業概要

区民の自主的な学習活動を支援するとともに、区の職員が地域の団体の要望に応じて講師として職務に関する話をすることで、職員の意識改革と住民との協働関係の醸成を図ります。

指標：実施講座数（件）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	18	19	19	20	20
実績（D）	18	24	20	39	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	一年を通して18件の講座申込があり、計455名の方が参加しました。これにより、区民の自主的な学習活動を支援し、区の施策等に対する理解を深めることができました。	新型コロナウイルス感染症の影響で、対面での講座を控える団体も多く、いくつかの講座はZoomで実施しました。引き続き、区民の要望を正確に捉え、学習活動の支援を行います。
R5	令和５年度は24件の講座申込があり、計693名の方がお届け講座を受講しました。また、オリジナル講座の申込が多かったことからも、区民の要望に応えることができました。	引き続き、区民要望に応えつつ、自主的な学習活動を支援していくとともに、申込みの簡略化に向け、申込方法の電子化に取り組んでいきます。
R6	令和６年度は20件の講座を実施し、計464名の方がお届け講座を受講しました。また、電子での申し込みを開始し、申請の簡略化を図りました。	フォームでの申し込みについて周知を行い、活用していきます。また、引続き区民の要望を正確に捉え、学習活動の支援を行います。
R7	令和７年度は39件の講座を実施し、計776名の方がお届け講座を受講しました。電子での申し込みが増加し、フォームの活用による事務の効率化を図ることができました。	引き続きフォームの活用を促すとともに、区民の要望に応え、自主的な学習活動を支援を行います。

1－③－ウ 「文京学」講座

事業概要

文京アカデミア講座、文京いきいきアカデミア講座の中で地域に関する講座を実施し 、文京区の歴史・文化・自然を学び、地域文化を考えるための学習機会を提供します。

指標:受講者数(人)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標(P)	120	120	120	120	120
実績(D)	110	149	102	124	

	成果・評価(D・C)	次年度に向けた取組等(A)
R4	生涯学習支援者等の協力を得て、幅広い分野の人材による、地域に関する講座を提供しました。引き続き、講座内容の充実を図っていく必要があります。	地域に関する情報や人材の深掘りにより、新たな切り口からの講座が実施できるよう、文の京生涯学習司等との連携をより強めます。
R5	前年度に引き続き、文京区の歴史や魅力など、文の京に特化した講座を実施したほか、いきいきアカデミアにおいても区ゆかりの人物の紹介や区内博物館等の見学を実施しました。	アカデミア講座、いきいきアカデミア講座共に、区政全般から生活に密着した区の施策に関する講座の実施により、区民の生涯学習活動の振興と、区政への理解が深まるよう努めます。
R6	これまで同様、文京区の歴史や魅力など、文の京に特化した講座を実施したほか、いきいきアカデミアにおいてもミューズネット構成館による講義を実施しました。	区ゆかりの人物や事象、協定締結自治体等、区政全般から文京区に関する講座実施により、区民の生涯学習活動の振興と、区政への理解が深まるよう努めます。
R7	文京区の歴史・文化や協定締結自治体に関する講座の充実を図った結果、多くの講座で定員を上回る応募がありました。区民の地域学習に対する高いニーズに的確に応えるとともに、文京区の歴史・文化やゆかりの自治体に対する理解を深める取り組みを行いました。	区の歴史・文化や協定締結自治体をはじめ、地域に根ざした多様なテーマの講座を企画・実施します。区民の地域学習への意欲に応える充実した学習機会を提供することで、地域への愛着醸成を図ります。

第４章　スポーツ分野の点検・評価

１．スポーツ分野の評価

文京区アカデミー推進協議会委員（学識経験者）
スポーツ分科会座長　青木　和浩

基本方針①「だれもがスポーツを身近に感じる機会の拡充」

「Bunkyo Sports Park」での参加者増加（前年比1,521人増）や「スポーツ交流ひろば」の利用者拡大（前年比2,078人増）など、多様なスポーツに触れる機会が定着している点が評価できる。東京2025世界陸上・デフリンピックに向けた気運醸成やボッチャ等を活用したパラスポーツ推進、プロスポーツ団体（読売巨人軍・アルバルク東京）やヨネックス等の区内・近隣資源との協働やスポーツボランティアの活用など、「する・見る・支える」機会の提供が進んだ。一方、初心者向け教室等で参加者数が減少しており、今後は単なる周知にとどまらず、SNSや地域広報など多様な媒体を活用した「様々な年代に届く効果的な情報発信」の徹底と、参加者増減の要因検証に基づく事業改善が求められる。

基本方針②「いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる環境づくり」

体育施設の個人向け一般開放や地域スポーツ団体への補助制度、指導者向け救急救命講習など、日常的な運動環境の整備と安全性の確保に努めており評価ができる。特にプロ団体等との協働による親子向け野球・チアダンス・バドミントン教室などの展開は高い評価を得た。一方で未就学児の外遊び事業や一部の親子・初心者向け教室で参加者が減少した。これらに対しては、参加者の行動様式やニーズの変化を精査・検証し、広報手段の見直しや開催時期・内容の工夫を図ることが不可欠である。子どもから高齢者まで、生涯を通じて運動に親しめるよう、世代に応じたアプローチを強化していく必要がある。

基本方針③「スポーツの力を活用した地域づくり」

「みんなのスポーツひろば」等に専門学校生がボランティアとして参画し、多様な人々の交流や共生社会の理解促進に寄与した。また、プロスポーツ団体や協会のほか、民間企業や区内学校等の多様な「区内の資源との連携」により、競技用義足・車いすバスケの体験会や小・中学校でのブラインドサッカー出前授業を実施し、地域一体となった取組を展開した。さらに指導者地域派遣や大規模イベントの活用により、地域組織との強力な結びつきが形成されている。今後はこうした地域資源とのネットワークをさらに発展させ、スポーツを通じた持続可能な地域コミュニティの創出へつなげることが期待される。

分野の総評

各基本方針のもと、プロ・民間連携や大規模イベント、パラスポーツ推進など区の強みを活かした施策が着実な成果を上げた。今後のさらなる推進に向けては、まず一部事業で見られた「参加者増減の定量的・定性的な検証」を行い、減要因を分析してプログラム内容や実施環境の迅速な改善に活かすことが重要である。その上で、デジタルとアナログを組み合わせた「様々な年代へ確実に伝わる情報発信」を展開し、認知・参加の裾野を広げることが求められる。さらに、学校・企業・専門学校・プロチームといった「区内の豊かな資源との連携・結びつき」を一段と強化し、区民一人ひとりが日常的にスポーツの魅力を実感できる地域づくりを目指されたい。

2. 主要事業一覧

分野別基本方針①だれもがスポーツを身近に感じる機会の拡充		アカデミー推進計画	総合戦略	重点
ア　スポーツの楽しさを知る機会の創出				
25	初心者向けスポーツ教室	○		
26	スポーツ交流ひろばの充実	○		
27	Bunkyo Sports Park		○	○
イ　ユニバーサルスポーツの普及振興				
28	ニュースポーツ教室・大会	○		
29	障害者スポーツ体験教室	○	○	
30	Bunkyo Sports Park【再掲】		○	○
ウ　スポーツ観戦の場と機会の拡充				
31	地域のスポーツ団体等との連携による事業展開	○	○	
エ　スポーツボランティア等の活動支援				
32	スポーツボランティアの養成	○	○	
分野別基本方針②いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる環境づくり		アカデミー推進計画	総合戦略	重点
ア　気軽にスポーツを楽しめる環境の整備				
33	スポーツ交流ひろばの充実【再掲】	○		
34	まるごと子育て応援未就学児童の遊び場開放事業	○		
イ　スポーツに関する情報の発信と相談体制の整備				
35	スポーツ交流ひろば通信の発行	○		
36	スポーツボランティア情報の提供	○	○	
ウ　スポーツを楽しむ人を増やす事業の展開				
37	地域スポーツ団体の支援・育成	○	○	
38	個人利用のためのスポーツ施設の開放と指導員によるアドバイス	○		
39	スポーツの日事業	○		
エ　スポーツ指導者等の育成と確保、技術の強化				
40	スポーツ指導者の育成	○		
オ　心身の健康づくり				
41	小・中学生向けスポーツ教室	○		
42	親子向けスポーツ教室	○		
43	スポーツ交流ひろばの充実【再掲】	○		
分野別基本方針③スポーツの力を活用した地域づくり		アカデミー推進計画	総合戦略	重点
ア　スポーツを通じた仲間づくりと地域づくり				
44	親子向けスポーツ教室【再掲】	○		
45	スポ・レクひろば	○		
イ　プロスポーツ団体等との連携・協働				
46	地域のスポーツ団体等との連携による事業展開【再掲】	○	○	
47	Bunkyo Sports Park【再掲】		○	○

ウ　東京2020大会におけるレガシーの継承と活用				
48	障害者スポーツ体験教室	○	○	
49	Bunkyo Sports Park【再掲】		○	○
エ　人材・組織（町会・地域クラブ）との連携・協働				
50	地域スポーツ団体の支援・育成【再掲】	○	○	
51	スポーツ指導者地域派遣	○		
52	Bunkyo Sports Park【再掲】		○	○
オ　スポーツの魅力を体感する機会の充実				
53	初心者向けスポーツ教室【再掲】	○		
54	小・中学生向けスポーツ教室【再掲】	○		

※総合戦略の欄は、「文の京」総合戦略（令和6年度～令和9年度）に掲載されている事業。

※重点の欄は、令和7年度に文京区の重点施策として選定された事業。

3. 分野別基本方針に対する事業を通じた達成状況

(1)分野別基本方針① だれもがスポーツを身近に感じる機会の拡充

指標	現状値		目標値
スポーツ実施率（週１日以上）【スポーツをする】	54.9% （令和元年度）	58.3% （令和７年度）	60.0%
スポーツ観戦率【スポーツを見る】	23.7% （直接観戦） （令和元年度）	23.7% （直接観戦） （令和７年度）	30.0%
スポーツボランティアの参加率【スポーツを支える】	10.7% （令和元年度）	12.0% （令和７年度）	20.0%

【分野別基本方針①だれもがスポーツを身近に感じる機会の拡充の状況】

だれもがスポーツを身近に感じる機会の拡充では、スポーツの楽しさを知る機会の創出のため、初心者向けスポーツ教室や区立小・中学校を活用したスポーツ交流ひろば事業を実施しました。初心者向けスポーツ教室は315人、スポーツ交流ひろばは28,947人の参加がありました。また、年齢、性別、体力等に関わらず、多種多様なスポーツを体験することのできるスポーツイベント「Bunkyo Sports Park」では、野球やサッカー、ラグビーといったメジャースポーツだけでなく、ソフトハンマー投げやデフバドミントンなど、東京2025世界陸上及び東京2025デフリンピックに因んだ体験ブースを設置して気運醸成を図り、延べ12,774人の来場がありました。

ユニバーサルスポーツの普及振興を図るため、みんなで楽しくボッチャ大会を開催したほか、区内のまつり会場でボッチャ体験ブースを設置するなど、多くの区民がパラスポーツに触れる機会を提供し、認知度を高めました。

区内に拠点を持つ、読売巨人軍やアルバルク東京との協働により、ホームゲーム観戦イベントを実施するとともに、関係団体と連携した各種スポーツイベントを継続したほか、新規にヨネックスと連携した親子バドミントン教室等を実施しました。

これらの事業の実施に際しては、区に登録している多くのスポーツボランティアが活躍し、スポーツを支える人材の養成を図っており、年間で31件の事業にスポーツボランティアが参加しました。今後も、スポーツボランティアについて広く案内し、さらなる啓発に努めます。

これらの取り組みにより、多くの区民にスポーツを「する」「見る」「支える」機会を提供しました。今後、さらなる事業周知に努め、だれもがスポーツを身近に感じることができる機会を拡充していきます。

【アカデミー推進協議会の意見】

◎区内で様々なスポーツ関連事業が行われているが、一年を通してそれらを網羅した一覧のようなものがあると良いと感じた。

◎「障害者スポーツ体験教室」の実績が大きく伸びている点は評価できるが、目標値が低いのではないかとも感じる。

◎本計画期間中に開始した「Bunkyo Sports Park」事業が盛り上がっている点は評価できる。

(2)分野別基本方針② いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる環境づくり

指標	現状値		目標値
「スポーツ活動を支える環境を整備すること」への満足度	36.3% （令和元年度）	49.9% （令和７年度）	45.0%

指標	スポーツ指導者（スポーツ推進委員・スポーツリーダー）派遣の実績件数				
現状値 （令和元年度）	目標値	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値
120 件	135 件	85 件	84 件	114件	264件

【分野別基本方針② いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる環境づくりの状況】

いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる環境づくりでは、気軽にスポーツを楽しめる環境を整備するため、六義公園運動場等の屋外スポーツ施設を活用し、未就学児童を対象に外遊びの機会を提供し、5,096人の参加がありました。

スポーツを楽しむ人を増やす事業の展開のため、インクルーシブスポーツ推進事業等を行う団体に対し、経費の一部補助を行いました。8団体15事業で補助制度が活用され、地域スポーツ団体の支援・育成を図りました。また、スポーツセンター、総合体育館、江戸川橋体育館において、卓球やバドミントン、バスケットボール、バレーボール等、様々な種目の個人向け一般開放を行っています。個人向け一般開放では指導員が配置されており、23,711人の利用があり、多くの区民にスポーツをする機会を提供することができました。

スポーツ指導者の育成と確保、技術の強化として、スポーツ推進委員、スポーツリーダー、スポーツ協会加盟団体員、スポーツ交流ひろば指導員等のスポーツ指導者を対象に、救急救命に関する講習会を開催し、知識と技術の向上を図りました。

心身の健康づくりでは、小・中学生を対象としたスポーツ教室を開催しました。運営協力団体と連携し、参加者が楽しく体験できるよう、ローラースポーツ教室及びジュニアサッカー教室を実施し、150人の参加がありました。また、読売巨人軍やアルバルク東京、ヨネックス等との協働事業として、新たに親子野球教室やチアダンス体験教室、バドミントン教室を加えて親子向けスポーツ教室を実施し、866人の参加があり、事後の参加者アンケートでも高い評価をいただきました。

今後も事業内容の更に工夫するなど、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる環境づくりを継続的に展開していきます。

【アカデミー推進協議会の意見】

◎指導者向けの救急救命講習実施など、日常的な環境の整備や安全性の確保に努めている点を評価する。

◎スポーツ交流ひろばの充実について、プールの一般開放を増やしていけたらよいと思う。

◎「スポーツ指導者の育成」実績が減少している点については、具体的なその要因を分析し、改善策につなげるべきと考える。

（3）分野別基本方針③　スポーツの力を活用した地域づくり

指標	現状値	目標値	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値
スポーツ団体等との連携事業数	20 件 （令和元年度）	23 件	10 件	15 件	16 件	17 件
関係団体（パラスポーツ団体含む）との連携事業数	5 件 （令和元年度）	7件	5 件	5 件	8 件	10 件

指標	現状値		目標値
事業参加者の満足度	－ （令和元年度）	100.0% （令和７年度）	80%

【分野別基本方針③　スポーツの力を活用した地域づくりの状況】

スポーツの力を活用した地域づくりでは、スポーツを通じた仲間づくりと地域づくりとして、親子向けスポーツ教室を開催するとともに、知的障害のある方を主な対象に楽しみながら体を動かす機会を提供するみんなのスポーツひろばを通年で実施しました。みんなのスポーツひろばには、区に登録しているスポーツボランティアだけでなく、区内専門学校の学生もボランティアとして参加し、多様な人々の交流を促進することができました。

東京2020大会におけるレガシーの継承と活用として、区内のまつり会場でボッチャブースを設置をし、どなたでもパラスポーツを体験していただく機会を提供しました。また、アルバルク東京、トヨタ自動車との連携によりパラアスリートを講師に迎え、競技用義足や車いすバスケ等を体験するパラスポーツ体験会や、日本ブラインドサッカー協会の協力による区立小・中学校でのブラインドサッカー出前授業等、年齢や障害の有無等に関わらず、誰もがともにスポーツを楽しむことができる機会の提供を推進しました。

今後も、これらの事業内容を充実させつつ取り組みを継続し、スポーツの力を活用した地域づくりを進めていきます。

【アカデミー推進協議会の意見】

◎スポーツ指導者の地域派遣実績が大きく増加しているので、その要因を正確に捉え、今後に活かしていってほしい。

◎知的障害のある方に楽しみながら体を動かす機会を提供する事業に区内専門学校生がボランティアとして参加し、多様な交流が図れていることは良いことだと感じた。

◎事業参加者の満足度がとても高いといった質的評価も大事だと考える。

4. 主要事業の成果に対する評価

(1)分野別基本方針① だれもがスポーツを身近に感じる機会の拡充
ア スポーツの楽しさを知る機会の創出

２－①－ア 初心者向けスポーツ教室

事業概要

区民の健康の維持・増進及びスポーツを続けるきっかけづくりの機会として、区民が気軽にスポーツを体験できる各種初心者向けスポーツ教室を開催します。

指標:参加者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標(P)	371	380	390	400	408
実績(D)	371	401	432	315	

	成果・評価(D・C)	次年度に向けた取組等(A)
R4	個人で簡単に始めることができないスポーツについて、初心者でも気軽に体験できる機会を作ることができました。 種目：アーチェリー、合気道、弓道	初心者向けスポーツ教室を受講した後も、引き続きスポーツを継続できるよう、実施団体等と継続方法等について協議します。
R5	初めての競技に挑戦するきっかけづくりとして、一人では中々始めることができない３種目について初心者向け教室を実施し、たくさんの方のお申込み、ご参加をいただくことができました。 種目：アーチェリー、合気道、弓道	始めたスポーツを定着させる取り組みの展開、新しいスポーツを始める機会の提供に引き続き取り組んでまいります。
R6	これまで開催していた３種目にテニスを加え、初めての競技に挑戦するきっかけづくりとして、一人では中々始めることができない４種目について初心者向け教室を実施しました。 種目：アーチェリー、合気道、弓道、テニス	参加人数を増やす方法を検討するとともに、新しいスポーツを始める機会の提供と、スポーツを継続できる取り組みを引き続き行ってまいります。
R7	新たな競技に挑戦する機会創出を目的として、個人では始めることが難しい３種目について初心者向け教室を実施し、多くの方にご参加いただきました。 種目：アーチェリー、弓道、テニス	初心者向け教室の受講をきっかけに、継続してスポーツ活動に取り組んでいただけるよう、各種教室の実施等、スポーツを体験できる機会の提供に取り組んでまいります。

2－①－ア　スポーツ交流ひろばの充実

事業概要

区立小・中学校の体育館や校庭を活用し、地域の指導員の指導のもと曜日や種目を設定し、区民の身近なスポーツ活動の場として開放します。

指標:参加者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	23,878	24,474	25,070	25,666	26,265
実績（D）	23,878	24,920	26,869	28,947	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	区立小・中学校18校にて実施しました。参加者数については、徐々にですが、コロナ禍前の水準に戻りつつあります。	スポーツ交流ひろばに加えて、コロナ禍で中止としていたプール一般開放の再開について、関係機関と検討していきます。
R5	スポーツ交流ひろばは、区立小・中学校18校で実施しました。延べ参加者数は、徐々に増えてきています。 プール一般開放は、４年振りの再開となり、区立中学校１校で４日間実施しました。特に土日に利用者が多く、混雑回避のため、入場制限を行いました。	スポーツ交流ひろばの競技によっては、参加者数が減少しているところもあり、参加者増に向けた広報活動等が必要と考えます。 プール一般開放については、実施校数、実施日数の増に向けて運営方法の検討が必要です。
R6	スポーツ交流ひろばは、区立小・中学校18校で実施しました。延べ参加者数は、徐々に増えてきています。 プール一般開放は、区立中学校１校で４日間開催しました。より安定した事業実施のため、運営方法を変更しました。	スポーツ交流ひろばは、参加者数が減少している種目もあり、効果的な広報活動について検討していきます。 プール一般開放については、実施校数、実施日数を増やす取り組みを検討します。
R7	スポーツ交流ひろばは、引き続き、区立小・中学校18校で実施しました。学校改修工事が例年よりも多く、開放日が少なかった一方で、参加者数は増加傾向が続いています。プール一般開放は、区立中学校１校で５日間開催しました。	スポーツ交流ひろばは、種目ごとに参加者数の幅があるため、参加者数が少ない種目について、周知を行う等により、参加を促していきます。

2－①－ア Bunkyo Sports Park

事業概要

メジャーなスポーツに加えパラスポーツやアーバンスポーツなどの様々なスポーツや運動を体験できる場の提供として、区民のスポーツ振興を図るとともに、多様性への理解を促進することを目的に、各種スポーツ体験ブース、ステージイベントを実施します。

指標:参加者延べ人数(人)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標(P)			8,674	8,954	9,233
実績(D)		8,394	11,253	12,774	

	成果・評価(D・C)	次年度に向けた取組等(A)
R5	地域のスポーツ団体や大学等と協力してブース運営やステージイベントを行い、新規事業でありながら、延べ8,000人以上の来場がありました。事前申込不要、対象者を「どなたでも」とすることで、よりインクルーシブ要素のあるイベントにすることができました。	誰もが安心してスポーツに触れることができる要素を取り入れ、スポーツ分野におけるSDGs及びインクルーシブ概念を普及するほか、デジタル技術を活用した競技体験等によるスポーツ分野でのDXの推進等を図っていきます。
R6	地域のスポーツ団体等と連携し、野球やサッカーといった定番スポーツから、ボッチャ、ブレイキン等のパラスポーツ、アーバンスポーツといった多様なスポーツを体験できる機会を提供するとともに、スポーツ分野におけるSDGsの概念を普及しました。来場者は、昨年度を大幅に超える延べ11,253人でした。	引き続き地域のスポーツ団体等と連携を図り、スポーツ分野におけるSDGs及びインクルーシブ概念を普及していくとともに、次年度は世界陸上及びデフリンピックが東京で開催されるため、それらに因んだ各種競技体験等の機会を提供することで、大会のレガシー継承や気運醸成を図っていきます。
R7	地域のスポーツ団体等と連携を図り、定番スポーツをはじめとした様々なスポーツ体験ブース等を設置するとともに、東京において、世界陸上及び東京2025デフリンピックが開催されたことから、ハンマー投げやジャベリックスロー、デフバドミントン等、それらに因んだ体験ブースを設置し、大会の気運醸成を図りました。	引き続き地域のスポーツ団体や大学等と連携を図り、定番スポーツやパラスポーツ、アーバンスポーツ等の様々なスポーツ体験ブースを設置し、区民の健康増進や新たなスポーツの楽しさを発見できる機会等の場を提供していきます。

イ ユニバーサルスポーツの普及振興

2－①－イ ニュースポーツ教室・大会

事業概要

障害の有無や年齢に関わらず一緒に楽しむことができるドッヂビーやボッチャ等の各種ニュースポーツ教室や大会を実施します。

指標:参加者数(人)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標(P)	243	249	255	261	267
実績(D)	243	227	331	227	

	成果・評価(D・C)	次年度に向けた取組等(A)
R4	コロナ禍でも、スポーツ推進委員を中心に区内大学・専門学校の生徒やスポーツボランティアといった地域の資源と協力し、感染拡大防止対策を講じた上で、規模を縮小しながら実施しました。	パラスポーツのボッチャを一つのきっかけとして、可能性があれば他にも新たな種目による教室事業等を実施し、区民に広くニュースポーツに触れる機会を提供していきます。
R5	スポーツ推進委員を中心に区内大学・専門学校の生徒やスポーツボランティアといった地域の資源と協力し、コロナ禍以前の規模で実施しました。当初の参加者は目標値を超えていましたが、当日の参加率が低い結果となりました。	ボッチャ以外の種目についても検討し、令和6年度中に、区民に広くニュースポーツに触れる機会を提供していきます。
R6	ニュースポーツ大会では幅広い年代の区民が参加し、ボッチャで競い合いました。また、地域への指導者派遣によりドッヂビー等の指導を行い、ニュースポーツの普及を図りました。	引き続きニュースポーツ大会の開催やスポーツ推進委員等の地域派遣によるボッチャやドッヂビーを楽しめる機会を提供していきます。その他新しい種目を模索しニュースポーツの魅力を発信していきます。
R7	当日の参加率は低い結果となりましたが、幅広い年代の区民が参加し、ボッチャを学びながら、楽しむ機会となりました。また、昨年に引き続き、地域への指導者派遣を行い、ニュースポーツの普及を図りました。	引き続き、ニュースポーツ大会や地域への指導者派遣を実施し、地域におけるニュースポーツの定着と普及を推進していきます。

2－①－イ　障害者スポーツ体験教室

事業概要

障害のある方が気軽にスポーツ活動に参加できる機会とし、様々な障害者スポーツの種目を体験できる教室を開催します。

指標:参加者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	1,069	1,100	1,120	1,150	1,175
実績（D）	1,069	2,332	2,342	2,778	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	東京2020大会の終了後も、ボッチャやブラインドサッカー等パラスポーツを知る教室事業や体験会を行い、広く区民に参加いただきました。 また、障害のある方でも気軽に参加できるよう内容を工夫した上で、区民誰もが安心して一緒に参加できるイベントを実施しました。	まつり等の場で継続的にパラスポーツに触れ、楽しいと思える機会を区民に提供することにより、パラスポーツの認知度を高めます。 年齢、性別、体力、障害の有無に左右されることなく、誰でも参加できるインクルーシブ要素を取り入れたスポーツ事業を、今後展開します。
R5	ユニバーサルスポーツフェスタや、花の五大まつりでのボッチャ体験ブースの設置等により、より多くのパラスポーツを体験できる機会を提供し、パラスポーツの認知度を高めることができました。	障害のある方でも安心して応募・参加してもらえるよう、手話通訳者などの協力を得て分かりやすい運営方法を工夫します。 また、誰もが参加できる参加者目線でのインクルーシブスポーツ事業を実施します。
R6	パラスポーツ体験会やニュースポーツ大会などにおいて、年齢や性別、障害の有無等に関わらず誰もがスポーツを体験できる機会を提供し、パラスポーツの認知度を高めました。	区内のまつり会場でのボッチャ体験ブースの設置等を行い、多くの区民がパラスポーツに触れることのできる機会を提供します。あわせて障害がある人が安心して事業に参加できるよう手話通訳者の手配について積極的に案内します。
R7	区内のまつり会場でのボッチャ体験ブースを設置し、多くの区民がパラスポーツに触れる機会を提供するとともに、認知度を高めました。	体験を通じて興味関心を持った参加者がニュースポーツ大会や今後の関連事業へ参加するきっかけづくりとなるよう事業の周知をしていきます。

2－①－イ Bunkyo Sports Park

事業概要

メジャーなスポーツに加えパラスポーツやアーバンスポーツなどの様々なスポーツや運動を体験できる場の提供として、区民のスポーツ振興を図るとともに、多様性への理解を促進することを目的に、各種スポーツ体験ブース、ステージイベントを実施します。

指標:参加者延べ人数(人)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標(P)			8,674	8,954	9,233
実績(D)		8,394	11,253	12,774	

	成果・評価(D・C)	次年度に向けた取組等(A)
R5	地域のスポーツ団体や大学等と協力してブース運営やステージイベントを行い、新規事業でありながら、延べ8,000人以上の来場がありました。事前申込不要、対象者を「どなたでも」とすることで、よりインクルーシブ要素のあるイベントにすることができました。	誰もが安心してスポーツに触れることができる要素を取り入れ、スポーツ分野におけるSDGs及びインクルーシブ概念を普及するほか、デジタル技術を活用した競技体験等によるスポーツ分野でのDXの推進等を図っていきます。
R6	地域のスポーツ団体等と連携し、野球やサッカーといった定番スポーツから、ボッチャ、ブレイキン等のパラスポーツ、アーバンスポーツといった多様なスポーツを体験できる機会を提供するとともに、スポーツ分野におけるSDGsの概念を普及しました。来場者は、昨年度を大幅に超える延べ11,253人でした。	引き続き地域のスポーツ団体等と連携を図り、スポーツ分野におけるSDGs及びインクルーシブ概念を普及していくとともに、次年度は世界陸上及びデフリンピックが東京で開催されるため、それらに因んだ各種競技体験等の機会を提供することで、大会のレガシー継承や気運醸成を図っていきます。
R7	地域のスポーツ団体等と連携を図り、定番スポーツをはじめとした様々なスポーツ体験ブース等を設置するとともに、東京において、世界陸上及び東京2025デフリンピックが開催されたことから、ハンマー投げやジャベリックスロー、デフバドミントン等、それらに因んだ体験ブースを設置し、大会の気運醸成を図りました。	引き続き地域のスポーツ団体等と連携を図り、定番スポーツやパラスポーツ、アーバンスポーツ等の様々なスポーツ体験ブースを設置し、区民の健康増進や新たなスポーツの楽しさを発見できる機会等の場を提供していきます。

ウ スポーツ観戦の場と機会の拡充

2－①ーウ 地域のスポーツ団体等との連携による事業展開

事業概要

区内に拠点をもつスポーツ団体等との協力・連携により、スポーツ体験教室や大会等を実施します。

指標:連携事業数(件)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標(P)	10	15	18	21	23
実績(D)	10	15	16	17	

	成果・評価(D・C)	次年度に向けた取組等(A)
R4	サッカーW杯ではJFAと共同でパブリックビューイングを主催し、区一丸となって大会を盛り上げました。その他、読売巨人軍やアルバルク東京、東京ユナイテッドFCといった関係団体との協働事業も実施し、多くの区民に参加いただきました。	関係団体との協働を広く発信し、連携を強化しながら事業を実施し、区民にとって魅力的で参加しやすいスポーツ事業を計画・実施していきます。
R5	ラグビーW杯及びFIBAW杯ではトヨタヴェルブリッツやアルバルク東京との協力・連携によりパブリックビューイングを主催し、区一丸となって大会を盛り上げました。その他、読売巨人軍や東京ユナイテッドFCといった関係団体との協働事業も実施し、多くの区民に参加いただきました。	関係団体と連携を強化しながら事業を実施し、事業の発信力を高め、より多くの区民に参加してもらえるスポーツ事業を計画・実施していきます。
R6	パリ2024オリンピックでは、アルバルク東京と協力して、バスケットボール男子日本代表戦のパブリックビューイングを実施し、区一丸となって日本代表を応援しました。そのほか、地域のスポーツ団体等と各種スポーツ教室等を実施し、多くの区民の方にスポーツ体験の機会を提供しました。	引き続き地域のスポーツ団体等と協力・連携を図りながら、より多くの方にスポーツに親しんでいただけるよう事業を計画・実施していきます。
R7	ヨネックスと連携した区内の親子を対象としたバドミントン教室の実施等、関係団体との新規事業を実施するとともに、例年、関係団体と継続して実施している各種スポーツイベントも実施しました。	引き続き地域のスポーツ団体等と協力・連携を図りながら、より多くの方にスポーツに親しんでいただけるよう事業を計画・実施していきます。

エ スポーツボランティア等の活動支援

2－①－エ スポーツボランティアの養成

事業概要

地域の生涯スポーツ・レクリエーションの振興を推進するため、「支えるスポーツ」の担い手として、スポーツボランティアを登録・養成・派遣します。

指標：派遣実績数（単位）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	18	18	19	19	20
実績（D）	18	23	32	31	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	スポーツボランティアの登録者数が増え、活動回数も前年度の倍になりました。健常者も障害者も一緒に活動できる機会も増やすことができました。	特別な能力が必要なく誰もができるのがスポーツボランティアであり、養成するには多様なボランティアとともに従事、交流するOJTが一番です。そのため、１回当たりの従事者の受け入れ数増加を図ります。
R5	健常者も障害者も一緒に活動できる機会を増やすことができました。ただし、活動回数は増えましたが、応募するボランティアに偏りがありました。	再度、ボランティア登録者数を増やし、受け入れ数も増やすために、周知を図ります。
R6	スポーツボランティアの登録者数が増え、活動実績も増加しました。多くのボランティアが参加したことにより、事業が活性化しました。	引き続きボランティア登録者数を増やすために周知を図ります。
R7	各事業において、多くのボランティア従事の申込があり、滞りなく各事業を実施することができました。	引き続きボランティア登録に関する周知を図るとともに、各事業へ積極的にボランティアを活用してまいります。

(2)分野別基本方針② いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる環境づくり
ア 気軽にスポーツを楽しめる環境の整備

2－②－ア スポーツ交流ひろばの充実【再掲】

事業概要

区立小・中学校の体育館や校庭を活用し、地域の指導員の指導のもと曜日や種目を設定し、区民の身近なスポーツ活動の場として開放します。

指標:参加者数(人)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標(P)	23,878	24,474	25,070	25,666	26,265
実績(D)	23,878	24,920	26,869	28,947	

	成果・評価(D・C)	次年度に向けた取組等(A)
R4	区立小・中学校18校にて実施しました。参加者数については、徐々にですが、コロナ禍前の水準に戻りつつあります。	スポーツ交流ひろばに加えて、コロナ禍で中止としていたプール一般開放の再開について、関係機関と検討していきます。
R5	スポーツ交流ひろばは、区立小・中学校18校で実施しました。延べ参加者数は、徐々に増えてきています。 プール一般開放は、４年振りの再開となり、区立中学校１校で４日間実施しました。特に土日に利用者が多く、混雑回避のため、入場制限を行いました。	スポーツ交流ひろばの競技によっては、参加者数が減少しているところもあり、参加者増に向けた広報活動等が必要と考えます。 プール一般開放については、実施校数、実施日数の増に向けて運営方法の検討が必要です。
R6	スポーツ交流ひろばは、区立小・中学校18校で実施しました。延べ参加者数は、徐々に増えてきています。 プール一般開放は、区立中学校１校で４日間開催しました。より安定した事業実施のため、運営方法を変更しました。	スポーツ交流ひろばは、参加者数が減少している種目もあり、効果的な広報活動について検討していきます。 プール一般開放については、実施校数、実施日数を増やす取り組みを検討します。
R7	スポーツ交流ひろばは、引き続き、区立小・中学校18校で実施しました。学校改修工事が例年よりも多く、開放日が少なかった一方で、参加者数は増加傾向が続いています。プール一般開放は、区立中学校１校で５日間開催しました。	スポーツ交流ひろばは、種目ごとに参加者数の幅があるため、参加者数が少ない種目について、周知を行う等により、参加を促していきます。

2－②－ア　まるごと子育て応援未就学児童の遊び場開放事業

事業概要

子どもが外で自由に遊ぶ場所が不足している現状をふまえ、屋外スポーツ施設（六義公園運動場及び後楽公園少年野球場）を活用し、未就学児童を対象に外遊びの機会を提供します。（あおぞらすくすく広場、親子すくすく教室、園児すくすくプログラム）

指標:参加者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	4,561	4,675	4,789	4,903	5,017
実績（D）	4,561	4,340	6,060	5,096	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	屋外スポーツ施設について、空きの多い時間帯を有効活用しながら、未就学児童の外遊びの機会を提供することができました。	引き続き、自由に遊ぶ場所が不足している未就学児童を対象に外遊びの機会を提供していきます。
R5	屋外スポーツ施設（後楽公園少年野球場、六義公園運動場）において、未就学児童へ外遊びの機会の提供、親子向けスポーツ教室を実施しました。	引き続き、未就学児童に対する外遊びの機会の提供を行ってまいります。
R6	屋外スポーツ施設（後楽公園少年野球場、六義公園運動場）において、未就学児童へ外遊びの機会の提供、親子向けスポーツ教室を実施しました。特に、あおぞらすくすく広場については、昨年度より大幅に参加人数を増やすことができました。	引き続き、未就学児童に対する外遊びの機会の提供を行ってまいります。
R7	屋外スポーツ施設において、施設の開放や親子向けスポーツ教室を実施することで、未就学児童へ外遊びの機会を提供しました。	親子向けスポーツ教室については、参加者数が少ないため、周知の強化等、より多くの親子に参加いただけるよう検討していきます。

イ スポーツに関する情報の発信と相談体制の整備

2－②－イ スポーツ交流ひろば通信の発行

事業概要

スポーツ交流ひろばの指導者に向けて、スポーツ振興に関する情報等を発信します。

指標：通信の発行回数（回）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	12	12	12	12	12
実績（D）	12	12	12	12	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	「スポーツ交流ひろば通信」を通じて、必要な情報等を区、区立小中学校及び連絡指導員が共有することで、円滑な事業運営ができました。	引き続き、地域スポーツを普及・振興するため、地域スポーツ情報を提供していきます。
R5	「スポーツ交流ひろば通信」を通じて、必要な情報等を区、区立小中学校及び連絡指導員が共有することで、円滑な事業運営ができました。	引き続き、地域スポーツを普及・振興するため、地域スポーツ情報を提供していきます。
R6	「スポーツ交流ひろば通信」を通じて、必要な情報等を区、区立小中学校及び連絡指導員が共有することで、円滑な事業運営ができました。	引き続き、地域スポーツを普及・振興するため、地域スポーツ情報を提供していきます。
R7	「スポーツ交流ひろば通信」を通じて、指導者や区立小中学校の連絡指導員と情報共有を図り、円滑な事業運営ができました。	スポーツ交流ひろば事業のみならず、区のスポーツイベントの発信にも役立てていきます。

2－②－イ スポーツボランティア情報の提供

事業概要

スポーツボランティア参加イベントの募集や活動状況の報告、参加者の声等、スポーツボランティアに関する情報を広く発信します。

指標：スポーツボランティア協力事業件数（件）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	18	18	19	19	20
実績（D）	18	23	32	31	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	ホームページ等の発信にとどまらず、各種イベント等でスポーツボランティアの情報を発信しました。区主催の各種事業に、ボランティアとして多くの方に参加していただくことができました。	定量的な評価のみならず、ボランティア従事内容を充実させたり、障害のある人も一緒に活動できる機会を増やすなど、定性的な指標も取り組んでいきます。
R5	区主催の各種事業に令和４年度よりも多くの方に参加していただくことができました。	ボランティア従事内容は充実していますが、応募者が偏り減少傾向がありますので、情報発信方法を工夫し、登録者数を増やしていきます。
R6	様々なスポーツ教室等でスポーツボランティアを募集し、多くの参加がありました。ボランティアが参加したことにより、事業が活性化しました。	さらにボランティア登録者数を増やし、幅広く事業に参加いただけるよう周知を図ります。
R7	各事業において、多くのボランティア従事の申込があり、滞りなく各事業を実施することができました。	引き続きボランティア登録に関する周知を図るとともに、各事業へ積極的にボランティアを活用してまいります。

ウ スポーツを楽しむ人を増やす事業の展開

2－②－ウ 地域スポーツ団体の支援・育成

事業概要

地域・生涯スポーツの普及・発展のため、各種区民大会や教室事業等の開催を委託し、自主的なスポーツ活動を行う団体を育成します。

指標：インクルーシブ推進事業補助金申請件数（件）※令和4年度のみ「REスタート補助金」

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	11	20	20	20	20
実績（D）	11	10	17	15	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	REスタート補助金の申請件数が11件ありました。各スポーツ事業の再興へ貢献しました。	補助金の趣旨や申請方法等、周知活動に力を入れ目標以上の申請となるよう取り組みます。
R5	インクルーシブスポーツ推進事業等補助金について、10団体からの申請があり、14事業で制度が活用されました。年齢、性別、障害の有無を問わず誰もが参加できるインクルーシブ要素を含んだ事業を増やすきっかけづくりとなりました。	多くの団体が補助制度を活用できるよう、制度の趣旨や申請方法等、周知活動に力を入れます。
R6	インクルーシブスポーツ推進事業等補助金の申請団体数は９団体でしたが、事業数は17事業に増加しました。また、新たな団体からの申請もありました。	要綱改正により、より活用しやすい制度にするとともに、SNSやホームページなどの広報を工夫して周知を図り、実績値の増加を目指します。
R7	インクルーシブスポーツ推進事業等補助金の申請団体は８団体、事業数は15事業で制度が活用されました。事業数を維持する結果となり、インクルーシブスポーツに触れる機会の創出に貢献しました。	多くの団体が補助制度を活用できるよう、SNSやホームページなどで工夫して周知に取り組みます。

2－②－ウ 個人利用のためのスポーツ施設の開放と指導員によるアドバイス

事業概要

卓球、バドミントン、バスケットボール、バレーボール、ビーチボール、合気道、弓道、アーチェリー、柔道、剣道、ミニテニスなどの種目について、指導員を配置し、個人向けにスポーツ施設を開放します。

指標：3体育館の一般開放参加者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	22,994	23,568	24,142	24,716	25,293
実績（D）	22,994	21,683	23,648	23,711	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	スポーツセンター、総合体育館及び江戸川橋体育館で実施し、多くの区民等にスポーツする機会の場を提供することができました。	指導員を配置するとともに、地域の身近なスポーツ施設として、多くの区民に利用してもらえる機会を創出していきます。
R5	スポーツセンター、総合体育館及び江戸川橋体育館で様々な競技の一般公開を実施し、多くの区民の方にスポーツする機会を提供することができました。	地域の身近なスポーツ施設として、よりたくさんの区民の方にスポーツをする機会を創出していきます。
R6	スポーツセンター、総合体育館及び江戸川橋体育館で様々な競技の一般公開を実施し、スポーツを行う機会を提供することができました。	引き続き、地域の身近なスポーツ施設として、より多くの区民の方にスポーツをする機会を創出していきます。
R7	引き続き、スポーツセンター、総合体育館及び江戸川橋体育館で各種競技の一般公開を実施し、スポーツを行う機会を提供することができました。	一般公開の機会も含め、より多くの区民の方に、スポーツを行う機会を提供していきます。

2－②－ウ　スポーツの日事業

事業概要

子どもから高齢者まで幅広い年齢層の区民が、スポーツの楽しさを知り自らの健康の維持・増進を図るきっかけをつくるため、スポーツの日事業を開催します。

指標:事業の合計延べ参加者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	4,212	4,317	4,422	4,527	4,633
実績（D）	4,212	2,952			

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	実施日：令和４年10月10日（月・祝）午前９時から午後５時まで 会場：区内スポーツ施設（８か所） 令和４年度は雨天の影響もあり、参加者数に影響が出ました。	より多くの区民に、スポーツを身近に感じたり楽しさを知ってもらうための機会を創出していきます。
R5	実施日：令和５年10月９日（月・祝）午前９時から午後５時まで 会場：区内スポーツ施設等（８箇所） 令和５年度も雨天のため、屋外の事業が中止となった影響が大きく、想定していた参加者を大きく下回る結果となりました。	令和５年度までは、区立スポーツ施設等の指定管理者による「スポーツの日事業」として実施してきましたが、令和６年度以降は、「Bunkyo Sports Park」を実施します。

エ　スポーツ指導者等の育成と確保、技術の強化

2－②－エ　スポーツ指導者の育成

事業概要

スポーツ指導者の資質向上を図るため、スポーツ推進委員、スポーツリーダー、スポーツ交流ひろばの指導員等を対象に各種研修会を実施します。

指標:各種指導者講習会、実技研修等参加者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	62	64	66	68	69
実績（D）	62	60	79	41	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	スポーツ推進委員の自主性も尊重しながら普通救命講習、ボッチャ研修、筑波大学山田教授を招いた講演会等、各種研修を実施し、スポーツ推進委員、スポーツ交流ひろばの指導員等の指導・育成スキルの向上に寄与することができました。	任期の途中から委嘱されるスポーツ推進委員もいるため、すぐに周りの委員と同様な活動ができるよう研修等の充実を図る必要があります。
R5	スポーツ推進委員が企画に携わり、上級救命講習やパラスポーツに関する講習会を実施しました。参加したボランティアやスポーツ交流ひろばの指導員等の知識や障害者理解を深めることに繋がりました。	指導者講習会についての周知に力を入れ、参加者の増加を目指します。また、スポーツ推進委員、ボランティア、スポーツ交流ひろば指導員等の交流を図っていきます。
R6	スポーツ推進委員による企画のもと、スポーツリーダーや体育協会加盟団体員等を対象として、普通救命講習会と指導者講習会を実施し、普段のスポーツ指導に役立つ知識と技術を習得する機会を提供しました。	指導者講習会においては、指導経験に差がある参加者の誰もが、それぞれの担当種目に活用できるような講習内容を検討します。
R7	スポーツ推進委員による企画のもと、講習内容で実技の時間を多くとり、参加者の誰もが、実践して取り組めるよう研修内容を工夫しました。	指導者講習会の周知について、SNS等の広報を工夫し、参加者の増加に取り組みます。

オ　心身の健康づくり

2－②－オ　小・中学生向けスポーツ教室

事業概要

子どもたちの心身の健全な育成とジュニアスポーツの振興を図るため、ローラースポーツ等をはじめとした各種スポーツ教室を開催します。

指標：参加者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	158	162	166	170	174
実績（D）	158	117	156	150	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	文京区ローラースポーツ連盟、文京区少年サッカー連盟・JFAと協働でジュニア向けスポーツ教室を実施しました。初心者も楽しめる教室とし、スポーツをはじめるきっかけづくりとなりました。	協働団体と連携・相談を密にし、その他競技のスポーツ教室が実施できないか検討します。
R5	令和４年度同様、募集人数を上回る応募がありましたが、事業近くになり体調不良等でのキャンセルにより参加者が減少しました。初心者にも楽しむことができ、満足度の高い教室となりました。	ジュニアローラースポーツ教室は、１日の教室を２回開催することにより定員を増やし、より多くのニーズに応えられるようにします。また、事前キャンセルの対応としては、繰り上げ当選等を検討します。
R6	ローラースポーツ教室及びジュニアサッカー教室ともに、運営協力団体と密に連携を図り、初心者でも楽しく体験できるよう教室を実施しました。	引き続き運営協力団体と密に連携を図り、満足度の高いスポーツ教室となるよう実施していきます。
R7	運営協力団体と連携し、参加者が楽しく体験できるよう、ローラースポーツ教室及びジュニアサッカー教室を実施しました。	スポーツ教室の内容が充実するよう、引き続き関係団体と密に連携を図り、教室を実施していきます。

2－②－オ　親子向けスポーツ教室

事業概要

親子や参加者同士のスポーツ活動を通じ、次代を担う子どもたちを健全に育成するとともに、スポーツに親しみをもつきっかけづくりの機会とするため、親子スポーツ教室を開催する。

指標：参加者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	522	535	548	561	575
実績（D）	522	715	1,188	866	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	ジャイアンツアカデミーやトヨタヴェルブリッツ等、計６の協働団体と親子教室を実施し、参加者アンケートでは９割以上から肯定的な評価をいただけました。	新型コロナウイルス感染症に鑑み、参加者を制限した事業もあり、落選者が多数となってしまいました。多くの方が参加できるよう、事業を計画していていきます。
R5	ジャイアンツアカデミーやトヨタヴェルブリッツ等、計６の協働団体と親子及び家族向け事業を実施し、参加者アンケートでは９割以上から肯定的な評価をいただけました。	コロナ禍前の規模で事業を実施し、多くの方に参加していただきました。より多くの方が参加できるよう企画、計画をしていきます。
R6	地域のスポーツ団体等と連携し、各種親子向けスポーツ教室を実施し、親子でスポーツに親しみを持つきっかけづくりの機会を提供することができました。	より満足度の高い教室内容となるよう、運営団体と連携を図り、教室の企画・運営を行っていきます。
R7	親子で楽しくスポーツができる機会を提供するため、地域のスポーツ団体と連携し、親子向けのスポーツ教室を複数回実施しました。	引き続き地域のスポーツ団体と連携を図り、親子向けの各種スポーツ教室の企画・運営を行ってまいります。

2－②－オ　スポーツ交流ひろばの充実【再掲】

事業概要

区立小・中学校の体育館や校庭を活用し、地域の指導員の指導のもと曜日や種目を設定し、区民の身近なスポーツ活動の場として開放します。

指標:参加者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	23,878	24,474	25,070	25,666	26,265
実績（D）	23,878	24,920	26,869	28,947	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	区立小・中学校18校にて実施しました。参加者数については、徐々にですが、コロナ禍前の水準に戻りつつあります。	スポーツ交流ひろばに加えて、コロナ禍で中止としていたプール一般開放の再開について、関係機関と検討していきます。
R5	スポーツ交流ひろばは、区立小・中学校18校で実施しました。延べ参加者数は、徐々に増えてきています。 プール一般開放は、４年振りの再開となり、区立中学校１校で４日間実施しました。特に土日に利用者が多く、混雑回避のため、入場制限を行いました。	スポーツ交流ひろばの競技によっては、参加者数が減少しているところもあり、参加者増に向けた広報活動等が必要と考えます。 プール一般開放については、実施校数、実施日数の増に向けて運営方法の検討が必要です。
R6	スポーツ交流ひろばは、区立小・中学校18校で実施しました。延べ参加者数は、徐々に増えてきています。 プール一般開放は、区立中学校１校で４日間開催しました。より安定した事業実施のため、運営方法を変更しました。	スポーツ交流ひろばは、参加者数が減少している種目もあり、効果的な広報活動について検討していきます。 プール一般開放については、実施校数、実施日数を増やす取り組みを検討します。
R7	スポーツ交流ひろばは、引き続き、区立小・中学校18校で実施しました。学校改修工事が例年よりも多く、開放日が少なかった一方で、参加者数は増加傾向が続いています。プール一般開放は、区立中学校１校で５日間開催しました。	スポーツ交流ひろばは、種目ごとに参加者数の幅があるため、参加者数が少ない種目について、周知を行う等により、参加を促していきます。

(3)分野別基本方針③ スポーツの力を活用した地域づくり
ア スポーツを通じた仲間づくりと地域づくり

2－③－ア 親子向けスポーツ教室【再掲】

事業概要

親子や参加者同士のスポーツ活動を通じ、次代を担う子どもたちを健全に育成するとともに、スポーツに親しみをもつきっかけづくりの機会とするため、親子スポーツ教室を開催する。

指標:参加者数(人)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標(P)	522	535	548	561	575
実績(D)	522	715	1,188	866	

	成果・評価(D・C)	次年度に向けた取組等(A)
R4	ジャイアンツアカデミーやトヨタヴェルブリッツ等、計６の協働団体と親子教室を実施し、参加者アンケートでは９割以上から肯定的な評価をいただけました。	新型コロナウイルス感染症に鑑み、参加者を制限した事業もあり、落選者が多数となってしまいました。多くの方が参加できるよう、事業を計画していきます。
R5	ジャイアンツアカデミーやトヨタヴェルブリッツ等、計６の協働団体と親子及び家族向け事業を実施し、参加者アンケートでは９割以上から肯定的な評価をいただけました。	コロナ禍前の規模で事業を実施し、多くの方に参加していただきました。より多くの方が参加できるよう企画、計画をしていきます。
R6	地域のスポーツ団体等と連携し、各種親子向けスポーツ教室を実施し、親子でスポーツに親しみを持つきっかけづくりの機会を提供することができました。	より満足度の高い教室内容となるよう、運営団体と連携を図り、教室の企画・運営を行っていきます。
R7	親子で楽しくスポーツができる機会を提供するため、地域のスポーツ団体と連携し、親子向けのスポーツ教室を複数回実施しました。	引き続き地域のスポーツ団体と連携を図り、親子向けの各種スポーツ教室の企画・運営を行ってまいります。

2－③－ア　スポ･レクひろば

事業概要

知的障害のある方を主な対象に各種スポーツ・レクリエーション活動を行い、楽しみながら体を動かすことを通じて、仲間づくりの機会とスポーツへのきっかけづくりの場を提供します。

指標:参加者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	245	251	257	263	270
実績（D）	245	395	238	250	

	成果･評価（D･C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	令和３年度は４回の開催であったが、令和４年度は一度も中止することがなく全12回実施できました。また、リゾート＆スポーツ専門学校の学生がボランティアとして運営に加わり、参加者と交流を深めました。	令和４年度は４区合同レクリエーションがリモート形式での交流でとどまりました。今後は対面での交流を図り、参加者が様々な人と交流できる機会を設けていきます。
R5	スタッフやボランティアの学生及び他区の参加者との交流により、参加者の積極的な社会参画に繋げることができました。また、ボランティアの学生の知見が広がることで、障害者スポーツを支える人材育成に寄与することができました。	対象者の拡大を図るとともに、令和4年度から継続での参加者については、安心して参加してもらえるよう、環境の変化を十分に考慮した運営を心がけます。
R6	令和６年度から新たな事業者が運営を担うこととなり、これまでと異なったプログラムとなりましたが、参加者が楽しく参加できるよう運営事業者及びボランティアと連携を図りながら事業を実施することができました。	引き続き運営事業者と密に連携を図りながら、より参加者の満足度が高い事業内容となるよう、事業を企画・運営していきます。
R7	運営事業者と密に連携を図りながら、充実した内容の事業を実施することができました。	新たな参加者獲得に向け、事業周知を行うとともに、充実した事業内容となるよう、引き続き運営事業者と連携を図ってまいります。

イ プロスポーツ団体等との連携・協働

2－③－イ 地域のスポーツ団体等との連携による事業展開【再掲】

事業概要

区内に拠点をもつスポーツ団体等との協力・連携により、スポーツ体験教室や大会等を実施します。

指標：連携事業数（件）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	10	15	18	21	23
実績（D）	10	15	16	17	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	サッカーW杯ではJFAと共同でパブリックビューイングを主催し、区一丸となって大会を盛り上げました。その他、読売巨人軍やアルバルク東京、東京ユナイテッドFCといった関係団体との協働事業も実施し、多くの区民に参加いただきました。	関係団体との協働を広く発信し、連携を強化しながら事業を実施し、区民にとって魅力的で参加しやすいスポーツ事業を計画・実施していきます。
R5	ラグビーW杯及びFIBAW杯ではトヨタヴェルブリッツやアルバルク東京との協力・連携によりパブリックビューイングを主催し、区一丸となって大会を盛り上げました。その他、読売巨人軍や東京ユナイテッドFCといった関係団体との協働事業も実施し、多くの区民に参加いただきました。	関係団体と連携を強化しながら事業を実施し、事業の発信力を高め、より多くの区民に参加してもらえるスポーツ事業を計画・実施していきます。
R6	パリ2024オリンピックでは、アルバルク東京と協力して、バスケットボール男子日本代表戦のパブリックビューイングを実施し、区一丸となって日本代表を応援しました。そのほか、地域のスポーツ団体等と各種スポーツ教室等を実施し、多くの区民の方にスポーツ体験の機会を提供しました。	引き続き地域のスポーツ団体等と協力・連携を図りながら、より多くの方にスポーツに親しんでいただけるよう事業を計画・実施していきます。
R7	ヨネックスと連携した区内の親子を対象としたバドミントン教室の実施等、関係団体との新規事業を実施するとともに、例年、関係団体と継続して実施している各種スポーツイベントも実施しました。	引き続き地域のスポーツ団体等と協力・連携を図りながら、より多くの方にスポーツに親しんでいただけるよう事業を計画・実施していきます。

2－③－イ Bunkyo Sports Park

事業概要

メジャーなスポーツに加えパラスポーツやアーバンスポーツなどの様々なスポーツや運動を体験できる場の提供として、区民のスポーツ振興を図るとともに、多様性への理解を促進することを目的に、各種スポーツ体験ブース、ステージイベントを実施します。

指標：参加者延べ人数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）			8,674	8,954	9,233
実績（D）		8,394	11,253	12,774	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R5	地域のスポーツ団体や大学等と協力してブース運営やステージイベントを行い、新規事業でありながら、延べ8,000人以上の来場がありました。事前申込不要、対象者を「どなたでも」とすることで、よりインクルーシブ要素のあるイベントにすることができました。	誰もが安心してスポーツに触れることができる要素を取り入れ、スポーツ分野におけるSDGs及びインクルーシブ概念を普及するほか、デジタル技術を活用した競技体験等によるスポーツ分野でのDXの推進等を図っていきます。
R6	地域のスポーツ団体等と連携し、野球やサッカーといった定番スポーツから、ボッチャ、ブレイキン等のパラスポーツ、アーバンスポーツといった多様なスポーツを体験できる機会を提供するとともに、スポーツ分野におけるSDGsの概念を普及しました。来場者は、昨年度を大幅に超える延べ11,253人でした。	引き続き地域のスポーツ団体等と連携を図り、スポーツ分野におけるSDGs及びインクルーシブ概念を普及していくとともに、次年度は世界陸上及びデフリンピックが東京で開催されるため、それらに因んだ各種競技体験等の機会を提供することで、大会のレガシー継承や気運醸成を図っていきます。
R7	地域のスポーツ団体等と連携を図り、定番スポーツをはじめとした様々なスポーツ体験ブース等を設置するとともに、東京において、世界陸上及び東京2025デフリンピックが開催されたことから、ハンマー投げやジャベリックスロー、デフバドミントン等、それらに因んだ体験ブースを設置し、大会の気運醸成を図りました。	引き続き地域のスポーツ団体等と連携を図り、定番スポーツやパラスポーツ、アーバンスポーツ等の様々なスポーツ体験ブースを設置し、区民の健康増進や新たなスポーツの楽しさを発見できる機会等の場を提供していきます。

ウ 東京2020大会におけるレガシーの継承と活用

2－③－ウ 障害者スポーツ体験教室

事業概要

障害のある方が気軽にスポーツ活動に参加できる機会とし、様々な障害者スポーツの種目を体験できる教室を開催します。

指標:参加者数(人)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標(P)	1,069	1,100	1,120	1,150	1,175
実績(D)	1,069	2,332	2,342	2,778	

	成果・評価(D・C)	次年度に向けた取組等(A)
R4	東京2020大会の終了後も、ボッチャやブラインドサッカー等パラスポーツを知る教室事業や体験会を行い、多くの区民に参加いただきました。 また、障害のある方でも気軽に参加できるよう内容を工夫した上で、区民誰もが安心して一緒に参加できるイベントを実施しました。	まつり等の場で継続的にパラスポーツに触れ、楽しいと思える機会を区民に提供することにより、パラスポーツの認知度を高めます。 年齢、性別、体力、障害の有無に左右されることなく、誰でも参加できるインクルーシブ要素を取り入れたスポーツ 事業を、今後展開します。
R5	ユニバーサルスポーツフェスタや、花の五大まつりでのボッチャ体験ブースの設置等により、より多くのパラスポーツを体験できる機会を提供し、パラスポーツの認知度を高めることができました。	障害のある方でも安心して応募・参加してもらえるよう、手話通訳者などの協力を得て分かりやすい運営方法を工夫します。 また、誰もが参加できる参加者目線でのインクルーシブスポーツ事業を実施します。
R6	パラスポーツ体験会やニュースポーツ大会などにおいて、年齢や性別、障害の有無等に関わらず誰もがスポーツを体験できる機会を提供し、パラスポーツの認知度を高めました。	区内のまつり会場でのボッチャ体験ブースの設置等を行い、多くの区民がパラスポーツに触れることのできる機会を提供します。あわせて障害がある人が安心して事業に参加できるよう手話通訳者の手配について積極的に案内します。
R7	区内の祭り会場でのボッチャ体験ブースを設置し、多くの区民がパラスポーツに触れる機会を提供するとともに、認知度を高めました。	体験を通じて興味関心を持った参加者がニュースポーツ大会や今後の関連事業へ参加するきっかけづくりとなるよう事業の周知をしていきます。

2－③－ウ Bunkyo Sports Park

事業概要

メジャーなスポーツに加えパラスポーツやアーバンスポーツなどの様々なスポーツや運動を体験できる場の提供として、区民のスポーツ振興を図るとともに、多様性への理解を促進することを目的に、各種スポーツ体験ブース、ステージイベントを実施します。

指標:参加者延べ人数(人)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標(P)			8,674	8,954	9,233
実績(D)		8,394	11,253	12,774	

	成果・評価(D・C)	次年度に向けた取組等(A)
R5	地域のスポーツ団体や大学等と協力してブース運営やステージイベントを行い、新規事業でありながら、延べ8,000人以上の来場がありました。事前申込不要、対象者を「どなたでも」とすることで、よりインクルーシブ要素のあるイベントにすることができました。	誰もが安心してスポーツに触れることができる要素を取り入れ、スポーツ分野におけるSDGs及びインクルーシブ概念を普及するほか、デジタル技術を活用した競技体験等によるスポーツ分野でのDXの推進等を図っていきます。
R6	地域のスポーツ団体等と連携し、野球やサッカーといった定番スポーツから、ボッチャ、ブレイキン等のパラスポーツ、アーバンスポーツといった多様なスポーツを体験できる機会を提供するとともに、スポーツ分野におけるSDGsの概念を普及しました。来場者は、昨年度を大幅に超える延べ11,253人でした。	引き続き地域のスポーツ団体等と連携を図り、スポーツ分野におけるSDGs及びインクルーシブ概念を普及していくとともに、次年度は世界陸上及びデフリンピックが東京で開催されるため、それらに因んだ各種競技体験等の機会を提供することで、大会のレガシー継承や気運醸成を図っていきます。
R7	地域のスポーツ団体等と連携を図り、定番スポーツをはじめとした様々なスポーツ体験ブース等を設置するとともに、東京において、世界陸上及び東京2025デフリンピックが開催されたことから、ハンマー投げやジャベリックスロー、デフバドミントン等、それらに因んだ体験ブースを設置し、大会の気運醸成を図りました。	引き続き地域のスポーツ団体等と連携を図り、定番スポーツやパラスポーツ、アーバンスポーツ等の様々なスポーツ体験ブースを設置し、区民の健康増進や新たなスポーツの楽しさを発見できる機会等の場を提供していきます。

エ　人材・組織（町会・地域クラブ）との連携・協働

2－③－エ　地域スポーツ団体の支援・育成【再掲】

事業概要

地域・生涯スポーツの普及・発展のため、各種区民大会や教室事業等の開催を委託し、自主的なスポーツ活動を行う団体を育成します。

指標：インクルーシブ推進事業補助金申請件数（件）※令和4年度のみ「REスタート補助金」

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	11	20	20	20	20
実績（D）	11	10	17	15	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	REスタート補助金の申請件数が11件ありました。各スポーツ事業の再建へ貢献しました。	REスタート補助金の反省を踏まえて、周知活動に力を入れ目標以上の申請となるよう取り組みます。
R5	インクルーシブスポーツ推進事業等補助金について、10団体からの申請があり、14事業で制度が活用されました。年齢、性別、障害の有無を問わず誰もが参加できるインクルーシブ要素を含んだ事業を増やすきっかけづくりとなりました。	多くの団体が補助制度を活用できるよう、制度の趣旨や申請方法等、周知活動に力を入れます。
R6	インクルーシブスポーツ推進事業等補助金の申請団体数は９団体でしたが、事業数は17事業に増加しました。また、新たな団体からの申請もありました。	要綱改正により、より活用しやすい制度にするとともに、SNSやホームページなどの広報を工夫して周知を図り、実績値の増加を目指します。
R7	インクルーシブスポーツ推進事業等補助金の申請団体は８団体、事業数は15事業で制度が活用されました。事業数を維持する結果となり、インクルーシブスポーツに触れる機会の創出に貢献しました。	多くの団体が補助制度を活用できるよう、SNSやホームページなどで工夫して周知に取り組みます。

2－③－エ　スポーツ指導者地域派遣

事業概要

区民の自主的なスポーツ・レクリエーション活動を促進するため、区内スポーツ団体やＰＴＡ等の地域に対し、スポーツ指導者を派遣し、支援します。

指標：派遣者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	85	100	115	125	135
実績（D）	85	79	114	264	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	コロナウイルス感染症が終息しつつあり、地域のクラブが活動を再開し始めました。それに伴い申請件数が増加し、クラブ活動の補助を行いました。	申請があった種目に偏りがあるため、その他の種目の申請も増加するよう周知に取り組みます。
R5	令和４年度よりスポーツ指導者の派遣人数は減少していますが、派遣の件数は増加（令和４年度38件、令和５年度53件）しており、多くの団体の利用がありました。	派遣人数については減少しているため、より多くの団体利用があるよう周知に取り組みます。
R6	令和５年度に比べ派遣者登録数及び派遣件数がともに増加し、区内のスポーツ・レクリエーション活動の活発化を図ることができました。	制度をより多くの区民に知ってもらうため、区ホームページの工夫や事業でのチラシ配布等、周知を図ります。
R7	区ホームページの工夫や事業でのチラシ配布等に加え、令和７年度から、新たに放課後全児童向け事業にボッチャやドッヂビーの指導者としてスポーツ推進委員を派遣したことで、実績数が増加しました。	引き続き区ホームページの工夫やチラシの配布に取り組みます。

2－③－エ Bunkyo Sports Park

事業概要

メジャーなスポーツに加えパラスポーツやアーバンスポーツなどの様々なスポーツや運動を体験できる場の提供として、区民のスポーツ振興を図るとともに、多様性への理解を促進することを目的に、各種スポーツ体験ブース、ステージイベントを実施します。

指標:参加者延べ人数(人)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標(P)			8,674	8,954	9,233
実績(D)		8,394	11,253	12,774	

	成果・評価(D・C)	次年度に向けた取組等(A)
R5	地域のスポーツ団体や大学等と協力してブース運営やステージイベントを行い、新規事業でありながら、延べ8,000人以上の来場がありました。事前申込不要、対象者を「どなたでも」とすることで、よりインクルーシブ要素のあるイベントにすることができました。	誰もが安心してスポーツに触れることができる要素を取り入れ、スポーツ分野におけるSDGs及びインクルーシブ概念を普及するほか、デジタル技術を活用した競技体験等によるスポーツ分野でのDXの推進等を図っていきます。
R6	地域のスポーツ団体等と連携し、野球やサッカーといった定番スポーツから、ボッチャ、ブレイキン等のパラスポーツ、アーバンスポーツといった多様なスポーツを体験できる機会を提供するとともに、スポーツ分野におけるSDGsの概念を普及しました。来場者は、昨年度を大幅に超える延べ11,253人でした。	引き続き地域のスポーツ団体等と連携を図り、スポーツ分野におけるSDGs及びインクルーシブ概念を普及していくとともに、次年度は世界陸上及びデフリンピックが東京で開催されるため、それらに因んだ各種競技体験等の機会を提供することで、大会のレガシー継承や気運醸成を図っていきます。
R7	地域のスポーツ団体等と連携を図り、定番スポーツをはじめとした様々なスポーツ体験ブース等を設置するとともに、東京において、世界陸上及び東京2025デフリンピックが開催されたことから、ハンマー投げやジャベリックスロー、デフバドミントン等、それらに因んだ体験ブースを設置し、大会の気運醸成を図りました。	引き続き地域のスポーツ団体等と連携を図り、定番スポーツやパラスポーツ、アーバンスポーツ等の様々なスポーツ体験ブースを設置し、区民の健康増進や新たなスポーツの楽しさを発見できる機会等の場を提供していきます。

オ　スポーツの魅力を体感する機会の充実

2－③－オ　初心者向けスポーツ教室【再掲】

事業概要

区民の健康の維持・増進及びスポーツを続けるきっかけづくりの機会として、気軽にスポーツを体験できる各種初心者向けスポーツ教室を開催します。

指標:参加者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	371	380	390	400	408
実績（D）	371	401	432	315	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	個人で簡単に始めることができないスポーツについて、初心者でも気軽に体験できる機会を作ることができました。 種目：アーチェリー、合気道、弓道	初心者向けスポーツ教室を受講した後も、引き続きスポーツを継続できるよう、実施団体等と継続方法等について協議します。
R5	初めての競技に挑戦するきっかけづくりとして、一人では中々始めることができない３種目について初心者向け教室を実施し、たくさんの方のお申込み、ご参加をいただくことができました。 種目：アーチェリー、合気道、弓道	始めたスポーツを定着させる取り組みの展開、新しいスポーツを始める機会の提供に引き続き取り組んでまいります。
R6	これまで開催していた３種目にテニスを加え、初めての競技に挑戦するきっかけづくりとして、一人では中々始めることができない4種目について初心者向け教室を実施しました。 種目：アーチェリー、合気道、弓道、テニス	参加人数を増やす方法を検討するとともに、新しいスポーツを始める機会の提供と、スポーツを継続できる取り組みを引き続き行ってまいります。
R7	新たな競技に挑戦する機会創出を目的として、個人では始めることが難しい３種目について初心者向け教室を実施し、多くの方にご参加いただきました。 種目：アーチェリー、弓道、テニス	初心者向け教室の受講をきっかけに、継続してスポーツ活動に取り組んでいただけるよう、各種教室の実施等、スポーツを体験できる機会の提供に取り組んでまいります。

2－③－オ　小・中学生向けスポーツ教室【再掲】

事業概要

子どもたちの心身の健全な育成とジュニアスポーツの振興を図るため、水泳、ローラースポーツ等をはじめとした各種スポーツ教室を開催します。

指標：参加者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	158	162	166	170	174
実績（D）	158	117	156	150	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	文京区ローラースポーツ連盟、文京区少年サッカー連盟・JFAと協働でジュニア向けスポーツ教室を実施しました。初心者も楽しめる教室とし、スポーツをはじめるきっかけづくりとなりました。	協働団体と連携・相談を密にし、その他競技のスポーツ教室が実施できないか検討します。
R5	令和４年度同様、募集人数を上回る応募がありましたが、事業近くになり体調不良等でのキャンセルにより参加者が減少しました。初心者にも楽しむことができ、満足度の高い教室となりました。	ジュニアローラースポーツ教室は、１日の教室を２回開催することにより定員を増やし、より多くのニーズに応えられるようにします。また、事前キャンセルの対応としては、繰り上げ当選等を検討します。
R6	ローラースポーツ教室及びジュニアサッカー教室ともに、運営協力団体と密に連携を図り、初心者でも楽しく体験できるよう教室を実施しました。	引き続き運営協力団体と密に連携を図り、満足度の高いスポーツ教室となるよう実施していきます。
R7	運営協力団体と連携し、参加者が楽しく体験できるよう、ローラースポーツ教室及びジュニアサッカー教室を実施しました。	スポーツ教室の内容が充実するよう、引き続き関係団体と密に連携を図り、教室を実施していきます。

第５章　文化芸術分野の点検・評価

１．文化芸術分野の評価

文京区アカデミー推進協議会委員（学識経験者）
文化芸術分科会座長　垣内　恵美子

本稿では、令和7年度文化芸術事業について、分野別に評価し、課題を総括する。

基本方針①「だれもが、いつでも、どこでも文化芸術を鑑賞できる環境づくり【みる（鑑賞・観覧等）】」

前年度より参加者数が増え、多様で質の高い事業が展開されたが、利用者数の目標は未達であった。例えば朗読コンテストは、全国から出場者が集まる等広がりがみられたが、観覧者数は減少傾向にあり、幅広い周知、丁寧な広報が求められる。小中学生向け出前コンサートは大変好評であり、学校側の受け入れ態勢等の課題はあるが、できるだけ生の文化芸術にふれる機会を確保できるよう工夫してほしい。

基本方針②「だれもが文化芸術活動を楽しむことができる機会の創出【する（活動・参加等）】」

かるたの魅力を発信するコンテストや森鷗外記念日イベント等魅力的な事業が実施され、充実した内容だったが、目標は未達である。一方、区民オペラ公演はチケットが完売となる等大きな成果が得られたが、興行は変動要素も大きく、柔軟な目標・評価表現を検討してはどうかという指摘があった。市民団体等の活動支援も充実してきたが、リピーター獲得に加え、新規参加者の開拓、広く区民に開かれた事業運営が求められる。

基本方針③「文化芸術を支える人材の育成支援の充実【ささえる（普及・継承・指導等）】」

若年層の参加者数は大幅に目標を上回り、能プロジェクトも参加者から高い評価を得て、目標を達成した。一方、秋の文化祭等での目標未達に加え、俳句大会での作品数が目標を下回った。また、吹奏楽アンサンブルコンテストは、インフルエンザの時期での実施であり、応募は多く、参加者の満足度も高かったが、レッスン不参加校もあり、目標未達となった。多くの参加を得るための実施方法の検討、改善を望みたい。

基本方針④「地域の資源を活かしたまちづくりの推進」

ほとんどの事業で目標を達成した。文京ふるさと歴史館の区民認知度、満足度ともに目標を上回り、森鷗外記念館の満足度も極めて高い（99％）。ふるさと歴史館友の会と区の事業の協力も進んだ。文化発信プロジェクトも目標を上回る参加を得た。今後、デジタルスタンプラリー等の継続展開も期待したい。

以上、本年度も工夫を凝らした多くの事業が実施され、概ね良好な成果を上げた。参加者数等の未達事業であっても、内容は充実しており、参加者の満足度も高い。数値目標に加えて、質的な面も併せて丁寧な評価が求められる。実施面では、インフルエンザ流行時期等の事業について、より一層の工夫、改善が必要である。なお、ふるさと歴史館では、本年度に予定していた地下展示室での特別展が休止になったが、展示はミュージアムの中心的機能の一つであり、十分な環境整備を望みたい。最後に、経済、社会、身体的状況に関わらず文化芸術を楽しめるよう、区民への無料・廉価な料金設定等の仕組みも引き続き検討されたい。子どもの体験格差緩和への取り組みとしても極めて重要であり、配慮が望まれる。

2. 主要事業一覧

分野別基本方針①だれもが、いつでも、どこでも文化芸術を鑑賞できる環境づくり【みる(鑑賞・観覧等)】		アカデミー推進計画	総合戦略	重点
ア　だれもが文化芸術を身近に鑑賞できる機会の充実				
55	文化・芸術に親しむ発表会、大会等の実施	○	○	○
56	事業提携楽団によるコンサート	○	○	
イ　多様な手法による文化芸術の鑑賞機会の提供				
57	小・中学生のための出前コンサート	○	○	
58	文の京コミュニティコンサート	○	○	
59	朗読コンテスト	○	○	
60	シビックコンサート	○	○	
61	夜能動画配信事業	○	○	
ウ　活動につながる契機としての鑑賞機会の提供				
62	文化・芸術に親しむ発表会、大会等の実施【再掲】	○	○	○
分野別基本方針②だれもが文化芸術活動を楽しむことができる機会の創出【する(活動・参加等)】		**アカデミー推進計画**	**総合戦略**	**重点**
ア　文化芸術活動を楽しむことのできる機会の充実				
63	かるたの街文京を発信！【再掲】	○	○	○
64	記念日イベント	○		
65	朗読コンテスト【再掲】	○	○	
イ　市民団体等の活動に対する支援の充実				
66	社会教育関係団体登録制度による活動支援【再掲】	○		
ウ　文化芸術活動の場の提供				
67	舞台芸術創造事業(大ホール)	○	○	
68	舞台芸術創造事業(小ホール)	○	○	
分野別基本方針③文化芸術を支える人材の育成支援の充実【ささえる(普及・継承・指導等)】		**アカデミー推進計画**	**総合戦略**	**重点**
ア　次代を担う層が文化芸術への関心をもつきっかけとなる機会の充実				
69	親子向けコンサート	○	○	
70	観客参加型公演	○		
71	かるたの街文京を発信！【再掲】	○	○	○
イ　文化芸術を支え、継承し、伝える担い手の育成				
72	子ども俳句大会	○		
73	楽器演奏指導	○		
74	文京ふるさと歴史館収蔵品展	○	○	
75	文化・芸術に親しむ発表会、大会等の実施【再掲】	○	○	○
76	I don't know(能)…NO(能)problem!～みんなで親しむ「能(Noh)プロジェクト～	○	○	
ウ　多様な主体との連携・協力による文化資源の継承				
77	文化・芸術に親しむ発表会、大会等の実施【再掲】	○	○	○
78	かるたの街文京を発信！	○	○	○

79	吹奏楽アンサンブルコンテスト	○	○	
分野別基本方針④地域の資源を活かしたまちづくりの推進		**アカデミー推進計画**	**総合戦略**	**重点**
ア　文化資源を活用した事業の推進				
80	「文の京文化発信プロジェクト」	○	○	
イ　特色ある文化資源の魅力の確認や再発見とその発信				
81	文の京ミュージアムネットワーク	○	○	
82	文京ふるさと歴史館特別展	○	○	
83	森鷗外記念館特別展・コレクション企画	○		
84	文の京ゆかりの文化人顕彰事業	○	○	
ウ　地域団体や他分野の団体等、多様な主体と連携したまちづくりの推進				
85	文京ふるさと歴史館友の会の支援	○		
86	「文の京文化発信プロジェクト」【再掲】	○	○	

※総合戦略の欄は、「文の京」総合戦略（令和6年度～令和9年度）に掲載されている事業。

※重点の欄は、令和7年度に文京区の重点施策として選定された事業。

3. 分野別基本方針に対する事業を通じた達成状況

(1)分野別基本方針① だれもが、いつでも、どこでも文化芸術を鑑賞できる環境づくり【みる(鑑賞・観覧等)】

指標	現状値		目標値
1年間に文化芸術を鑑賞した人の割合	81.2% (令和元年度)	88.1% (令和7年度)	83.0%

指標		文化事業への参加者・来場者数			
現状値	目標値	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値
22,595 人 (令和元年度)	25,000人	29,990人	20,556人	19,383人	20,612人

【分野別基本方針①だれもが、いつでも、どこでも文化芸術を鑑賞できる環境づくり【みる(鑑賞・観覧等)】の状況】

だれもが文化芸術を身近に鑑賞できる機会の充実では、文化・芸術に親しむ発表会、大会等を開催し、令和6年度より参加者数は増加しましたが、年度目標を達成することができませんでした。その内のかるた事業では「かるた謎解き展」を開催し、謎解きをメインに区のかるた事業を紹介するパネル展示や動画の放映、競技かるた体験などを実施し、延べ1,549人が来場しました。また、障害者の芸術活動発表の場である障害者アートの展示では、創作者の背景を理解しながら鑑賞できるようなキャプションの作成やギャラリートークを実施したことで、作品及び障害への理解を深める一助となりました。次に、事業提携楽団によるコンサートでは、昨年度に引き続き広報に力を入れ、新たな広報媒体も積極的に取り入れた結果、来場者が増え、令和6年度を上回り、目標値を超える券売を達成することができました。

多様な手法による文化芸術の鑑賞機会の提供では、小・中学生のためにプロの演者による生演奏の出前コンサートを開催し、至近距離での迫力ある生演奏に、多くこどもたちからの「感動した」との声に加え、開催校の関係者からも高い評価を得ました。文の京コミュニティコンサートでは、文化施設以外と連携し、肥後細川庭園松聲閣ではテレビを介し昨年話題となった小泉八雲の語りを薩摩琵琶と共に、文京ガーデン地下広場ではサックスカルテットのコンサートをお届けしました。跡見学園女子大学と連携した「朗読コンテスト」では、「文化と歴史を縁とする包括連携に関する覚書」締結10周年を記念して、課題策を熊本県、熊本市、新宿区ゆかりの文人の作品として開催しました。

活動につながる契機としての鑑賞機会の提供では、秋の文化祭のほか、各種つどい・大会事業、企画展等の展示や能楽及びかるた関係事業等を実施しましたが、目標値を超えることができなかったため、目標達成に向けたより一層の工夫や幅広く事業周知を行う必要があります。

今後も引き続き、性別、年齢、障害の有無に関わらず、だれもが、いつでも、どこでも文化芸術を鑑賞できる環境づくりを推進します。

【アカデミー推進協議会の意見】
◎朗読コンテストは出場者が全国から集まる一方で観覧者は減少傾向にあり、観覧者を惹きつける工夫が必要ではないか。
◎障害者アートの展示で、創作者の背景などのキャプション作成やギャラリートークは、この活動を理解する上で良い取組と感じた。
◎小中学生向け出前コンサートについて、在学中に一度は生の文化芸術にふれる機会を確保できるよう工夫されたい。

(2)分野別基本方針② だれもが文化芸術活動を楽しむことができる機会の創出【する(活動・参加等)】

指標	現状値		目標値
1年間に文化芸術活動をした人の割合	32.4% (令和元年度)	34.6% (令和7年度)	40.0%

【分野別基本方針② だれもが文化芸術活動を楽しむことができる機会の創出【する(活動・参加等)】の状況】

文化芸術を楽しむことのできる機会の充実では、「かるたの街文京を発信！」として文京区にゆかりのある小倉百人一首かるたの魅力を発信する事業を展開しました。名人とクイーンの競技かるたトップ選手2人が戦うドリームマッチには、多くの観覧申込があり、加えて試合をYouTubeチャンネルで生配信したほか、大学生大会のアゼリアカップでは、昨年と同様に16校が参加しました。また、森鷗外に関する記念日イベントでは、鷗外の命日及び誕生日が平日であったため来館者は減少しましたが、前後の土日にイベントを開催することで、その周知を図ることができました。

市民団体等の活動に対する支援の充実では、社会教育関係団体登録制度による活動団体の支援を行う中でも、3年に一度の登録更新手続きにより、各団体の活動状況を正確に把握するとともに、日頃からの各種申請情報の更新内容を周知することで、区民の活動への参加につなげることができました。

文化芸術活動の場の提供では、舞台芸術創造事業において優れた舞台芸術や芸能、文化を習得する機会の提供として、大ホールでは音楽と演劇が一体となった歌劇「アイーダ」公演を行うことで、区民が芸術に触れる機会を創出し、かつ前回に続き公演券売率100%の達成により、区民参加事業実施の成果を多くの観客に披露することができました。小ホールでは区民対象の演劇オーディションを行い、過去最高43名の応募がありました。合格した16人は「もしも若かりし日の文豪たちが現代の文京区に転生したら」というテーマ設定で、区らしさを存分に取り入れたコミカルで温かいお芝居に仕上げました。

これからも、だれもが個々の関心やレベルに応じて気軽に文化芸術に親しめ、楽しむことができる環境づくりを推進していきます。

【アカデミー推進協議会の意見】
◎区民参加オペラ公演の完売・チケット売上率100%達成等は素晴らしい結果である。
◎興行は年ごとに大きな変動要素もあるため、柔軟な目標設定や評価方法を検討してはどうか。

（3）分野別基本方針③　文化芸術を支える人材の育成支援の充実【ささえる（普及・継承・指導等）】

指標	現状値	目標値	令和4年度実績値	令和5年度実績値	令和6年度実績値	令和7年度実績値
若年層（20歳未満）の文化祭・各種つどい・大会への出品及び出演者数	－（令和元年度）	200人	228 人	219 人	130 人	196 人
区文化事業への若年層（20歳未満）の参加者数	－（令和元年度）	1,500人	1,006 人	1,995 人	2,455 人	2,842 人

【分野別基本方針③　文化芸術を支える人材の育成支援の充実【ささえる（普及・継承・指導等）】の状況】

次代を担う層が文化芸術への関心をもつきっかけとなる機会の充実では、親子向けコンサートにおいて、10月の実施時期に合わせてハロウィンをテーマにしたプログラムを行いました。ほかに音楽劇では、オーケストラによる啓発的な要素を持ち合わせた内容の事業を開催し、保護者からも好評を得ました。また、観客参加型公演では、事業提携を結ぶ太鼓芸能集団鼓童の協力により、ワークショップや迫力ある太鼓演奏公演を開催しました。ワークショップでは、10組20人の親子が参加し、公演では273人が迫力ある太鼓演奏を鑑賞しました。

文化芸術を支え、継承し、伝える担い手の育成では、中学生が伝統文化に触れる機会として区内中学校在学生を対象に子ども俳句大会を開催し、学校生活などの自由なテーマ設定としたことで、感性豊かな作品が多数寄せられました。特選・入選作品を財団広報紙や区報等で周知することで、生徒の創作意欲向上と区民にその成果を還元することができました。楽器演奏指導では事業提携先のオーケストラ団員による吹奏楽部員への個別演奏指導を、近年の気候環境に即した対応を施し区立全中学校で3回ずつ行いました。また、こどもたちに興味をもってもらえるような能楽の鑑賞と体験ができる事業「I don't know（能）…NO（能）problem!～みんなで親しむ能（Noh）プロジェクト～」では、前半は能楽師による能の基礎知識と上演する演目のあらすじ紹介、後半は能舞台で使用する太鼓や小鼓等の体験及び能舞台の見学を行い、参加者からは非常に高い評価を得ました。

多様な主体との連携・協力による文化資源の継承では、令和7年度も吹奏楽アンサンブルコンテストの中学生部門に多くの応募があり、抽選となりました。実施時期が冬のため、インフルエンザの流行でレッスンを受けられない生徒や不参加校が出たため、目標値には達することができませんでしたが、参加校からは好評で、満足度の高い事業です。なお、本コンテストはほかで実施の大きな吹奏楽コンクールの前哨戦としての位置付けとなっていることから、実施時期の変更は難しいですが、今までの経験を踏まえてより良い事業となるよう努力していきます。

【アカデミー推進協議会の意見】
◎親子向けコンサートは、ハロウィンやクリスマスなどの集客しやすい時期に開催してほしい。
◎伝統芸能の体験講座は、区の文化資源を活かした貴重な取組なので、続けていってほしい。
◎吹奏楽アンサンブルコンテストについて、現状では実施時期の変更は難しいようだが、中学生部門で多くの応募があり、参加校からの評判もよいようなので盛り上げていってほしい。

(4)分野別基本方針④　地域の資源を活かしたまちづくりの推進

指標	現状値		目標値
文京ふるさと歴史館と森鷗外記念館の区民認知度	－ （令和元年度）	71.8% （令和７年度）	70.0%
文京ふるさと歴史館と森鷗外記念館来館者の展示に関する満足度	82.3% （令和３年度）	92.7% （令和７年度）	90.0%

【分野別基本方針④　地域の資源を活かしたまちづくりの推進の状況】
　文化資源を活用した事業の推進では、文の京文化発信プロジェクトにおいて、目標値の各事業参加者数を達成することができました。事業としては、令和6年度に引き続き石見神楽公演を開催し、600人の申込がありました。ほかにも、啄木学級では岩手県出身の作家を講師として招き講演を開催しました。また、かなざわ講座では、加賀宝生流を題材にした講演を開催しました。引き続き交流自治体との協働により、特色を活かした創造的な活動とその成果の発信を通じて、区をアピールしていきます。
　特色ある文化資源の魅力の確認や再発見とその発信では、文の京ミュージアムネットワークにおいて、例年同様、全体会議の開催と文京ミューズネットマップの作成を行いました。今後もSNSを活用した情報発信や各施設との積極的な連携により、区の貴重な文化資源に触れる機会を提供していきます。文京ふるさと歴史館主催で、出張パネル展「近代の女子高等教育と文京」をシビックセンターアートサロンで開催し、入場者数は1,559人でした。また、宮内庁宮内公文書館と共催した森鷗外記念館特別展・コレクション展は、入館者の展示に関しての満足度は99%でした。この共催展や他自治体との連携事業などにより、区外での周知へ繋がりました。文京区の特色ある歴史・文化を様々な観点から深く研究し展示に生かせるよう引き続き努力します。
　地域団体や他分野の団体等、多様な主体と連携したまちづくりの推進では、引き続き、文京ふるさと歴史館友の会と情報共有を図った上で、同会による自主的な活動の支援し、区の史跡めぐり事業への協力を受けました。また、まち案内を希望する団体とガイドとの橋渡しやガイドになることを希望する方との橋渡しをしました。今後も継続して友の会の活動支援を行います。

【アカデミー推進協議会の意見】
◎近隣の博物館と合同で実施したスタンプラリー等は、その効果もあり来館者数の増加にも繋がっているようなので、継続展開を期待する。
◎ふるさと歴史館については、置かれた状況に応じて出張パネル展をシビックセンターで開催など、その役割を理解し事業を進めていると感じた。

3.文化芸術（№50～81）

4. 主要事業の成果に対する評価

(1)分野別基本方針① だれもが、いつでも、どこでも文化芸術を鑑賞できる環境づくり【みる(鑑賞・観覧等)】
ア だれもが文化芸術を身近に鑑賞できる機会の充実

3－①－ア 文化・芸術に親しむ発表会、大会等の実施

事業概要

文京区秋の文化祭（華道展、茶会、書道展、絵画展）、各種つどい・大会事業（民謡、謡曲、吟剣詩舞道、合唱、日本舞踊、三曲、民踊）、企画展等の展示や能楽及びかるた関係事業を実施します。

指標：事業参加者数の合計（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	14,340	19,120	23,900	23,900	25,000
実績（D）	29,990	20,556	19,383	20,612	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	各事業の参加者数の合計を成果指標としています。コロナ禍で再開できない事業もありましたが、コロナ禍前の２年間（平成30年、令和元年）の平均値23,900人の６割の14,340人を目標としました。 令和４年度単年度事業「文の京ミューズネット施設入館料助成」をのべ16,398人が利用したこともあり、目標を大きく超える実績となりました。	令和５年度は参加者数をコロナ禍前の８割の水準に戻すことを目標とします。全国藩校サミットや文の京ミューズネット加入施設周遊デジタルスタンプラリーなどの新規事業に取り組み、周知活動にも力を入れ、文化事業への参加者を増やします。
R5	各事業の参加者数合計を成果指標としています。令和５年度は参加者数をコロナ禍前の８割の水準に戻すことを目標とし、達成できました。 単年度事業の「全国藩校サミット文京大会」や企画展等各種記念事業では、区民に江戸時代の文化や教育にふれる機会を提供し、多くの参加者がありました。区内障害者施設で制作された絵画等を展示した「Bunkyo Brut」には昨年開催時（462人）の約２倍となる959人の観覧者が訪れました。	定例事業である文化祭や伝統芸能の発表会を開催するとともに、かるた関係の展示や体験イベントを開催して区の文化資源であるかるたの区民への定着及び若年層の文化事業への参加を促します。障害者の芸術活動発表の場である「Bunkyo Brut」も開催３年目を迎え、グッズの販売等内容をさらに充実させていきます。
R6	各事業の参加者数合計を成果指標としていますが、令和６年度は目標を超えることができませんでした。 「文京区×ちはやふるの世界展」を開催し、区内外に区の文化資源であるかるたを身近に感じられるよう競技かるた体験等の機会を提供し、延べ2,129人が来場しました。 また、障害者の芸術活動発表の場である「Bunkyo Brut」には、前年と同程度の観覧者が訪れました。	令和７年度は、謎解きとかるたを組み合わせた体験イベントの実施、児童館等へのかるた講師派遣を行い、若年層の認知度向上を図ります。 また、障害者による文化芸術活動のさらなる活性化を目指すため、有識者が厳選した作品の展示及びギャラリートーク（作品解説）を行い、観覧を楽しみながら作品や障害者に対する理解を深める展示を行います。

R7	各事業の参加者数合計を成果指標としていますが、令和７年度は目標を達成することができませんでした。 「かるた謎解き展」では、謎解きをメインに、区のかるた事業を紹介するパネル展示や動画の放映、競技かるた体験などを実施し、延べ1,549人が来場しました。また、かるた講師派遣は、前年度と同程度の派遣を行いました。 障害者アートの展示では、作品数の十分な確保が苦慮しましたが、創作者の背景を理解しながら鑑賞できるようなキャプションの作成やギャラリートークを実施したことで、作品および障害について理解を深めていただきました。	令和８年度は、かるたの展示は実施しませんが、引き続き児童館等へのかるた講師派遣を実施し、若年層への認知度向上を図ります。 また、障害者アートの展示については、作品数の確保が課題となったことから、令和８年度は作品募集の範囲を「区内障害者通所施設」から「区内在住・在勤・在学」へと広げます。

3－①－ア　事業提携楽団によるコンサート

事業概要

区及び（公財）文京アカデミーと事業提携を結ぶ、東京フィルハーモニー交響楽団及びシエナ・ウインド・オーケストラの協力により文化・芸術の振興を図ります。

指標：来場者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	1,386	6,179	6,179	6,179	6,179
実績（D）	988	5,739	6,200	6,530	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	令和４年度は年度の途中までシビックホールが休館していたため、シエナ・ウインド・オーケストラによるコンサートのみ開催しました。新型コロナウイルスによる入場制限はなくなったが、休館によりシリーズ公演が休止したことが影響し目標値に届かなかったと考えます。	令和５年度、東京フィルハーモニー交響楽団によるシリーズ公演を再開し、ホール休館前に行っていたすべてのシリーズ公演を開催します。より多くの方々に鑑賞いただけるよう効果的な宣伝活動を行い、文化・芸術の振興を図ります。
R5	令和５年度は、ホールの改修工事を経て、すべての公演を実施することができました。 また、新型コロナウイルスの５類移行に伴い、昨年度に比べ目標値に近い実績を残すことができました。特に、響きの森クラシック・シリーズはセット券の販売が順調で、固定客が戻ってきたものと考えます。ただし、指標の目標値に達していないことからさらなる積極的な事業周知が必要と考えます。	シエナ・ウインド・オーケストラの公演は、「わが青春のポピュラーミュージック」というターゲットを中高年に絞った公演としていますが、令和５年度は目標値に達していないことから、ターゲットに見合う広告を打ち、多くの方々に鑑賞いただけるよう、今まで以上に効果的な宣伝活動を行って行くとともにプログラムを工夫し、幅広い世代の方々に鑑賞していただけるよう努めてまいります。
R6	昨年度に引き続き、響きの森クラシック・シリーズのセット券販売が好調だったこと、また一般発売も多くのお客様にお申込みいただき、シリーズすべての公演が完売となりました。 昨年度、券売に苦戦した「わが青春のポピュラーミュージック」は、新しい広告媒体への挑戦やSNSを駆使した活発な広報活動を行い、令和５年度よりも多くのお客様にご鑑賞いただきました。 結果、指標の目標値を達することができました。	人気の響きの森クラシックシリーズは、お客様が定着してきたため、引き続き多くのお客様にご鑑賞いただけるよう、魅力的な公演を実施していきます。 「わが青春のポピュラーミュージック」は、効果のあった広報媒体を活用するほか、新しい媒体についても果敢に挑戦し、多くの方々の目に触れるよう努力していきます。
R7	響きの森クラシック・シリーズセット券のみならず、一般発売も売り上げが好調で、シリーズ全ての公演が完売となりました。 BUNKYO SIENA POPS わが青春のポピュラーミュージックは、昨年度に引き続き広報に力を入れ、新たな広告媒体も積極的に取り入れ、令和６年度を大幅に上回る券売となりました。	両事業共に、委託費の増額に伴い、チケット料金の見直しを検討します。 BUNKYO SIENA POPS わが青春のポピュラーミュージックについては、ターゲットを絞って実施してきましたが、更なる顧客の拡大を目指し、公演名を変更して若い世代にも来場しやすい公演としてまいります。

イ 多様な手法による文化芸術の鑑賞機会の提供

3－①－イ 小・中学生のための出前コンサート

事業概要

子どもたちが身近に文化芸術に触れる機会を提供するため、区及び（公財）文京アカデミーが事業提携する団体による区立小中学校への出前コンサートを行います。

指標：実施した回数（回）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	4	4	4	4	4
実績（D）	4	4	4	4	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	アーティスト及び開催校の理解・協力により新型コロナウイルス感染対策を講じた上で、区立の小・中学校各２校で予定通り開催しました。プロのアーティストによる生演奏を初めて鑑賞する児童・生徒もあり、担当教諭から高い評価をいただきました。	より深い興味・関心を持っていただけるよう、児童・生徒の感想や学校の要望に応じた演奏曲の選定や児童・生徒が参加するプログラムを取り入れていきます。
R5	令和５年度においても、区立の小・中学校各２校で予定通り開催しました。プロのアーティストによる生演奏に触れる機会を提供することができ、児童・生徒のほか、担当教諭からも高い評価をいただきました。	引き続き、より深い興味・関心を持っていただけるよう、児童・生徒の感想や学校の要望に応じた演奏曲の選定や児童・生徒が参加するプログラムを取り入れていきます。
R6	令和６年度においても、区立の小・中学校各２校で予定通り開催しました。公演後に、生徒から演奏者に対し、感想や御礼を直接伝える場を用意し、演奏者のモチベーション向上に繋げました。	東京フィルハーモニー交響楽団出前コンサートについて、小学校側の希望調査で希望校が少ないことから、多くの学校に興味をもっていただけるよう、丁寧な通知文や案内方法を検討します。
R7	令和７年度においても、区立の小・中学校各２校で予定通り開催しました。体育館での実施ですが、児童・生徒数が近年増えて来た影響で全校児童・生徒が入りきれない学校については、学年を絞る等の対応をしました。 演奏者との距離が近く、迫力ある生の演奏に、多くのこどもたちから「感動した」とのお声をいただきました。また、学校長及び担当教諭からも高い評価をいただきました。	東京フィルハーモニー交響楽団出前コンサートについては、例年、実施希望校が少ないことを受け、次年度分は希望調査時期を前倒しし、十分な検討期間を確保します。また、事業の趣旨や流れを写真付きでわかりやすく記載するなどの工夫により、実施校に偏りが無いようにしていきます。

3－①－イ　文の京コミュニティコンサート

事業概要

文京ミューズネット等、区内文化施設において、施設の雰囲気や特長を活かしたミニ・コンサートを行い、音楽等を気軽に楽しむ機会を提供します。

指標：実施した回数（回）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	2	2	2	2	2
実績（D）	2	2	2	2	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	アーティスト及び森鴎外記念館など実施会場の理解・協力により、新型コロナウイルス感染対策を講じた上で予定通り開催しました。区民にとって身近な施設においてプロのアーティストの演奏を気軽に楽しむ機会を提供することができました。	来場者アンケート等を参考に、出演者の協力を得ながら演奏曲や演出等を見直し、より魅力的な内容としていきます。
R5	令和５年度は、傳通院及び東洋文庫ミュージアムにて実施しました。 区民にとって身近な施設においてプロのアーティストの演奏を、気軽に楽しむ機会を提供することができました。特に傳通院の公演では全国藩校サミット文京大会の記念事業として行われた「時代まつり」当日に行ったことから多くの方に足を運んでいただきました。	引き続き、ミューズネット加盟施設を中心により身近な施設で開催できるよう努めてまいります。また、来場者アンケート等を参考に、施設の意向も確認しながら演奏曲や演出等を検討し、より魅力的な内容としていきます。 また、会場のキャパシティーによる入場者制限について検討していきます。
R6	令和６年度は、野球殿堂博物館及び日中友好会館美術館で実施しました。 野球殿堂博物館では、古関裕而の野球殿堂入りを記念したコンサートを施設側からリクエストされたため、演奏にはリクエストの対応が可能なサクソフォンカルテットを採用し、施設の特色と親和性の高い演奏会を提供することができました。こうした要望に応じた対応をすることで、地域施設での文化芸術体験の質の向上につながったと考えています。	令和６年度の日中友好会館でのコンサートは、施設側への配慮として、混雑を回避するため事前申込制としました。このような対応は、事前の打ち合わせでしっかりと施設側の要望を聞き取った上で行いました。 次年度につきましても、円滑な事業運行のためにも、事前の打ち合わせをしっかりと行い、施設側のニーズに応えられるよう、努力していきます。
R7	令和７年度は、肥後細川庭園松聲閣及び文京ガーデン地下広場（春日再開発ビル内）で実施しました。 松聲閣では、NHK朝の連続テレビ小説で話題となった小泉八雲の「耳なし芳一」の語りを薩摩琵琶と共にお届けしました。 文京ガーデン地下広場では、駅とつながる地下通路の開通を記念して実施しました。お昼の時間帯に実施し、通行人の方はもちろん、ビルでお勤めの方もお越しいただき、街の賑わいの一助になったものと考えています。	令和７年度においても、施設側への配慮として、混雑を回避するため事前申込制としました。好評を博し両公演とも定員を上回る応募があり、抽選となりました。 文京ガーデン地下広場では、通行場所の確保をした上で、立見エリアを設置するなどビル側と協議を重ねて実施しました。 次年度につきましても、円滑な事業運行のためにも、事前の打ち合わせをしっかりと行い、施設側のニーズに応えられるよう、努力していきます。

3－①－イ　朗読コンテスト

事業概要

文化人顕彰事業の一環として行うもので、文京ゆかりの作家の作品を課題作として、朗読コンテストを行います。跡見学園女子大学との大学連携により実施します。

指標：観覧者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	200	200	200	200	200
実績（D）	113	126	115	84	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	平成24年度から年１回開催しています。令和４年度は森鷗外没後100年記念事業として鷗外の作品を課題としました。 本選：11月13日　出場者：17人　観覧者：113人 会場：跡見学園女子大学ブロッサムホール　CATV収録・放映　観覧者席の間を空ける等の感染症対策を行いました。	会場観覧者数について目標値に近づくよう、主管の跡見学園女子大学と詳細に打ち合わせを行う中で、会場観覧者募集方法、期間、周知先について工夫します。
R5	令和５年度は岩手県盛岡市友好都市提携５周年として盛岡市ゆかりの宮沢賢治の作品を課題としました。 本選：11月５日　出場者：16人　観覧者：126人 会場：跡見学園女子大学ブロッサムホール　CATV収録・放映	感染症対策の行動制限緩和もあり、昨年度と比べて観覧者数が増加しました。引き続き、主管の跡見学園女子大学と詳細に打ち合わせを行い、さらなる観覧者の増加を目指します。
R6	令和６年度は石川県金沢市との友好交流都市協定締結５周年として金沢市ゆかりの作家の作品を課題としました。 本選：11月3日　出場者：15人　観覧者：115人 会場：跡見学園女子大学ブロッサムホール	連休の中日となり、観覧者が減となりました。今後も主管の跡見学園女子大学との打ち合わせに基づき、期間、周知先、募集方法についてよりよい方法を検討します。
R7	令和７年度は文化と歴史を縁とする包括連携に関する覚書締結10周年として、熊本県、熊本市、新宿区ゆかりの文人の作品を課題作としました。 本選：11月２日　出場者：15人　観覧者：84人 会場：跡見学園女子大学ブロッサムホール	会場観覧者数について目標値に近づくよう、主管の跡見学園女子大学と詳細に打ち合わせを行う中で、会場観覧者募集方法、期間、周知先について工夫します。

3－①－イ シビックコンサート

事業概要

クラッシック・ポップス・ジャズなどの名曲を、管弦楽アンサンブルや声楽にのせて区内の大学及び専門学校生等がお届けするランチタイムコンサートを実施します。

指標：実施した回数（回）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	0	12	12	12	12
実績（D）	0	12	12	12	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	令和４年度は、区民ひろばが使用不可のため事業を休止しました。令和５年度の事業再開に向け、お茶の水女子大学、東邦音楽大学、尚美ﾐｭｰｼﾞｯｸｶﾚｯｼﾞ専門学校と出演月、演目等について調整しました。	区内の音楽系大学・専門学校等と協力し、毎月１回、ランチタイムコンサートを再開します。
R5	ホール改修工事を経て事業を再開しました。オープンスペースでの無料コンサートであるため、区役所を訪れた方に気軽に音楽を触れてもらうことができました。再開以降徐々に来場者が増えて、多くの方に鑑賞していただくことができました。 また、区内の大学及び専門学校生等が、観客の前で演奏する機会の提供をすることができました。	令和６年度も引き続き、区内の音楽系大学・専門学校等と協力し、毎月１回、ランチタイムコンサートを開催してまいります。
R6	令和６年度は、延べ2,378人という多くのお客様にご来場いただきました。 リピーターの方を増やすため、毎回、コンサートの最後に次回のご案内をし、また足を運んでいただけるよう工夫をしました。	２階の戸籍住民課の繁忙期（２～４月）に、コンサート音で窓口の呼び出し音が聞こえづらくなるとの意見を頂戴したため、繁忙期の開催は比較的音量が大きくない楽器の公演になるよう、公演内容を踏まえて、出演月の変更を依頼し調整します。
R7	令和７年度は、延べ2,709人のお客様にご来場いただきました。 出演校の東邦音楽大学が学校機能を埼玉県川越市に集約することに伴い、２月の出演が最後となりました。２月の回は、公演終了後にささやかなセレモニーを開催し、花束贈呈及び東邦音楽大学事務局長からご挨拶を頂戴し、集まった194人のお客様からも大きな拍手をいただきました。	令和８年度から実施校が２校となることを受け、今後のシビックコンサートの実施のあり方について多角的に検討を行いました。課題であるお客様の固定化、出演校サイドの授業スケジュールの調整等の負担などの考慮し、各校２回出場いただく形で調整を行いました。

3－①－イ　夜能動画配信事業

事業概要

公益社団法人宝生会による有料動画配信を利用し、区民が能楽動画を観賞できるようにすることで、コロナ禍における文化施策の一つとして、自宅等にいながらも宝生流の能楽を観賞し、区の有する貴重な文化資源に触れる機会を創出します。

指標：実施回数（回）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	4	4	4	4	4
実績（D）	4	4	4	4	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	4番組に876人の応募があり、全員に視聴権を贈呈しました。 コロナ禍においても大勢の方に芸術鑑賞の機会を提供することができました。	場所や時間の制約を受けずに伝統芸能を鑑賞できる動画視聴権の贈呈事業は、従来の愛好家層以外にも伝統芸能に親しむ人を増やす効果が期待できます。コロナ禍以降も継続し、番組を提供していきます。
R5	人気声優による朗読も好評の「夜能～語り部たちの夜～」及び作家・クリエーターのいとうせいこう氏がナビゲーターを務める「能楽紀行」等の計4番組を提供し、774人の応募がありました。 全体の2割近く（136人）が40歳未満の申込者で、若年層の参加が目立ちました。	今後も初心者にもわかりやすい内容の番組を中心に、動画を提供していきます。
R6	月ごとに趣向を変えた内容で計4番組を提供し、837人の応募がありました。能楽が初めての方、お子様にも楽しんでご鑑賞いただける内容を提供することができました。	今後も初心者にもわかりやすい内容の番組を中心に、伝統芸能に親しみを持ってもらえるような動画を提供していきます。
R7	令和8年度も月ごとに趣向を変えた内容で計4番組を提供し、694人の応募がありました。応募者数及び若年層の申込数ともに減少する結果となりました。	引き続き初心者や若年層に対して、伝統芸能に親しみを持ってもらえるような動画を提供するとともに、応募者数を増やすために、SNSを活用した情報発信を行っていきます。

ウ　活動につながる契機としての鑑賞機会の提供

3－①－ウ　文化・芸術に親しむ発表会、大会等の実施【再掲】

事業概要

文京区秋の文化祭（華道展、茶会、書道展、絵画展）、各種つどい・大会事業（民謡、謡曲、吟剣詩舞道、合唱、日本舞踊、三曲、民踊）、企画展等の展示や能楽及びかるた関係事業を実施します。

指標：事業参加者数の合計（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	14,340	19,120	23,900	23,900	25,000
実績（D）	29,990	20,556	19,383	20,612	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	各事業の参加者数の合計を成果指標としています。コロナ禍で再開できない事業もありましたが、コロナ禍前の２年間（平成30年、令和元年）の平均値23,900人の６割の14,340人を目標としました。 令和４年度単年度事業「文の京ミューズネット施設入館料助成」をのべ16,398人が利用したこともあり、目標を大きく超える実績となりました。	令和５年度は参加者数をコロナ禍前の８割の水準に戻すことを目標とします。全国藩校サミットや文の京ミューズネット加入施設周遊デジタルスタンプラリーなどの新規事業に取り組み、周知活動にも力を入れ、文化事業への参加者を増やします。
R5	各事業の参加者数合計を成果指標としています。令和５年度は参加者数をコロナ禍前の８割の水準に戻すことを目標とし、達成できました。 単年度事業の「全国藩校サミット文京大会」や企画展等各種記念事業では、区民に江戸時代の文化や教育にふれる機会を提供し、多くの参加者がありました。区内障害者施設で制作された絵画等を展示した「Bunkyo Brut」には昨年開催時（462人）の約２倍となる959人の観覧者が訪れました。	定例事業である文化祭や伝統芸能の発表会を開催するとともに、かるた関係の展示や体験イベントを開催して区の文化資源であるかるたの区民への定着及び若年層の文化事業への参加を促します。障害者の芸術活動発表の場である「Bunkyo Brut」も開催３年目を迎え、グッズの販売等内容をさらに充実させていきます。
R6	各事業の参加者数合計を成果指標としていますが、令和６年度は目標を超えることができませんでした。 「文京区×ちはやふるの世界展」を開催し、区内外に区の文化資源であるかるたを身近に感じられるよう競技かるた体験等の機会を提供し、延べ2,129人が来場しました。 また、障害者の芸術活動発表の場である「Bunkyo Brut」には、前年と同程度の観覧者が訪れました。	令和７年度は、謎解きとかるたを組み合わせた体験イベントの実施、児童館等へのかるた講師派遣を行い、若年層の認知度向上を図ります。 また、障害者による文化芸術活動のさらなる活性化を目指すため、有識者が厳選した作品の展示及びギャラリートーク（作品解説）を行い、観覧を楽しみながら作品や障害者に対する理解を深める展示を行います。
R7	各事業の参加者数合計を成果指標としていますが、令和７年度は目標を達成することができませんでした。 「かるた謎解き展」では、謎解きをメインに、区のかるた事業を紹介するパネル展示や動画の放映、競技かるた体験などを実施し、延べ1,549人が来場しました。また、かるた講師派遣は、前年度と同程度の派遣を行いました。 障害者アートの展示では、作品数の十分な確保が苦慮しましたが、創作者の背景を理解しながら鑑賞できるようなキャプションの作成やギャラリートークを実施したことで、作品および障害について理解を深めていただきました。	令和８年度は、かるたの展示は実施しませんが、引き続き児童館等へのかるた講師派遣を実施し、若年層への認知度向上を図ります。 また、障害者アートの展示については、作品数の確保が課題となったことから、令和８年度は作品募集の範囲を「区内障害者通所施設」から「区内在住・在勤・在学」へと広げます。

(2)分野別基本方針②　だれもが文化芸術活動を楽しむことができる機会の創出【する(活動・参加等)】
ア　文化芸術活動を楽しむことのできる機会の充実

3－②－ア　かるたの街文京を発信！【再掲】

事業概要

文京区にゆかりある小倉百人一首かるたの魅力を発信するため、講演会や体験イベント、かるた教室等を実施します。

令和8年度に向けた目標(P)

事業の新設やPRの強化を行うことで実績を増加させ、競技かるたが区の文化資源として内外に認知されること、区内に競技かるたに親しむ人が増えることを目標とします。

	成果・評価(D・C)	次年度に向けた取組等(A)
R4	競技かるた最上位の対決「名人・クイーンドリームマッチ」を開催し、動画配信も行って、内外に「かるたの街文京」をPRしました。 競技者を増やす事業として、学校への講師派遣やかるた教室の開催（共催）を実施しました。	令和４年度に実施した「名人・クイーンドリームマッチ」を継続して開催するとともに、大学生大会も新設して、区と競技かるたとのつながりをさらに発信していきます。 また学校への講師派遣数を増加させ、競技かるたに触れるこどもの数を増やすように努めます。
R5	大学対抗戦「文の京アゼリアカップ」を創設し、14大学から16組の参加がありました。 競技かるたトップ選手の２人が戦う名人・クイーンドリームマッチは初年度の2.3倍である412人の申し込みがあり、来場者のアンケート（回答者122人、回答率84.7%）では93%が「とてもよかった」「よかった」と回答しました。	かるた関係の展示や体験イベントの開催、講師派遣の対象施設拡大等を実施し、引き続き競技かるたという区の文化資源の区民への定着及び若年層の文化事業への参加を促していきます。 また大学生大会「文の京アゼリアカップ」をより発展させるよう周知方法・大会内容等を検討します。
R6	競技かるたトップ選手の２人が戦う名人・クイーンドリームマッチは440人（前年412人）の申し込みがあり、来場者のアンケート（回答者130人、回答率77.8%）では95%が「とてもよかった」「よかった」と回答しました。また、大学生大会「文の京アゼリアカップ」では、16校が参加しました。	かるた関係の展示や体験イベントの開催、講師派遣の対象施設拡大等を実施し、引き続き競技かるたという区の文化資源の区民への定着及び若年層の文化事業への参加を促していきます。 また大学生大会「文の京アゼリアカップ」をより発展させるよう周知方法・大会内容等を検討します。
R7	競技かるたトップ選手の２人が戦う名人・クイーンドリームマッチは、312人（前年440人）の申し込みがありました。来場者のアンケート（回答者148人、回答率約82%）では約91%が「とてもよかった」「よかった」と回答し、好評を得ました。大学生大会のアゼリアカップでは、昨年同様16校が参加しました。 小中学校等へのかるた講師派遣は、前年同様５校のほか、児童館１館、育成室１室に派遣を行いました。	引き続き、区の文化資源である競技かるたを区民に定着させていくために、区ホームページへのアクセス媒体を把握するとともに、SNSを活用した効果的な情報発信を行い、名人・クイーンドリームマッチや「文の京アゼリアカップ」の周知を図っていきます。

3－②－ア　記念日イベント

事業概要

森鷗外に関する記念日に講演会、イベント、来館者サービスを行い鷗外に関して親しみを持てる取り組みを行います。

指標：記念日入館者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	400	400	400	400	400
実績（D）	971	800	647	608	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	令和４年度は森鷗外没後100年記念年であったため鷗外忌（鴎外の命日７月９日492人）、誕生記念（１月19日479人）は区民観覧無料などを実施し、７事業全ての集客は例年の２倍以上となりました。	無料入館以外にイベントや講演会を開催し幅広い層の誘客を目指し計画します。人数は曜日によっても変動するため充実した内容を立案し多角的に広報します。
R5	前年の鷗外没後100年記念で周知されたためか、令和５年度の鴎外忌も前年に届く来館数となりました。鷗外忌（鴎外の命日７月９日500人）、誕生記念（１月19日300人）。	幅広い層への記念日周知を目指し、広報媒体の工夫で誘客を計画します。
R6	今年度の鷗外誕生日が日曜日にあたり、例年より大幅に来館者が増えました。鷗外忌（鷗外の命日７月９日127人）、誕生記念（１月19日520人）。	該当日、または該当日前後に記念日にちなんだイベントを充実させるなど、誘客につながる企画を計画します。
R7	命日、記念日が平日であったため前年より来館者減となりましたが前後の土日にイベントを当て記念日を周知することができました。鷗外忌（鷗外の命日７月９日295人）、誕生記念（１月19日313人）	引き続き幅広い層に届くよう広報やイベントを工夫し誘客につなげる計画をします。

3－②－ア　朗読コンテスト【再掲】

事業概要

文化人顕彰事業の一環として行うもので、文京ゆかりの作家の作品を課題作として、朗読コンテストを行います。跡見学園女子大学との大学連携により実施します。

指標：観覧者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	200	200	200	200	200
実績（D）	113	126	115	84	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	平成24年度から年１回開催しています。令和4年度は森鷗外没後100年記念事業として鷗外の作品を課題としました。 本選：11月13日　出場者：17人　観覧者：113人 会場：跡見学園女子大学ブロッサムホール　CATV収録・放映　観覧者席の間を空ける等の感染症対策を行いました。	会場観覧者数について目標値に近づくよう、主管の跡見学園女子大学と詳細に打ち合わせを行うなかで、会場観覧者募集方法、期間、周知先について工夫します。
R5	令和５年度は岩手県盛岡市友好都市提携5周年として盛岡市ゆかりの宮沢賢治の作品を課題としました。 本選：11月5日　出場者：16人　観覧者：126人 会場：跡見学園女子大学ブロッサムホール　CATV収録・放映	感染症対策の行動制限緩和もあり、昨年度と比べて観覧者数が増加しました。引き続き、主管の跡見学園女子大学と詳細に打ち合わせを行い、さらなる観覧者の増加を目指します。
R6	令和６年度は石川県金沢市との友好交流都市協定締結５周年として金沢市ゆかりの作家の作品を課題としました。 本選：11月３日　出場者：15人　観覧者：115人 会場：跡見学園女子大学ブロッサムホール	連休の中日となり、観覧者が減となりました。今後も主管の跡見学園女子大学との打ち合わせに基づき、期間、周知先、募集方法についてよりよい方法を検討します。
R7	令和7年度は文化と歴史を縁とする包括連携に関する覚書締結10周年として、熊本県、熊本市、新宿区ゆかりの文人の作品を課題作としました。 本選：11月2日　出場者：15人　観覧者：84人 会場：跡見学園女子大学ブロッサムホール	会場観覧者数について目標値に近づくよう、主管の跡見学園女子大学と詳細に打ち合わせを行う中で、会場観覧者募集方法、期間、周知先について工夫します。

イ 市民団体等の活動に対する支援の充実

3－②－イ 社会教育関係団体登録制度による活動支援【再掲】

事業概要

区民の自主的な文化・スポーツ・学習活動を促進するため、一定の要件を満たす団体を社会教育関係団体として登録し、施設の優先利用や利用料金の減免などを行い、その活動を支援します。

令和8年度に向けた目標（P）

区民の自主的な文化・スポーツ・学習活動を支援するため、登録団体名簿を周知します。また、団体の活動内容を正確に把握するため、令和７年度の更新に向けて、登録団体へ広く周知します。

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	登録団体名簿の関連施設への配架及びホームページへの掲載により、登録団体を広く周知し、区民の自主的な活動の促進につながりました。 また、３年に一度の更新を実施し、活動している団体をより正確に把握することができました。	引続き、区民の自主的な活動の促進のため、登録団体名簿を更新し、関連施設への配架、ホームページへ掲載します。また、団体の活動内容を正確に把握するため、活動実績の提出を求めるとともに、区民への周知を図ります。
R5	関連施設への登録団体名簿の配架や、ホームページの更新で、最新情報を周知することで、区民へ活動への参加を促すことができました。 また、実績報告書の提出を依頼し、団体の活動内容を把握をすることができました。	登録団体名簿やホームページの更新に加え、団体から実績報告書を提出していただき、活動内容を正確に把握していきます。引き続き、区民の自主的な活動促進を図ります。
R6	登録団体からの実績報告書の提出により、活動内容を正確に把握し、登録団体名簿やホームページの更新を行ったことで、区民の自主的な活動を促すことができました。	３年に一度の登録更新により、活動している団体を正確に把握、周知することで、区民の自主的な活動促進を図ります。
R7	登録の更新手続きにより、各団体の活動状況を正確に把握するとともに、日頃の新たな申請や変更申請に基づき、登録団体名簿やホームページを適宜更新し、その情報を周知することで、区民の活動への参加につなげることができました。	引続き、区民の主体的な活動を促進するため、登録団体の情報を名簿及びホームページへ掲載し、活動実績を区民へ周知することで、活動への参加を促します。

ウ 文化芸術活動の場の提供

3－②－ウ 舞台芸術創造事業（大ホール）

事業概要

区民を対象にオペラ等の公演を目標とする講習会を実施し、優れた舞台芸術や芸能、文化を習得する機会を提供します。

指標：参加者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	59	112	112	112	112
実績（D）	47	117	127	119	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	令和４年度は、新型コロナウイルス感染拡大により中止となった令和２年度の参加者による「ラ・ボエーム」の再演を計画し、無事開催することができました。アンケートから、参加者は２年越しで公演を実現することができ大きな満足を得たことがわかりました。	令和５年度からは、より多くの区民が参加できるよう通常の形での開催を予定しています。参加者の募集について、区報および（公財）文京アカデミー広報紙、ホームページ等を活用し、広く周知を図ります。
R5	令和５年度は、歌劇「椿姫」の公演を行いました。 様々な媒体で参加募集の宣伝を行い、参加者数の目標値を達することができ、多くの区民の方に芸術に触れる機会を提供することができました。	令和６年度の公演が「トゥーランドット」に決まり、引き続き多くの区民が参加できるように様々な媒体で宣伝を行ってまいります。
R6	令和６年度は、歌劇「トゥーランドット」の公演を行いました。 広報活動の成果が実り、令和６年度も多くの区民の方に参加いただき、芸術に触れる機会の創出を行うことができました。 また、公演の券倍率が100％となり、区民参加の成果を多くのお客様にご鑑賞いただくことができました。	令和６年度は大変多くの区民に参加いただきましたが、管理や運営の面では苦労が多かったことから、舞台に上がる人数として安全に公演が実施できるよう、次年度については適正数の参加にとどめるようにします。
R7	令和７年度は、歌劇「アイーダ」の公演を行いました。 令和７年度も多くの区民の方に参加いただき、芸術に触れる機会の創出を行うことができました。 公演の券売率も前年度に引き続き100％となり、区民参加者の成果を多くのお客様にご鑑賞いただくことができました。	令和７年度についても多くの区民に参加いただきましたが、引き続き適正な参加者数について検討し、運営及び舞台上の安全面の配慮に努めてまいります。

3－②－ウ　舞台芸術創造事業（小ホール）

事業概要

区民を対象に演劇等の舞台技術を学ぶ機会を提供し、活動を通じて優れた舞台芸術や芸能、文化を習得する機会を提供します。

指標：参加者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	15	15	15	15	15
実績（D）	7	14	14	16	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	令和４年度は、５カ月のワークショップを通して、参加者のエピソードを舞台化し、参加者自身が演じる形での公演を開催しました。公演後、参加者から「自らのエピソードを自らが演じたことで大きな満足感が得られた。」との声が寄せられました。	令和５年度の区民演劇については、参加者がさらにモチベーションを高められるよう、ワークショップの講師と協議の上、内容を工夫していきます。
R5	令和５年度は、ワークショップの区内の街歩きを通して、物語となる題材を発掘し、それを基に作成したそれぞれの台本を、スクラップブック形式でひとつにして、参加者自身が演じる手法で公演を開催しました。地域の特性を盛り込んだストーリーで好評を得ることができました。 応募者数は22人で、オーディションにより15人に絞りました。なお、うち１名はワークショップ開催前に辞退されました。	令和６年度も引き続き、参加者がさらにモチベーションを高められるよう、ワークショップの講師と協議の上、内容を工夫していきます。
R6	令和６年度の応募者数は24人で、オーディションにより14人に絞りました。目標値は15人ですが、大ホールの区民参加事業（オペラ）にも申し込んでいる方を除き（同時の参加は難しいため）、また男女比のバランス、協調性等を加味し、14人となりました。 14人の参加者は、ワークショップや長期間の稽古を積む中で、団結力が高まり、それが芝居に良い影響をもたらし、見応えのある作品となりました。	令和６年度のワークショップは、テーマが「和菓子」であったため区内和菓子店を巡ったほか、区内の和菓子職人をお呼びして講師との対談を行うなど、工夫を凝らしました。このような、他では味わえない体験ができることを、区民に対して発信し、より多くの方が応募されるよう努力していきます。
R7	令和７年度の応募者数は過去最高人数の43人でした。本事業の認知度が上がってきたものと考えています。オーディションで16人に絞り、ワークショップと長期間の稽古を重ね１日２回公演を実施しました。「もしも若かりし日の文豪たちが現代の文京区に転生したら」というテーマで文京区らしさを存分に取り入れながらコミカルで温かいお芝居に仕上がりました。	令和７年度も完成度の高い作品となりましたが、鑑賞者数は、延べ302人に留まりました。多くのお客様に鑑賞いただくためにも、引き続き、出演者による動画PRなど、SNS等を駆使しながら、広報に力を入れていきます。

(3)分野別基本方針③ 文化芸術を支える人材の育成支援の充実【ささえる(普及・継承・指導等)】

ア 次代を担う層が文化芸術への関心をもつきっかけとなる機会の充実

3－③－ア 親子向けコンサート

事業概要

幼少期から保護者等と一緒に生の音楽等に触れる機会を提供します。

指標:来場者数(人)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標(P)	495	1,029	1,029	1,029	1,029
実績(D)	509	1,026	1,059	1,067	

	成果・評価(D・C)	次年度に向けた取組等(A)
R4	令和４年度は、年度途中までシビックホールが休館のため、「フルーツの国のおんがくパーティー♪」のみ開催しました。(公財)文京アカデミーの自主制作による公演であり、観客のアンケートでも高い評価をいただきました。	令和５年度については、「フルーツの国のおんがくパーティー♪」に加え、「東京フィル　親子で楽しむはじめてのオーケストラ」を開催します。宣伝活動を積極的に行い、多くの親子に生の音楽に触れる機会を提供します。
R5	「フルーツの国のおんがくパーティー♪」は、フルート、クラリネット、パーカッションのアンサンブルによる生の音楽を楽しんでいただくほか、楽器の面白さが伝わるプログラムで高評価を得ました。 「親子で楽しむはじめてのオーケストラ」は、子どもたちの情操教育の一環として、オーケストラやオペラ歌手による演奏で生のクラシック音楽に触れる機会を提供し、多くの親子連れに楽しんでいただきました。	令和５年度の実績数は、あと一歩目標値に達することができなかったため、今後も積極的かつ効果的な広報活動を行い、より多くの親子に生の音楽に触れる機会を提供します。
R6	「フルーツの国のおんがくパーティー♪」は、実施時期がひなまつりの直前であったため、ひなまつりの音楽や春の曲をメインに、季節感あふれる公演を実施しました。 「親子で楽しむはじめてのオーケストラ」は、子どもたちが飽きることなく公演を楽しめるよう、前半に事業提携を結んでいる東京フィルハーモニー交響楽団と連携してオリジナルの音楽劇を上演し、後半は音楽コンサートをお届けしました。なお、２日間の公演共にチケットは完売し、多くのお客様にお楽しみいただきました。	次年度も、事業提携団体との連携を更に深め、工夫を凝らした様々な形の事業を行うことで、文化芸術に関心が持てるきっかけとなるよう、機会の創出に努めます。
R7	「フルーツの国のおんがくパーティー♪」は、10月の実施時期に合わせて、ハロウィンをテーマにお楽しみいただきました。 「親子で楽しむはじめてのオーケストラ」の音楽劇では、オリジナル台本の「オオカミ少年」をお届けしました。啓発的な要素も持ち合わせた内容で、親御様からも好評でした。	令和７年度からこども向けの公演の開場時に、こどもたちがワクワクするような明るい音楽を流しています。中には、大人が入り口に待ち構えていることを怖がり、会場に入る際に泣き出してしまう子もいるため工夫を施しました。令和８年度も継続する予定です。 こどもたちが、楽しみながら文化芸術に触れられるよう、今後も様々な工夫をしながら、より良い公演作りに努めてまいります。

3－③－ア　観客参加型公演

事業概要

区及び（公財）文京アカデミーと事業提携を結ぶ、太鼓芸能集団鼓童の協力により、観客参加型の交流公演とワークショップを実施します。

指標：来場者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	284	284	284	284	284
実績（D）	291	281	310	293	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	公演前に「親子で楽しむ太鼓ワークショップ」を開催し、17人の親子が参加しました。例年、公演の中でも「太鼓演奏体験」を行ってきましたが、令和４年度は新型コロナウイルスの影響により「太鼓演奏体験」の実施は見送りました。リニューアルした小ホールにて、多くの親子が鼓童の公演を鑑賞しました。	社会状況を見ながら出演者と協力し、観客が実際に太鼓を演奏する機会を提供できるようワークショップおよび太鼓演奏体験の実施を計画します。
R5	公演前に「親子で楽しむ太鼓ワークショップ」を開催し、15組30人の親子が参加しました。 また、公演は281人が迫力ある太鼓演奏を鑑賞しました。令和５年度は公演の中でも実施する「太鼓演奏体験」を再開することができ、抽選で選ばれた方が実際に太鼓演奏を体験することができました。	令和６年度も引き続き、観客が実際に太鼓を演奏する機会を提供できるようワークショップおよび太鼓演奏体験の実施を計画します。
R6	「親子で楽しむ太鼓ワークショップ」を開催し、11組22人の親子が参加しました。 また、公演では288人が迫力ある太鼓演奏を鑑賞しました。令和６年度も公演の中で実施する「太鼓演奏体験」を行うことができ、抽選で選ばれた方が実際に太鼓演奏を体験しました。	次年度も提携団体である鼓童と更なる連携を深め、より多くの観客が太鼓の魅力を知るきっかけとなるよう努めます。
R7	「親子で楽しむ太鼓ワークショップ」を開催し、10組20人の親子が参加しました。 また、公演では273人が迫力ある太鼓演奏を鑑賞しました。なお、好評によりチケットは完売いたしました。	次年度は太鼓芸能集団鼓童が創立45周年を迎えられます。節目となる年ですので、提携団体として、当該公演のみならず様々な公演でより一層連携を深め、協力関係を強化していきます。

3－③－ア　かるたの街文京を発信！【再掲】

事業概要

文京区にゆかりある小倉百人一首かるたの魅力を発信するため、講演会や体験イベント、かるた教室等を実施します。

令和8年度に向けた目標（P）

事業の新設やPRの強化を行うことで実績を増加させ、競技かるたが区の文化資源として内外に認知されること、区内に競技かるたに親しむ人が増えることを目標とします。

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	競技かるた最上位の対決「名人・クイーンドリームマッチ」を開催し、動画配信も行って、内外に「かるたの街文京」をPRしました。 競技者を増やす事業として、学校への講師派遣やかるた教室の開催（共催）を実施しました。	令和４年度に実施した「名人・クイーンドリームマッチ」を継続して開催するとともに、大学生大会も新設して、区と競技かるたとのつながりをさらに発信していきます。 また学校への講師派遣数を増加させ、競技かるたに触れるこどもの数を増やすように努めます。
R5	大学対抗戦「文の京アゼリアカップ」を創設し、14大学から16組の参加がありました。 競技かるたトップ選手の２人が戦う名人・クイーンドリームマッチは初年度の2.3倍である412人の申し込みがあり、来場者のアンケート（回答者122人、回答率84.7%）では93%が「とてもよかった」「よかった」と回答しました。 小中学校への講師派遣は令和４年度の３校から５校に増加しました。	かるた関係の展示や体験イベントの開催、講師派遣の対象施設拡大等を実施し、引き続き競技かるたという区の文化資源の区民への定着及び若年層の文化事業への参加を促していきます。 また大学生大会「文の京アゼリアカップ」をより発展させるよう周知方法・大会内容等を検討します。
R6	競技かるたトップ選手の２人が戦う名人・クイーンドリームマッチは440人（前年412人）の申し込みがあり、来場者のアンケート（回答者130人、回答率77.8%）では95%が「とてもよかった」「よかった」と回答しました。また、大学生大会「文の京アゼリアカップ」では、16校が参加しました。 小中学校への講師派遣は前年同様５校でしたが、児童館（２館）及び育成室（１室）と対象を拡充しました。	かるた関係の展示や体験イベントの開催、講師派遣の対象施設拡大等を実施し、引き続き競技かるたという区の文化資源の区民への定着及び若年層の文化事業への参加を促していきます。 また大学生大会「文の京アゼリアカップ」をより発展させるよう周知方法・大会内容等を検討します。
R7	競技かるたトップ選手の２人が戦う名人・クイーンドリームマッチは、312人（前年440人）の申し込みがありました。来場者のアンケート（回答者148人、回答率約82%）では約91%が「とてもよかった」「よかった」と回答し、好評を得ました。大学生大会のアゼリアカップでは、昨年同様16校が参加しました。 小中学校等へのかるた講師派遣は、前年同様５校のほか、児童館１館、育成室１室に派遣を行いました。	引き続き、区の文化資源である競技かるたを区民に定着させていくために、区ホームページへのアクセス媒体を把握するとともに、SNSを活用した効果的な情報発信を行い、名人・クイーンドリームマッチや「文の京アゼリアカップ」の周知を図っていきます。

イ 文化芸術を支え、継承し、伝える担い手の育成

3－③－イ 子ども俳句大会

事業概要

区内中学校在学生を対象に、日本の伝統的文化のひとつである俳句を通じて自然や四季、日本語の美しさ、俳句の楽しさを体験します。

指標:応募数(句)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標(P)	730	900	1,000	1,000	1,200
実績(D)	818	776	1,176	738	

	成果・評価(D・C)	次年度に向けた取組等(A)
R4	全入選句（特選10句・入選20句）について（公財）文京アカデミーのホームページ及び歌壇・俳壇作品集に掲載したとともに、特選に選ばれた10句は、財団広報誌スクエア及び区報ぶんきょうにも掲載しました。	応募作品数増につなげるには学校の協力が不可欠であることから、事業趣旨への理解や投句への協力について丁寧に説明し、協力を求めます。
R5	区内中学校に直接的に周知し、区立の中学生他、区内中学生より日々の暮らしの中での出来事からスケールの大きい作品など、中学生の視線ならではの力作が寄せられました。特選10句・入選20句について財団ホームページ及び歌壇・俳壇作品集に掲載したとともに、特選に選ばれた10句は、財団広報誌スクエア及び区報ぶんきょうにも掲載しました。	より深い興味・関心を持っていただけるよう、学校の要望等に応じ、時期や題とすることで、より魅力的な内容としていきます。
R6	区内中学校へのチラシ・ＰＤＦの配付により直接的に周知したことで、中学生ならではの感性を持った句や力作が多数寄せられました。特選10句・入選20句について財団ホームページ及び歌壇・俳壇作品集に掲載するとともに、特選に選ばれた10句は、財団広報誌スクエア及び区報ぶんきょうにも掲載しました。	実施時期やテーマを丁寧な選定とあわせ、関連する文化や文芸・芸術等に関する講座を実施することにとより、俳句をはじめ広く日本の伝統文化により深い興味・関心を持っていただけるよう努めます。
R7	学校生活等の自由なテーマを設定し、中学生が伝統文化に触れる機会として実施しました。学校単位での応募減により全体の応募数は減少したものの、感性豊かな作品が多数寄せられました。特選・入選作品を広報誌スクエアや区報等で周知し、生徒の創作意欲向上と区民に成果を還元することができました。	中学生が日々の生活のなかで感じたことを自由に表現できるよう、次年度も現在のテーマを継続して実施します。あわせて、学校単位での応募が増加するよう区立中学校との連携や周知を深め、中学生が俳句を通じて豊かな感性を育み、日本の伝統文化に触れる機会を広げていきます。

3－③－イ　楽器演奏指導

事業概要

区立中学校吹奏楽部員の演奏技術向上及び文化芸術への関心を高めるため、事業提携を結ぶシエナ・ウィンド・オーケストラ団員による楽器演奏指導を行います。

指標：実施回数（回）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	30	30	30	30	30
実績（D）	29	30	30	30	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	全ての区立中学校においてシエナ・ウインド・オーケストラ団員による吹奏楽部部員を対象とした個別演奏指導を実施しましたが、受講予定生徒の都合により１回中止となりました。その他については、新型コロナウイルス感染対策を講じた上で実施し、顧問教員や生徒から高い評価を得ました。	引き続き、区立中学校吹奏楽部およびシエナ・ウインド・オーケストラの協力を得て、事業を継続します。
R5	全ての区立中学校において３回ずつシエナ・ウインド・オーケストラ団員による吹奏楽部部員を対象とした演奏指導を実施しました。プロからの指導が受けられる貴重な機会を提供し、顧問教員や生徒から高い評価を得ました。	引き続き、区立中学校吹奏楽部およびシエナ・ウインド・オーケストラの協力を得て、事業を継続します。
R6	令和６年度も、区立中学校10校に３回ずつシエナ・ウインド・オーケストラ団員による吹奏楽部部員を対象とした個別演奏指導を実施しました。 生徒のみならず、顧問教員からも大変好評で、「楽器の扱い方を丁寧に教えていただいて大変助かった」「生徒の意欲が向上していることを感じた」などの意見を頂戴しました。	引き続き、区立中学校吹奏楽部及びシエナ・ウインド・オーケストラの協力を得て、事業を継続します。 事業実施が夏休み期間であることから、猛暑の中、安全に実施ができるようシエナ・ウインド・オーケストラ及び学校側へ熱中症対策等の注意喚起を行いながら実施してまいります。
R7	令和７年度も、区立中学校10校に３回ずつシエナ・ウインド・オーケストラ団員による吹奏楽部部員を対象とした個別演奏指導を実施しました。 昨年度課題となった猛暑対策として、通気性の良い服での参加、こまめに水分補給をすることや緊急連絡体制等について明記したチラシを各校に配布しました。	引き続き、区立中学校吹奏楽部およびシエナ・ウインド・オーケストラの協力を得て、事業を継続します。

3－③－イ　文京ふるさと歴史館収蔵品展

事業概要

文京区の歴史や文化に関することをテーマに設定し、資料収集、調査研究した成果を多角的に掘り下げた館蔵資料を中心とした収蔵品展を開催します。

指標：アンケートの満足回答の割合（%）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	79	80	80	80	80
実績（D）	79	87	―	88	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	アンケート項目は「テーマ設定＝良い」「わかりやすさ＝わかりやすい」を選択した割合の平均値です。 館蔵の寄贈資料をもとに、区内に住んだ精神病学者とその交友関係を描いた「杉田直樹と仲間たち　文三・潤一郎・茂吉」を開催しました。 会期　２月11日～３月19日 入館者数　1,537人 テーマとなる人物を知らなくても興味深い展示であったという感想が多く、地域に魅力を感じる人が多かったという成果が得られました。	今後とも、館蔵資料の研究成果をもとに、地域の魅力を様々な形で紹介していきます。展示内容に興味を覚えて満足を感じる回答の割合が多くなるよう、引き続き資料を研究し展示を行います。
R5	アンケート項目は「テーマ設定＝良い」「わかりやすさ＝わかりやすい」を選択した割合の平均値です。 館蔵資料をもとに、天気＝空模様というテーマに即した錦絵、書籍、民具等を展示した「はれ　あめ　くもり　ぶんきょうの空模様」を開催しました。 会期　２月10日～３月17日 入館者数　2,485人 天気という親しみやすいテーマでの資料紹介により、来館者の満足度が高かったという成果が得られました。	今後とも、館蔵資料の研究成果をもとに、地域の魅力を様々な形で紹介していきます。多様なテーマを設定し展示することで、いっそう来館者の満足度が高くなるように事業を継続していきます。
R6	令和７年２月に「近代の女子高等教育と文京」をテーマに開催準備をしていましたが、展示環境の整備のため中止しました。	中止にした展示内容は、７年度中に会場・会期等を変更して行う予定です。地域の魅力を様々なテーマで展示できるよう、今後も事業を継続していきます。
R7	アンケート項目は「テーマ設定＝良い」「わかりやすさ＝わかりやすい」を選択した割合の平均値です。 昨年度中止した収蔵品展を出張パネル展「近代の女子高等教育と文京」としてシビックセンターアートサロンで開催しました。 会期　2月17日～23日 入場者数　1,559人 文京区にある又は過去にあった多くの女子高等教育機関の幅広い調査とまとめられた展示に対して高く評価されました。	8年度は館内整備のため、収蔵品展は中止とします。

3－③－イ　文化・芸術に親しむ発表会、大会等の実施【再掲】

事業概要

文京区秋の文化祭（華道展、茶会、書道展、絵画展）、各種つどい・大会事業（民謡、謡曲、吟剣詩舞道、合唱、日本舞踊、三曲、民踊）、企画展等の展示や能楽及びかるた関係事業を実施します。

指標：事業参加者数の合計（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	14,340	19,120	23,900	23,900	25,000
実績（D）	29,990	20,556	19,383	20,612	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	各事業の参加者数の合計を成果指標としています。コロナ禍で再開できない事業もありましたが、コロナ禍前の２年間（平成30年、令和元年）の平均値23,900人の６割の14,340人を目標としました。 令和４年度単年度事業「文の京ミューズネット施設入館料助成」をのべ16,398人が利用したこともあり、目標を大きく超える実績となりました。	令和５年度は参加者数をコロナ禍前の８割の水準に戻すことを目標とします。全国藩校サミットや文の京ミューズネット加入施設周遊デジタルスタンプラリーなどの新規事業に取り組み、周知活動にも力を入れ、文化事業への参加者を増やします。
R5	各事業の参加者数合計を成果指標としています。令和５年度は参加者数をコロナ禍前の８割の水準に戻すことを目標とし、達成できました。 単年度事業の「全国藩校サミット文京大会」や企画展等各種記念事業では、区民に江戸時代の文化や教育にふれる機会を提供し、多くの参加者がありました。区内障害者施設で制作された絵画等を展示した「Bunkyo Brut」には昨年開催時（462人）の約２倍となる959人の観覧者が訪れました。	定例事業である文化祭や伝統芸能の発表会を開催するとともに、かるた関係の展示や体験イベントを開催して区の文化資源であるかるたの区民への定着及び若年層の文化事業への参加を促します。障害者の芸術活動発表の場である「Bunkyo Brut」も開催３年目を迎え、グッズの販売等内容をさらに充実させていきます。
R6	各事業の参加者数合計を成果指標としていますが、令和６年度は目標を超えることができませんでした。 「文京区×ちはやふるの世界展」を開催し、区内外に区の文化資源であるかるたを身近に感じられるよう競技かるた体験等の機会を提供し、延べ2,129人が来場しました。 また、障害者の芸術活動発表の場である「Bunkyo Brut」には、前年と同程度の観覧者が訪れました。	令和７年度は、謎解きとかるたを組み合わせた体験イベントの実施、児童館等へのかるた講師派遣を行い、若年層の認知度向上を図ります。 また、障害者による文化芸術活動のさらなる活性化を目指すため、有識者が厳選した作品の展示及びギャラリートーク（作品解説）を行い、観覧を楽しみながら作品や障害者に対する理解を深める展示を行います。

R7	各事業の参加者数合計を成果指標としていますが、令和7年度は目標を達成することができませんでした。 「かるた謎解き展」では、謎解きをメインに、区のかるた事業を紹介するパネル展示や動画の放映、競技かるた体験などを実施し、延べ1,549人が来場しました。また、かるた講師派遣は、前年度と同程度の派遣を行いました。 障害者アートの展示では、作品数の十分な確保が苦慮しましたが、創作者の背景を理解しながら鑑賞できるようなキャプションの作成やギャラリートークを実施したことで、作品および障害について理解を深めていただきました。	令和８年度は、かるたの展示は実施しませんが、引き続き児童館等へのかるた講師派遣を実施し、若年層への認知度向上を図ります。 また、障害者アートの展示については、作品数の確保が課題となったことから、令和８年度は作品募集の範囲を「区内障害者通所施設」から「区内在住・在勤・在学」へと広げます。

3－③－イ Ｉdon't know（能）…NO（能）problem!～みんなで親しむ「能（Noh）プロジェクト」～

事業概要

公益社団法人宝生会と連携し、子どもたちにも興味を持ってもらえるよう、「鑑賞」と「体験」を交えたプログラムで実施します。

指標：アンケートで「おもしろかった」と答えた人の割合（%）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	80	80	80	80	80
実績（D）	90	92	90	92	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	応募者数　761人 当選者数　189人（倍率４倍） 参加者数　129人 感染防止の観点から、楽器や着付け体験の内容を一部変更・中止して開催しましたが、参加者アンケートでは高い評価をいただきました。	コロナ禍で変更したプログラムのうち、好評だったものは継続しながら以前と同等の内容で体験会が実施できるよう検討していきます。
R5	成果指標であるアンケートには参加者165人中138人が回答し（回答率84%）、127人が「おもしろかった」、８人が「まあおもしろかった」と回答しました。 前半は映像を用いたわかりやすい解説の後に舞台鑑賞、後半は器楽・装束体験や舞台見学等のバックステージツアーと質疑応答を行い、参加者から好評を得ました。	令和６年度は金沢市友好交流都市提携５周年記念事業として、加賀宝生にちなんだ内容をとりいれます。子どもたちが古くから日本各地で愛好されてきた能の文化や歴史を実感できるプログラムにします。 令和５年度は土曜日開催で学校行事による当日キャンセルが目立ったため、日曜日の開催とします。
R6	成果指標であるアンケートには参加者178人中154人が回答し（回答率86.5%）、139人が「おもしろかった」、９人が「まあおもしろかった」と回答しました。金沢市友好交流都市提携５周年記念事業として、加賀宝生の能楽師の登壇や、前田家から宝生会に贈られた能装束等をロビーに展示しました。	引き続き子どもたちにも興味を持ってもらえるような「鑑賞」と「体験」ができるプログラムを提供できるよう連携していきます。

R7	成果指標であるアンケートには、参加者191人中177人が回答し（回答率92.7%）、163人が「おもしろかった」、12人が「まあおもしろかった」と回答しました。前半は能楽師による能の基礎知識と、上演する演目のあらすじ等を紹介しました。後半は、能舞台で使用する太鼓や小鼓等の体験や能舞台の見学を行い、参加者から非常に高い評価を得ました。	楽器体験等の体験時間を延長してほしいという意見があったため、体験プログラムの見直しを実施し、より能を身近に感じてもらえる内容としていきます。

ウ　多様な主体との連携・協力による文化資源の継承

3－③－ウ　文化・芸術に親しむ発表会、大会等の実施【再掲】

事業概要

文京区秋の文化祭（華道展、茶会、書道展、絵画展）、各種つどい・大会事業（民謡、謡曲、吟剣詩舞道、合唱、日本舞踊、三曲、民踊）、企画展等の展示や能楽及びかるた関係事業を実施します。

指標：事業参加者数の合計（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	14,340	19,120	23,900	23,900	25,000
実績（D）	29,990	20,556	19,383	20,612	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	各事業の参加者数の合計を成果指標としています。コロナ禍で再開できない事業もありましたが、コロナ禍前の２年間（平成30年、令和元年）の平均値23,900人の６割の14,340人を目標としました。 令和４年度単年度事業「文の京ミューズネット施設入館料助成」をのべ16,398人が利用したこともあり、目標を大きく超える実績となりました。	令和５年度は参加者数をコロナ禍前の８割の水準に戻すことを目標とします。全国藩校サミットや文の京ミューズネット加入施設周遊デジタルスタンプラリーなどの新規事業に取り組み、周知活動にも力を入れ、文化事業への参加者を増やします。
R5	各事業の参加者数合計を成果指標としています。令和５年度は参加者数をコロナ禍前の８割の水準に戻すことを目標とし、達成できました。 単年度事業の「全国藩校サミット文京大会」や企画展等各種記念事業では、区民に江戸時代の文化や教育にふれる機会を提供し、多くの参加者がありました。区内障害者施設で制作された絵画等を展示した「Bunkyo Brut」には昨年開催時（462人）の約２倍となる959人の観覧者が訪れました。	定例事業である文化祭や伝統芸能の発表会を開催するとともに、かるた関係の展示や体験イベントを開催して区の文化資源であるかるたの区民への定着及び若年層の文化事業への参加を促します。障害者の芸術活動発表の場である「Bunkyo Brut」も開催３年目を迎え、グッズの販売等内容をさらに充実させていきます。
R6	各事業の参加者数合計を成果指標としていますが、令和６年度は目標を超えることができませんでした。 「文京区×ちはやふるの世界展」を開催し、区内外に区の文化資源であるかるたを身近に感じられるよう競技かるた体験等の機会を提供し、延べ2,129人が来場しました。 また、障害者の芸術活動発表の場である「Bunkyo Brut」には、前年と同程度の観覧者が訪れました。	令和７年度は、謎解きとかるたを組み合わせた体験イベントの実施、児童館等へのかるた講師派遣を行い、若年層の認知度向上を図ります。 また、障害者による文化芸術活動のさらなる活性化を目指すため、有識者が厳選した作品の展示及びギャラリートーク（作品解説）を行い、観覧を楽しみながら作品や障害者に対する理解を深める展示を行います。

R7	各事業の参加者数合計を成果指標としていますが、令和7年度は目標を達成することができませんでした。 「かるた謎解き展」では、謎解きをメインに、区のかるた事業を紹介するパネル展示や動画の放映、競技かるた体験などを実施し、延べ1,549人が来場しました。また、かるた講師派遣は、前年度と同程度の派遣を行いました。 障害者アートの展示では、作品数の十分な確保が苦慮しましたが、創作者の背景を理解しながら鑑賞できるようなキャプションの作成やギャラリートークを実施したことで、作品および障害について理解を深めていただきました。	令和８年度は、かるたの展示は実施しませんが、引き続き児童館等へのかるた講師派遣を実施し、若年層への認知度向上を図ります。 また、障害者アートの展示については、作品数の確保が課題となったことから、令和８年度は作品募集の範囲を「区内障害者通所施設」から「区内在住・在勤・在学」へと広げます。

3－③－ウ　かるたの街文京を発信！

事業概要

文京区にゆかりある小倉百人一首かるたの魅力を発信するため、講演会や体験イベント、かるた教室等を実施します。

令和8年度に向けた目標（P）

事業の新設やPRの強化を行うことで実績を増加させ、競技かるたが区の文化資源として内外に認知されること、区内に競技かるたに親しむ人が増えることを目標とします。

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	競技かるた最上位の対決「名人・クイーンドリームマッチ」を開催し、動画配信も行って、内外に「かるたの街文京」をPRしました。 競技者を増やす事業として、学校への講師派遣やかるた教室の開催（共催）を実施しました。	令和４年度に実施した「名人・クイーンドリームマッチ」を継続して開催するとともに、大学生大会も新設して、区と競技かるたとのつながりをさらに発信していきます。 また学校への講師派遣数を増加させ、競技かるたに触れるこどもの数を増やすように努めます。
R5	大学対抗戦「文の京アゼリアカップ」を創設し、14大学から16組の参加がありました。 競技かるたトップ選手の２人が戦う名人・クイーンドリームマッチは初年度の2.3倍である412人の申し込みがあり、来場者のアンケート（回答者122人、回答率84.7%）では93%が「とてもよかった」「よかった」と回答しました。 小中学校への講師派遣は令和４年度の３校から５校に増加しました。	かるた関係の展示や体験イベントの開催、講師派遣の対象施設拡大等を実施し、引き続き競技かるたという区の文化資源の区民への定着及び若年層の文化事業への参加を促していきます。 また大学生大会「文の京アゼリアカップ」をより発展させるよう周知方法・大会内容等を検討します。
R6	競技かるたトップ選手の２人が戦う名人・クイーンドリームマッチは440人（前年412人）の申し込みがあり、来場者のアンケート（回答者130人、回答率77.8%）では95%が「とてもよかった」「よかった」と回答しました。また、大学生大会「文の京アゼリアカップ」では、16校が参加しました。 小中学校への講師派遣は前年同様５校でしたが、児童館（２館）及び育成室（１室）と対象を拡充しました。	かるた関係の展示や体験イベントの開催、講師派遣の対象施設拡大等を実施し、引き続き競技かるたという区の文化資源の区民への定着及び若年層の文化事業への参加を促していきます。 また大学生大会「文の京アゼリアカップ」をより発展させるよう周知方法・大会内容等を検討します。
R7	競技かるたトップ選手の２人が戦う名人・クイーンドリームマッチは、312人（前年440人）の申し込みがありました。来場者のアンケート（回答者148人、回答率約82%）では約91%が「とてもよかった」「よかった」と回答し、好評を得ました。大学生大会のアゼリアカップでは、昨年同様16校が参加しました。 小中学校等へのかるた講師派遣は、前年同様５校のほか、児童館１館、育成室１室に派遣を行いました。	引き続き、区の文化資源である競技かるたを区民に定着させていくために、区ホームページへのアクセス媒体を把握するとともに、SNSを活用した効果的な情報発信を行い、名人・クイーンドリームマッチや「文の京アゼリアカップ」の周知を図っていきます。

3－③－ウ　吹奏楽アンサンブルコンテスト

事業概要

公募したアンサンブル団体の演奏に、シエナ・ウインド・オーケストラ団員が講評・表彰等を行います。プロの講評を受け、演奏技術向上につなげます。

指標：参加団体数（団体）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	0	27	27	27	27
実績（D）	0	23	24	23	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	令和４年度は、改修工事に伴うシビックホール休館のため休止となりました。	令和５年度に事業を再開します。多くの参加が得られるよう、チラシ配布に加え、SNS等を活用した参加団体募集を行います。
R5	中学生、高校生の部門は多くの応募があり、抽選となりましたが、小学生の部門は他の行事との競合があり参加がなかったことから、目標値に達することができませんでした。 なお、出場団体は、シエナメンバーによる2時間の事前レッスンでプロからの直接指導を受けられることに合わせ本番の演奏への講評も聞くことができ、出演者から高い評価を得ています。	小学生の部門の参加がなかったことから、日程の設定を再考するほか、多様な媒体を使って、広報強化を図ってまいります。
R6	中学生部門は多くの応募があり抽選となりました。 出演団体は、シエナメンバーによる事前のレッスンの他、当日も演奏直後に講評が受けられることから、出演者のアンケートでは非常に満足度の高い事業となっています。この魅力が伝わるよう、広報活動に力を入れて多くの団体が参加いただけるよう努力していきます。	昨年度、小学生の学校行事と重なってしまったため参加校がなかったことから、学校側に確認をしながら日程調整を図りましたが、令和6年度は高校生の期末試験時期に重なってしまいました。幅広い世代の部門があることから実施時期の設定は難しいですが、多くの学校が参加希望する魅力ある事業作り、知っていただく広報活動に力を入れて進めます。
R7	令和７年度も中学校部門は多くの応募があり、抽選となりました。 実施が冬であることから、インフルエンザの流行でレッスンが受けられない生徒や不参加校が出るなど、学校行事等以外の影響もあり、目標値に達することができませんでした。 参加した学校からは講評を博し、満足度が高い事業となりました。	他で実施している大きな吹奏楽コンクールの前哨戦としても位置付けていることから、本事業の時期を変更することは難しいですが、不測の事態にもしっかりと対応できるよう今までの経験を活かして努めていきます。

(4)分野別基本方針④ 地域の資源を活かしたまちづくりの推進
ア 文化資源を活用した事業の推進

3－④－ア 「文の京文化発信プロジェクト」

事業概要

文京区らしさを活かした芸術文化の創造・発信と、事業を通じた交流を目的として実施しているプロジェクト。演劇、音楽、伝統芸能、美術など様々な分野のイベントを対象としており、全国規模の芸術文化団体や、全国の自治体との協働（共催）により、特色を活かした創造的な活動とその成果の発信を通じて、文の京・文京を広くアピールします。

指標:事業参加者数の合計（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標(P)	374	498	623	623	623
実績(D)	228	1214	846	803	

	成果・評価(D・C)	次年度に向けた取組等(A)
R4	1事業を除き事業を再開しました。 コロナ禍前の2年間（平成30年、令和元年）の平均値623人（終了事業の実績を除く）の6割である374人の参加を目標としましたが、例年500人近い参加者がある石見神楽公演の中止の影響もあり、達成率は6割でした。	令和5年度は参加者数をコロナ禍前の8割の水準に戻すことを目標とします。 盛岡市と友好都市提携5周年を迎えるため、両自治体で互いの文化を発信する事業を開催し、交流を活発化させます。ミスさんさ派遣委託等の事業を開催して区民に盛岡市の文化に触れる機会を提供していきます。
R5	盛岡市友好都市提携5周年記念事業を開催したため、目標を大きく上回る実績がありました。 啄木学級ではロバート キャンベル氏を講師に迎え、270人の参加がありました。また3,500人の集客があった時代まつりの時代行列にミスさんさ踊りを派遣しました。盛岡さんさ踊り体験ワークショップでは2回のワークショップを開催し希望者22人が都市交流フェスタの舞台で踊りを披露しました。また盛岡市主催「盛岡文士劇」東京公演を共催しました。 その他、かなざわ講座の共催や沖縄県うるま市主催の現代版組踊「肝高の阿麻和利」を後援しました。	令和6年度は金沢市友好交流都市提携5周年のため、金沢市でも盛んな能楽関係の事業やその他の共催事業を記念事業として充実させた内容で開催していきます。
R6	各事業の参加者数合計を成果指標としており、目標を達成することができました。 令和6年度は津和野町東京事務所開所10周年記念として石見神楽公演を実施しました。また、能プロジェクトでは、金沢市友好交流都市提携5周年記念事業として、加賀宝生の能楽師の登壇や、前田家から宝生会に贈られた能装束等をロビーに展示しました。	引き続き、啄木学級やかなざわ講座等を通じて交流自治体の文化に触れる機会を提供し、さらなる交流の活性化に繋がるような事業にしていきます。
R7	各事業の参加者数合計を成果指標としており、目標を達成することができました。 昨年度に引き続き石見神楽公演を開催し、600人の申込がありました。啄木学級では岩手県出身の作家を講師として招き、講演を開催しました。共催事業のかなざわ講座では、加賀宝生流を題材にした講演を開催しました。	引き続き、交流自治体と連携を深めながら、各事業を通じて交流自治体の文化に触れる機会を提供していきます。 また、新たに協定を締結した自治体との交流に向けても検討していきます。

イ 特色ある文化資源の魅力の確認や再発見とその発信

3－④－イ 文の京ミュージアムネットワーク

事業概要

区内博物館、美術館、庭園等、文化・芸術に関する施設が「文の京ミュージアムネットワーク」（文京ミューズネット）として連携し、各施設の特色や個性を発信します。

令和8年度に向けた目標（P）

区の貴重な文化資源として積極的に周知し、連携を深めていきます。

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	例年実施している事業（全体会議、文京ミューズネットマップの作成、ミューズフェスタの開催）のほか、単年度事業として入館料助成キャンペーンを行い、２か月間で16,398件もの利用がありました。これに伴いミューズネットマップ日本語版も作成した35,000部すべてが配布終了するなど、文の京ミューズネットの認知度が大きく向上したと考えれられます。	令和５年度は施設改修工事のためミューズフェスタの開催を中止します。代替事業としてミューズ施設をめぐるデジタルスタンプラリーを実施し、ミューズネットの活動を盛り上げます。
R5	例年同様全体会議及び文京ミューズネットマップの作成を行いました。 施設改修工事のため「文京ミューズフェスタ」が中止となり、代替事業として実施した「文京ミューズネット周遊デジタルカードラリー」には26施設が参加し、706人の参加がありました。 また全国藩校サミット文京大会の機運醸成のため、３施設から藩校に関連した所蔵品の展示等の協力を得ました。	「文京ミューズフェスタ」は一部を委託化して内容を充実させていきます。 また、近年増大している海外からの観光客等に周知できるよう英語版文京ミューズネットマップの活用方法を検討していきます。
R6	例年同様全体会議及び文京ミューズネットマップの作成を行いました。 また、施設改修工事が完了し、「文京ミューズフェスタ」を開催し、446人が来場しました。	区の貴重な文化資源に触れる機会を提供するため、「文京ミューズフェスタ」の開催期間を増やすことを検討します。
R7	例年同様、全体会議及び文京ミューズネットマップの作成を行いました。また、「文京ミューズフェスタ」の開催期間の延長を検討しましたが、現状の出展施設の職員体制では２日間の開催は困難であるとの申し出があったため、開催期間の延長は見送ることとしました。	令和８年度も１日開催となりますが、SNSを活用した情報発信や各施設との積極的な連携をすることで、より多くの方に区の貴重な文化資源に触れる機会を提供していきます。

3－④－イ　文京ふるさと歴史館特別展

事業概要

文京区の歴史や文化に関することをテーマに設定し、資料収集、調査研究した成果を多角的に掘り下げた特別展を開催します。

指標：アンケートの満足回答の割合（%）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	85	80	80	80	80
実績（D）	85	83	84	—	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	アンケート項目は「テーマ設定＝良い」「わかりやすさ＝わかりやすい」を選択した割合の平均値です。 区内の国名勝及び史跡として文化財指定された東京大学大学院理学系研究科附属植物園の歴史や文化を取り上げる「小石川植物園異聞　白山御殿跡いま・むかし」を開催しました。 会期　10月29日～12月11日 入館者数　2,344人 区内の名所である小石川植物園をテーマとして、縄文時代から現在に至るまでの歴史、植物園を舞台とした文学作品の紹介など、多角的に展示し、好評を得ました。	今後とも、文京区の歴史や文化について様々な視点から掘り下げた展示を行います。内容に興味を覚えて満足を感じる回答の割合が多くなるよう、引き続き資料の研究や展示に尽力します。
R5	アンケート項目は「テーマ設定＝良い」「わかりやすさ＝わかりやすい」を選択した割合の平均値です。 全国藩校サミット文京大会の関連事業として「湯島の地に聖堂あり　江戸・東京の学び舎と文京」を開催しました。 会期　10月28日～12月10日 入館者数　2,432人 区内の名所である湯島聖堂をテーマとしてその歴史、復興事業に関わった建築学者伊東忠太について、学問所としての紹介など、多角的に展示し、好評を得ました。	今後とも、文京区の歴史や文化について紹介し、来館者の満足度を高めるよう資料の調査研究を継続します。
R6	アンケート項目は「テーマ設定＝良い」「わかりやすさ＝わかりやすい」を選択した割合の平均値です。 生活に身近な水道の歴史をテーマに「川と人と水道とー神田上水・千川上水と文京」を開催しました。 会期　10月26日～12月８日 入館者数　3,009人 文京区にゆかりの深い神田上水と千川上水について、また、近代の上下水道の整備などについての解説を展示しました。類似のテーマを取り扱った近隣の博物館と合同で実施したスタンプラリーの効果もあり、入館者数が増加しました。	展示環境整備のため、７年度は特別展を休止しますが、展示の重要な根幹となる地域資料の整理、調査研究を継続して行います。
R7	展示環境整備のため特別展は休止しました。	文京区の特色ある歴史・文化を様々な観点から深く研究し展示に生かせるよう引き続き努力します。

3－④－イ　森鷗外記念館特別展・コレクション企画

事業概要

森鷗外の作品や人生に関することをテーマに、資料収集、調査研究した成果を、特別展及び館蔵品を中心としたコレクション企画として実施します。

指標：アンケートの満足回答の割合（%）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	80	80	80	80	80
実績（D）	96	99	99	98	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	展示に関しての満足度調査（満足・やや満足）の合計は96%（内訳：満足71%、やや満足25%）今後もさらに充実した展覧会を目指し運営を行います。	展覧会に対して常に満足いただけるよう、テーマや嗜好を変えた企画を充実させます。
R5	令和５年度よりアンケート項目を「大いに満足、満足、不満、きわめて不満」の４項目とした。満足回答合計は99%（内訳：大いに満足51%、満足48%）。	引き続き好回答を得られるよう、企画の充実を目指します。
R6	展示に関しての満足度調査（大いに満足、満足）の合計は99%（内訳：満足50%、やや満足49%）今後もさらに充実した展覧会を目指し運営を行います。	昨年に続き好回答を得られました。今後も幅広く関心を持たれるテーマ設定と展示内容の充実を目指します。
R7	展示に関しての満足度調査（大いに満足、満足）の合計は99%（内訳：満足54%、やや満足44%）宮内庁宮内公文書館との共催展、他自治体との連携事業などにより区外での周知へ繋がりました。	昨年に続き好回答を得られました。今後も区内外への周知に繋がる事業、広報を目指します。

3－④－イ　文の京ゆかりの文化人顕彰事業

事業概要

文京区に足跡を残した文化人を顕彰し、多様な文化的資源の継承、発掘及び情報発信を進めます。年度ごとに生誕没後などの記念の年にあたる文化人を中心に、朗読コンテスト、講演会等の顕彰事業を実施します。

指標：朗読コンテスト（参加及び観覧）、史跡めぐり、講演会応募者数の合計（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	558	600	600	600	600
実績（D）	558	639	539	643	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	①朗読コンテスト　跡見学園女子大学と共催し実施しました。没後100年を迎えた森鷗外の作品を課題作とし、朗読の応募者256人、観覧応募者は146人でした。 ②史跡めぐり　本郷・西片の樋口一葉が暮らした風景をたどるというテーマで55人の応募がありました。 ③歴史講演会　一葉作品にみる明治の出版と挿絵という演題で、101人の応募がありました。 　また、文化人の業績について紹介するリーフレットを作成配付したことで、より多くの方々に文京区及びゆかりの文化人を周知し興味を持っていただくきっかけづくりができました。	申込受付方法、募集方法、会場の収容人数などを関係各所と打ち合わせ、応募者増につながる工夫を行います。
R5	①朗読コンテスト　跡見学園女子大学と共催し実施しました。宮沢賢治の作品を課題作としました。朗読の応募者274人、観覧応募者は171人でした。 ②史跡めぐり　賢治・啄木が暮らした街を巡るというテーマで58人の応募がありました。 ③歴史講演会　小石川植物園と共催し、私の知っている牧野富太郎という演題で、136人（会場）の応募がありました。 　また、文化人の業績について紹介するリーフレットを作成配付したことで、より多くの方々に文京区及びゆかりの文化人を周知し興味を持っていただくきっかけづくりができました。	申込受付方法、募集方法、会場の収容人数などを関係各所と打ち合わせ、応募者増につながる工夫を行います。
R6	①朗読コンテスト　跡見学園女子大学と共催し実施しました。金沢ゆかりの文人の作品を課題作としました。朗読の応募者274人、観覧応募者は115人でした。６年度から当日の観覧希望も受け付けることとしたため、応募者数＝観覧者数としています。 ②史跡めぐり　金沢ゆかりの文人たちというテーマで23人の応募がありました。 ③歴史講演会　竹久夢二が暮らした文京というテーマで127人の応募がありました。 　また、文化人の業績について紹介するリーフレットを作成配付したことで、より多くの方々に文京区及びゆかりの文化人を周知し興味を持っていただくきっかけづくりができました。	申込受付方法、募集方法、会場の収容人数などを関係各所と打ち合わせ、応募者増につながる工夫を行います。

R7	①朗読コンテスト　跡見学園女子大学と共催し実施しました。熊本県、熊本市、新宿区ゆかりの文人の作品を課題作としました。朗読の応募者298人、観覧応募者は84人でした。 ②史跡めぐり　夏目漱石の母校である東京大学を中心のテーマにし、109人の応募がありました。 ③歴史講演会　夏目漱石と文京区の関わりというテーマで152人の応募がありました。 　また、文化人の業績について紹介するリーフレットを作成配付したことで、より多くの方々に文京区及びゆかりの文化人を周知し興味を持っていただくきっかけづくりができました。	申込受付方法、募集方法、会場の収容人数などを関係各所と打ち合わせ、応募者増につながる工夫を行います。

ウ　地域団体や他分野の団体等、多様な主体と連携したまちづくりの推進

3－④－ウ　文京ふるさと歴史館友の会の支援

事業概要

文京ふるさと歴史館友の会の自主的な活動を支援し、地域の現状や歴史・文化を知るための学習機会の充実を図ります。協働による事業の実施や「文京まち案内」ボランティアガイドの活動支援を行います。

令和8年度に向けた目標（P）

文京ふるさと歴史館友の会の会員が増加し、協働による事業の参加者数も増加させていきます。

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	月１回の友の会役員会に同席し、情報共有を行いました。区の事業（史跡めぐり）への協力を受けました。また、まち案内を希望する団体とガイドとの連絡を行いました。会の自主的な運営を支援することで、会員の増・事業参加者の増につながりました。	引き続き情報を共有します。また、より長期的に安定的な運営ができるよう、活動支援を行います。
R5	月１回の友の会役員会に同席し、情報共有を行いました。区の事業（史跡めぐり）への協力を受けました。また、まち案内を希望する団体とガイドとの連絡を行いました。交流自治体主催で文京区内ツアーが開催された際には、ガイドとして協力していただきました。感染症による行動制限の緩和の影響もあり、事業参加者が増となりました。	情報共有をすることにより、継続して活動支援を行います。
R6	月１回の友の会役員会に同席し、情報共有を行いました。区の事業（史跡めぐり）への協力を受けました。また、まち案内を希望する団体とガイドとの連絡を行いました。	情報共有をすることにより、継続して活動支援を行います。
R7	月１回の友の会役員会に同席し、情報共有を行いました。区の事業（史跡めぐり）への協力を受けました。また、まち案内を希望する団体とガイドとの連絡を行ったり、ガイドになることを希望する方を友の会担当者に紹介しました。	情報共有をすることにより、継続して活動支援を行います。

3－④－ウ 「文の京文化発信プロジェクト」【再掲】

事業概要

文京区らしさを活かした芸術文化の創造・発信と、事業を通じた交流を目的として実施しているプロジェクト。演劇、音楽、伝統芸能、美術など様々な分野のイベントを対象としており、全国規模の芸術文化団体や、全国の自治体との協働（共催）により、特色を活かした創造的な活動とその成果の発信を通じて、文の京・文京を広くアピールします。

指標：事業参加者数の合計（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	374	498	623	623	623
実績（D）	228	1214	846	803	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	1事業を除き事業を再開しました。 コロナ禍前の2年間（平成30年、令和元年）の平均値623人（終了事業の実績を除く）の6割である374人の参加を目標としましたが、例年500人近い参加者がある石見神楽公演の中止の影響もあり、達成率は6割でした。	令和5年度は参加者数をコロナ禍前の8割の水準に戻すことを目標とします。 盛岡市と友好都市提携5周年を迎えるため、両自治体で互いの文化を発信する事業を開催し、交流を活発化させます。ミスさんさ派遣委託等の事業を開催して区民に盛岡市の文化に触れる機会を提供していきます。
R5	盛岡市友好都市提携5周年記念事業を開催したため、目標を大きく上回る実績がありました。 啄木学級ではロバート キャンベル氏を講師に迎え、270人の参加がありました。また3,500人の集客があった時代まつりの時代行列にミスさんさ踊りを派遣しました。盛岡さんさ踊り体験ワークショップでは2回のワークショップを開催し希望者22人が都市交流フェスタの舞台で踊りを披露しました。また盛岡市主催「盛岡文士劇」東京公演を共催しました。 その他、かなざわ講座の共催や沖縄県うるま市主催の現代版組踊「肝高の阿麻和利」を後援しました。	令和6年度は金沢市友好交流都市提携5周年のため、金沢市でも盛んな能楽関係の事業やその他の共催事業を記念事業として充実させた内容で開催していきます。
R6	各事業の参加者数合計を成果指標としており、目標を達成することができました。 令和6年度は津和野町東京事務所開所10周年記念として石見神楽公演を実施しました。また、能プロジェクトでは、金沢市友好交流都市提携5周年記念事業として、加賀宝生の能楽師の登壇や、前田家から宝生会に贈られた能装束等をロビーに展示しました。	引き続き、啄木学級やかなざわ講座等を通じて交流自治体の文化に触れる機会を提供し、さらなる交流の活性化に繋がるような事業にしていきます。
R7	各事業の参加者数合計を成果指標としており、目標を達成することができました。 昨年度に引き続き石見神楽公演を開催し、600人の申込がありました。啄木学級では岩手県出身の作家を講師として招き、講演を開催しました。共催事業のかなざわ講座では、加賀宝生流を題材にした講演を開催しました。	引き続き、交流自治体と連携を深めながら、各事業を通じて交流自治体の文化に触れる機会を提供していきます。 また、新たに協定を締結した自治体との交流に向けても検討していきます。

第６章　観光分野の点検・評価

１．観光分野の評価

文京区アカデミー推進協議会委員（学識経験者）
観光分科会座長　山田　徹雄

基本方針①「区内まるごと周遊の促進」

文京花の五大まつりを代表として、まつりの持続化の推進において一層の内容充実を図り、観光資源を一層深化させることに成功した。その際、経費の助成による内容の充実が実現している点を評価したい。またマイクロツーリズムを推進する上で観光ガイドの果たした役割がさらに進展している点も見逃せない。

このように、「区内まるごと周遊の促進」は評価に値する成果を生み出している。文京区のブランド資源のひとつである教育を活用した発信のありかたを模索する方向性も今後の検討課題であろう。

基本方針②「いつでも、どこでも世界をつなぐ観光情報・魅力の収集・発信・共有」

多様な媒体による観光情報の発信は観光振興を図る上で重要である。その点で、デジタル情報に留まらず、アナログ情報をも活用することによって、社会の広範な層にアピールすることに多くの努力が見られる。ただし、変化の激しい食文化の発信については、頻繁に情報更新が難しい紙媒体からデジタル発信へと転換することによって、最新の情報へのアクセスが容易になっている面も評価しなければならない。

文京区観光協会ホームページへのアクセス数は目標値をはるかに上回り、情報発信の成果が定量的に確認できる。

基本方針③「つながりから生まれる観光の推進」

文の京ミュージアムネットワークに関して、スポーツ、文化芸術分野との連携が進展し、その成果は適切に情報発信されている。

都市交流フェスタに関しては、開催会場の増加によって国内外の協定締結自治体等との提携・協力関係がさらに進み、定量的にも来場者数の増加が見られた。特に、東京ドームシティのラクーアとの連携が、回遊性向上に寄与した点が評価に値する。さらに回遊性向上のための新たな企画を期待したい。

また、協定締結自治体との連携実績も目標値を多く上回る成果を収めた。

基本方針④「何度でも訪れたくなるおもてなしの環境整備」

観光客をリピーターに転換させるためには、情報インフラの絶え間ない見直しが必要である。この点において、観光情報をカテゴリー別に掲載した多言語対応デジタルマップの導入は、画期的な試みである。絶えず新しい情報を発信する努力が要求される。

観光ボランティアを増員するとともにスキルの向上を目指している点も評価に値する。

一方、環境整備指標の定量的な評価では、事業参加者において目標値を大きく下回っている点が懸念される。

小括

分野別基本方針①～④については、年度ごとの点検・評価を通じて、フィードバックが適切になされ、確実に改善がなされている。なお、定量的な成果の把握については、目標値が適切であるか、検討の余地がある。

2. 主要事業一覧

分野別基本方針①区内まるごと周遊の促進		アカデミー推進計画	総合戦略	重点
ア 観光資源の磨き上げと新たな魅力の創出				
87	観光写真コンクール	○		
88	花の五大まつり等助成	○	○	○
イ マイクロツーリズムの推進による周遊性の向上				
89	観光ガイド事業	○	○	
分野別基本方針②いつでも、どこでも世界をつなぐ観光情報・魅力の収集・発信・共有		アカデミー推進計画	総合戦略	重点
ア 観光情報の収集・発信力の充実と共有促進				
90	観光インフォメーション	○	○	
91	観光ガイドブック、グルメマップの作成・多言語化【再掲】	○	○	○
イ 情報発信環境の整備				
92	観光インフォメーション【再掲】	○	○	
93	観光ガイドブック、グルメマップの作成・多言語化	○	○	○
分野別基本方針③つながりから生まれる観光の推進		アカデミー推進計画	総合戦略	重点
ア 他分野（スポーツ、文化芸術等）との融合				
94	文の京ミュージアムネットワーク【再掲】	○	○	
95	文京博覧会（ぶんぱく）【再掲】	○		
イ 国内外の協定等締結自治体や近隣自治体等との連携・協力				
96	友好都市交流フェスタ【再掲】	○	○	
97	文京博覧会（ぶんぱく）【再掲】	○		
分野別基本方針④何度でも訪れたくなるおもてなしの環境整備		アカデミー推進計画	総合戦略	重点
ア 観光客の受入基盤整備				
98	観光ガイドブック、グルメマップの作成・多言語化【再掲】	○	○	○
99	文の京ミュージアムネットワーク【再掲】	○	○	
イ 多様な人材の育成・活用				
100	観光ガイド事業【再掲】	○	○	

※総合戦略の欄は、「文の京」総合戦略（令和6年度～令和9年度）に掲載されている事業。

※重点の欄は、令和7年度に文京区の重点施策として選定された事業。

3. 分野別基本方針に対する事業を通じた達成状況

(1)分野別基本方針① 区内まるごと周遊の促進

指標	現状値		目標値
文京区の他者推奨意向	84.1% （令和元年度）	71.3% （令和７年度）	85.0%

【分野別基本方針① 区内まるごと周遊の促進の状況】

観光資源の磨き上げと新たな魅力の創出では、文京花の五大まつり等について、担い手の確保に繋がる経費を新たに助成し、まつりの持続化を推進しました。また、３年目を迎えた「まつりの街、文京」プロジェクトでは、「関わる」をテーマに、小中学生がまつりの取材と記事作成を行うワークショップや、オリジナル紙芝居の口演等を実施しました。令和８年度は、区制80周年を記念して各まつり実行委員会が実施する主体的な取組に対し、経費の助成を行うことで、まつりの内容を一層充実させ、来場の促進や来場者の満足度向上を図ります。

マイクロツーリズムの推進による周遊性の向上では、文京花の五大まつり等の開催に合わせて、観光ボランティアガイドによる多彩なガイドツアーを実施することで、前年に引き続き、ガイドツアーの参加者数を増加させることができました。また、ガイドの増員とスキル向上を図るため、観光ガイド養成講座を実施し、新たに８名のガイドを登録しました。引き続き、様々なガイドツアーを実施するとともに、ガイドツアーの周知を行うことで、観光ガイドの育成を図りつつ、本区の魅力を広く発信していきます。

「区内まるごと周遊の促進」の指標である文京区の他者推奨意向は71.3%で、目標値の85.0%を下回っており、今後も観光資源を新たな視点で活用し、魅力を高めるなど、区民が「文の京」に誇りを感じられるよう取り組む必要があります。

これらの取組を着実に進め、本区の多彩な観光資源を継承し、磨き上げていくことにより、地域の魅力創出を図っていきます。

【アカデミー推進協議会の意見】

◎マイクロツーリズムの推進において、観光ガイド事業の役割とその進展は、区の魅力発信に寄与していると考えられる。

◎学校等の教育環境も区の観光資源で、これにより新住民が増える好循環も、重要な成果だと考える。学校等と連携したまち歩き企画や情報発信は、本区らしい魅力的な取組になる。

(2)分野別基本方針② いつでも、どこでも世界をつなぐ観光情報・魅力の収集・発信・共有

指標		文京区観光協会のホームページの新規ユーザー			
現状値	目標値	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値
44,115件 （令和元年度）	50,000件	88,009件※	82,621件	192,631件	233,875件

【分野別基本方針② いつでも、どこでも世界をつなぐ観光情報・魅力の収集・発信・共有の状況】

観光情報の収集・発信力の充実と共有促進では、観光インフォメーションで来所者等に対して相談内容に応じた案内を行うとともに、SNSなど様々な広報媒体を特性に応じて使い分けながら、広く本区の観光情報の発信を行いました。引き続き、本区の観光に関する情報収集を行うとともに、様々な媒体を通じて観光客への適切な情報提供を行うことで、本区への関心や来訪意欲を高め、観光振興を図ります。

情報発信環境の整備では、観光ガイドブックの作成・配布・Web掲載を継続するとともに、観光施設やイベント、コミュニティバス等の情報をカテゴリ別に掲載した多言語対応のデジタルマップを導入し、区内周遊における利便性の向上を図りました。令和8年度は、観光ガイドブックの作成・配布・Web掲載を継続するとともに、新たに導入したデジタルマップを活用し、イベント等の情報発信を随時実施することにより、区の多彩な観光資源の魅力発信を図ります。

「いつでも、どこでも世界をつなぐ観光情報・魅力の収集・発信・共有」の指標である文京区観光協会のホームページの新規ユーザーは233,875件で、前年度に引き続き、令和8年度目標値の50,000件を上回っており、今後も同ページを活用した情報発信に取り組みます。

これらの取組を着実に進めることで、だれもが、いつでも、どこでも手軽に必要な情報を入手できる環境を整えるとともに、区民等が本区の観光資源等に関する情報を共有し、自発的な発信を促すことにより、観光情報の発信力の充実を図っていきます。

【アカデミー推進協議会の意見】

◎食文化は大きな観光資源であり、グルメ情報の発信は重要なため、まち歩きで活用されていた紙媒体のグルメマップを継続してほしい。

◎食と観光は密接に繋がる関係性を持っており、連携は重要であると考える。

◎情報発信において多様な媒体の活用は重要であり、状況に応じてデジタル情報とアナログ情報の使い分けも必要だと思う。

※過去2年以内に新規アクセスしたユーザーの数値であるが、令和3年4月にサイトリニューアルを実施しているため、令和4年度分の数値については令和3年3月以前の重複ユーザーは除外されていない。

（3）分野別基本方針③　つながりから生まれる観光の推進

指標		協定等締結自治体との連携実績			
現状値	目標値	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値
57 件 （令和元年度）	70 件	88 件	106 件	123 件	127 件

【分野別基本方針③　つながりから生まれる観光の推進の状況】

他分野（スポーツ、文化芸術等）との融合では、文の京ミュージアムネットワークにおいて、例年同様、全体会議及び文京ミューズネットマップの作成を行いました。また、文京ミューズフェスタの開催期間延長を検討しましたが、現状の出展施設の職員体制では2日間の開催は困難であるとの申し出があったため、見送ることとしました。令和8年度も1日開催となりますが、SNSを活用した情報発信や各施設との積極的な連携を行うことで、より多くの方に区の貴重な文化資源に触れる機会を提供していきます。

国内外の協定等締結自治体や近隣自治体等との連携・協力では、都市交流フェスタの開催会場を3か所に増やしたことで、来場者数が前回比で約8,000人増加しました。初日には、前年度に引き続き交流自治体の熊本県縁の竹あかりによるライトアップ装飾を実施し、来場者にはキッチンカー等でご当地グルメや交流自治体の物産展を楽しんでいただきました。2日目には、文京シビックセンター、礫川公園に加え、東京ドームシティラクーアを新たな会場として追加し、規模を拡大しました。特にステージプログラムでは交流自治体に関連する内容を多く盛り込み、より多角的に交流都市の魅力を発信することができました。令和8年度は、区制施行80周年という節目の開催であることを踏まえ、より多くの区民に区及び交流都市の魅力を発信するとともに、住民間の相互交流の一層の促進を図るため、「文京区×交流都市ハッシュタグキャンペーン」事業の相乗展開など、内容の充実・高度化を図っていきます。

「つながりから生まれる観光の推進」の指標である協定等締結自治体との連携実績は127件で、前年度に引き続き、令和8年度目標値の70件を上回っており、今後も交流自治体との連携・協力により、観光事業の充実を図っていきます。

これらの取組を着実に進めることで、文化芸術など、他分野との関係性を深めるとともに、協定等締結自治体等との交流を促進し、様々な形での連携・協力による新しい「文の京」の観光を推進していきます。

【アカデミー推進協議会の意見】

◎区内で行われているイベントへの協定締結自治体の物産展誘致に関し、区の協力を期待する。

◎都市交流フェスタにおいて、東京ドームシティのラクーアと連携した取組は、人流の回遊性向上に大きく貢献し、来場者数の増に繋がったと考える。

◎文京ミューズネットを活用し、海外で見られるようなナイトミュージアムやコミュニティバスで施設を巡る体験型イベントを展開できると良い。

（4）分野別基本方針④　何度でも訪れたくなるおもてなしの環境整備

指標	現状値		目標値
「だれもが観光に訪れたくなるまちを支える仕組みをつくること」への満足度	区民：38.9% 事業参加者：76.0% （令和元年度）	区民：49.1% 事業参加者：68.0% （令和７年度）	区民：50.0% 事業参加者：81.0%

【分野別基本方針④　何度でも訪れたくなるおもてなしの環境整備の状況】

観光客の受入基盤整備では、観光ガイドブックの作成・配布・Web掲載を継続するとともに、観光施設やイベント、コミュニティバス等の情報をカテゴリ別に掲載した多言語対応のデジタルマップを導入し、区内周遊における利便性の向上を図りました。令和8年度は、観光ガイドブックの作成・配布・Web掲載を継続するとともに、新たに導入したデジタルマップを活用し、イベント等の情報発信を随時実施することにより、区の多彩な観光資源の魅力発信を図ります。

多様な人材の育成・活用では、文京花の五大まつり等の開催に合わせて、観光ボランティアガイドによる多彩なガイドツアーを実施することで、前年に引き続き、ガイドツアーの参加者数を増加させることができました。また、ガイドの増員とスキル向上を図るため、観光ガイド養成講座を実施し、新たに8名のガイドを登録しました。引き続き、様々なガイドツアーを実施するとともに、ガイドツアーの周知を行うことで、観光ガイドの育成を図りつつ、本区の魅力を広く発信していきます。

「何度でも訪れたくなるおもてなしの環境整備」の指標である「だれもが観光に訪れたくなるまちを支える仕組みをつくること」への満足度は、区民が49.1%（目標値50.0%）、事業参加者が68.0%（目標値81.0%）で、目標値を下回っており、今後も国内外からの来訪者を受け入れ、多様なニーズに対応するための環境づくりに取り組む必要があります。

これらの取組を着実に進めることで、だれもが安心して区内観光を楽しみながら、区民や訪れる方が本区に愛着を感じ、何度でも訪れたくなるための環境づくりを推進していきます。

【アカデミー推進協議会の意見】

◎イベントを支える学生ボランティアの参加促進について、区から学校側に働きかけてほしい。学生側にとっても、貴重な経験を積む機会となる。

◎観光ガイドブックやデジタルマップに関し、その環境整備は重要であり、利便性の向上や多言語対応の拡充も検討してほしい。

4. 主要事業の成果に対する評価

(1)分野別基本方針① 区内まるごと周遊の促進
ア 観光資源の磨き上げと新たな魅力の創出

4－①－ア 観光写真コンクール

事業概要

文京区観光協会において区内の名所・旧跡などの歴史文化遺産や花の五大まつりなどの風物詩、現代のまちの表情を広く紹介する観光写真コンクールを実施します。

指標：観光写真コンクールの応募者数（人）/写真展の来場者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	170/530	175/540	180/550	185/560	190/570
実績（D）	161/575	151/673	156/855	166/662	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	令和４年度で第60回を迎え、区民を中心にたくさんの応募がありました。特にジュニア部門では、新たにジュニア向け写真教室を実施することで、参加者の増加につなげることができました。	新たな参加者の増加につながる取り組みを検討するとともに、観光PRポスターをはじめ様々な機会で受賞作品を使用することで、観光PRへ繋げていきます。
R5	ジュニア向け写真教室の継続実施もあり、ジュニア部門では昨年度を上回る応募がありました。また、写真展や区ホームページなど様々な媒体で受賞作品を活用し、魅力の発信を図りました。	ジュニア向け写真教室の継続実施や受賞者作品の更なる活用を検討することで、観光写真コンクールを通じた観光PRを図ります。
R6	前年に引き続き、区民を中心に多くの応募がありました。受賞作品は、観光PRポスターやナイトライフ観光特設サイトなど様々な媒体で活用し、魅力の発信を図りました。	写真コンクール及びジュニア向け写真教室を引き続き実施するとともに、様々な機会を捉えて受賞作品を活用した観光PRを行い、本区の魅力発信に繋げていきます。
R7	前年に引き続き、区民を中心に多くの応募がありました。受賞作品は、観光PRポスターや東京ドームシティ内ビジョン、国内外の交流都市のホームページなど様々な媒体で活用し、魅力の発信を図りました。	写真コンクール及びジュニア向け写真教室を引き続き実施するとともに、様々な機会を捉えて受賞作品を活用した観光PRを行い、本区の魅力発信に繋げていきます。

4－①－ア　花の五大まつり等助成

事業概要

文京花の五大まつり、朝顔・ほおずき市、根津･千駄木下町まつりのＰＲ及び実施に要する経費等の補助を行い、まつりの振興と発展を図ります。

指標:文京花の五大まつり等の来場者数（万人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	150	165	165	165	165
実績（D）	150	165	156	161	

	成果･評価（D･C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	文京花の五大まつり等の実施及び復興等に要する経費への補助を行うことで、まつりの振興及び地域活力の復興を図ることができました。	引き続き、文京花の五大まつり等の振興及び地域活力の復興等へつながる経費等への補助を行うとともに、積極的な情報発信を行い、まつりへの誘客を促進することで、まつりの振興及び発展を図ります。
R5	文京花の五大まつり等の実施及び復興等に要する経費助成を行うとともに、まつりを未来に繋いでいくことを目的に、新たに「まつりの街、文京」プロジェクトを開始し、主に小・中学生向けのワークショップ等を実施しました。	引き続き、まつりの振興を図るための経費助成を行うとともに、将来的な担い手確保に向け、子ども達がまつりを知り、まつりに関わるための取組を推進します。
R6	文京花の五大まつり等の実施に要する経費助成を行うとともに、「まつりの街、文京」プロジェクトにおいて、中学生以下を対象としたクイズラリーやオリジナル紙芝居等を実施しました。	まつりの継続的な実施に向け、担い手の確保につながる取組を補助対象経費に加えるとともに、子ども達がまつりを知り、まつりに関わるための取組を推進します。
R7	文京花の五大まつり等について、担い手の確保に繋がる経費を新たに助成し、まつりの持続化を推進しました。また、３年目を迎えた「まつりの街、文京」プロジェクトでは、「関わる」をテーマに、小中学生がまつりの取材と記事作成を行うワークショップや、オリジナル紙芝居の口演等を実施しました。	区制80周年を記念して各まつり実行委員会が実施する主体的な取組に対し、経費の助成を行うことで、まつりの内容を一層充実させ、来場の促進や来場者の満足度向上を図ります。

イ マイクロツーリズムの推進による周遊性の向上

4－①－イ 観光ガイド事業

事業概要

区民を中心としたボランティアの観光ガイドを育成するとともに、まちあるきコースの開発や案内を行います。

指標：観光ガイドツアーの参加者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	300	350	400	450	500
実績（D）	323	747	910	984	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	新型コロナウイルス感染症の影響で中止していたガイドツアーを令和３年度より段階的に再開し、令和４年度には予約ガイドツアーを再開しました。また、３年ぶりに新規ガイドの募集を行い、新たに８名の新規ガイドを登録しました。	引き続き、様々なガイドツアーを実施するとともに、ガイドツアーの周知を行うことで、観光ガイドの育成を図りつつ、本区の魅力を広く発信していきます。
R5	文京花の五大まつり等の開催に合わせて様々なガイドツアーを実施するとともに、予約ガイドツアーの広報を図ることで、ガイドツアーの参加者数が増加しました。	引き続き、様々なガイドツアーを実施するとともに、ガイドツアーの周知を行うことで、観光ガイドの育成を図りつつ、本区の魅力を広く発信していきます。
R6	文京花の五大まつり等の開催に合わせて、観光ボランティアガイドによる多彩なガイドツアーを実施することで、前年に引き続き、ガイドツアーの参加者数を増加することができました。	引き続き、様々なガイドツアーを実施し、本区の魅力を広く発信するとともに、ガイドツアーの継続的な実施に向け、新規ガイドの募集等を行います。
R7	文京花の五大まつり等の開催に合わせて、観光ボランティアガイドによる多彩なガイドツアーを実施することで、前年に引き続き、ガイドツアーの参加者数を増加させることができました。また、ガイドの増員とスキル向上を図るため、観光ガイド養成講座を実施し、新たに８名のガイドを登録しました。	引き続き、様々なガイドツアーを実施するとともに、ガイドツアーの周知を行うことで、観光ガイドの育成を図りつつ、本区の魅力を広く発信していきます。

(2)分野別基本方針② いつでも、どこでも世界をつなぐ観光情報・魅力の収集・発信・共有
ア 観光情報の収集・発信力の充実と共有促進

4－②－ア 観光インフォメーション

事業概要

シビックセンター１階で、文京区の観光に関する情報収集・提供や案内を行います。

指標：観光インフォメーションでの案内件数（件）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	1,650	1,850	1,850	1,850	1,850
実績（D）	1,650	1,627	1,901	1,621	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	国内外の観光客数の回復もあり、来所人数や相談件数が増加傾向にある観光インフォメーションにおいて、広く本区の観光情報の発信を行いました。	引き続き、本区の観光に関する情報収集を行うとともに、様々な媒体を通じて観光客への適切な情報提供を行うことで、本区への関心や来訪意欲を高め、観光振興を図ります。
R5	昨年度と比較し案内件数（相談件数）はやや減少していますが、増加している来所者に対して、SNSも活用しながら広く本区の観光情報の発信を行いました。	引き続き、本区の観光に関する情報収集を行うとともに、様々な媒体を通じて観光客への適切な情報提供を行うことで、本区への関心や来訪意欲を高め、観光振興を図ります。
R6	来所者等に対して相談内容に応じた案内を行うとともに、SNSなど様々な広報媒体を特性に応じて使い分けながら、広く本区の観光情報の発信を行いました。	引き続き、本区の観光に関する情報収集を行うとともに、様々な媒体を通じて観光客への適切な情報提供を行うことで、本区への関心や来訪意欲を高め、観光振興を図ります。
R7	来所者等に対して相談内容に応じた案内を行うとともに、SNSなど様々な広報媒体を特性に応じて使い分けながら、広く本区の観光情報の発信を行いました。	引き続き、本区の観光に関する情報収集を行うとともに、様々な媒体を通じて観光客への適切な情報提供を行うことで、本区への関心や来訪意欲を高め、観光振興を図ります。

4－②－ア　観光ガイドブック、グルメマップの作成・多言語化【再掲】

事業概要

区内観光施設や名所・旧跡等を掲載した「観光ガイドブック」及び区内飲食店を紹介する「グルメマップ」を作成します。また、両マップの多言語化及びWEB化を推進します。

指標：観光ガイドブックの作成部数（部）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	60,000	70,000	70,000	70,000	70,000
実績（D）	58,000	53,500	72,500	77,500	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	観光ガイドマップを５か国語、グルメマップを３か国語で作成するなど、インバウンド需要も見据えた多言語化を推進しました。また、東京観光デジタルパンフレットギャラリー等への掲載を行い、Web上でもパンフレットが閲覧できるよう取り組みました。	引き続き、観光ガイドマップ等の多言語化・Web化を推進し、利便性の向上を図るとともに、観光ガイドマップのリニューアルを行うなど、情報発信力の強化に取り組みます。
R5	５年ぶりに観光ガイドマップの全面リニューアルを行い、新たに「観光ガイドブック」を作成しました。また、観光ガイドブック及びグルメマップの多言語化を推進するとともに、東京観光デジタルパンフレットギャラリー等への掲載を行い、Web上での閲覧環境を整えました。	引き続き、観光ガイドブック等の多言語化・Web化を推進し利便性の向上を図るとともに、観光ガイドブック等を活用し魅力の発信に取り組みます。
R6	観光ガイドブック及びグルメマップを多言語で作成するとともに、東京観光デジタルパンフレットギャラリー等への掲載を行い、Web上での閲覧環境を整えました。	観光ガイドブック等による情報発信を継続するとともに、観光施設やコミュニティバス等の交通情報など、エリア全体の情報を一元化した多言語対応のデジタルマップを導入し、区内周遊における利便性の向上を図ります。
R7	観光ガイドブックの作成・配布・Web掲載を継続するとともに、観光施設やイベント、コミュニティバス等の情報をカテゴリ別に掲載した多言語対応のデジタルマップを導入し、区内周遊における利便性の向上を図りました。	観光ガイドブックの作成・配布・Web掲載を継続するとともに、新たに導入したデジタルマップを活用し、イベント等の情報発信を随時実施することにより、区の多彩な観光資源の魅力発信を図ります。

イ 情報発信環境の整備

4－②－イ　観光インフォメーション【再掲】

事業概要

シビックセンター１階で、文京区の観光に関する情報収集・提供や案内を行います。

指標：観光インフォメーションでの案内件数（件）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	1,650	1,850	1,850	1,850	1,850
実績（D）	1,650	1,627	1,901	1,621	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	国内外の観光客数の回復もあり、来所人数や相談件数が増加傾向にある観光インフォメーションにおいて、広く本区の観光情報の発信を行いました。	引き続き、本区の観光に関する情報収集を行うとともに、様々な媒体を通じて観光客への適切な情報提供を行うことで、本区への関心や来訪意欲を高め、観光振興を図ります。
R5	昨年度と比較し案内件数（相談件数）はやや減少していますが、増加している来所者に対して、SNSも活用しながら広く本区の観光情報の発信を行いました。	引き続き、本区の観光に関する情報収集を行うとともに、様々な媒体を通じて観光客への適切な情報提供を行うことで、本区への関心や来訪意欲を高め、観光振興を図ります。
R6	来所者等に対して相談内容に応じた案内を行うとともに、SNSなど様々な広報媒体を特性に応じて使い分けながら、広く本区の観光情報の発信を行いました。	引き続き、本区の観光に関する情報収集を行うとともに、様々な媒体を通じて観光客への適切な情報提供を行うことで、本区への関心や来訪意欲を高め、観光振興を図ります。
R7	来所者等に対して相談内容に応じた案内を行うとともに、SNSなど様々な広報媒体を特性に応じて使い分けながら、広く本区の観光情報の発信を行いました。	引き続き、本区の観光に関する情報収集を行うとともに、様々な媒体を通じて観光客への適切な情報提供を行うことで、本区への関心や来訪意欲を高め、観光振興を図ります。

4－②－イ　観光ガイドブック、グルメマップの作成・多言語化

事業概要

区内観光施設や名所・旧跡等を掲載した「観光ガイドブック」及び区内飲食店を紹介する「グルメマップ」を作成します。また、両マップの多言語化及びWEB化を推進します。

指標：観光ガイドブックの作成部数（部）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	60,000	70,000	70,000	70,000	70,000
実績（D）	58,000	53,500	72,500	77,500	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	観光ガイドマップを５か国語、グルメマップを３か国語で作成するなど、インバウンド需要も見据えた多言語化を推進しました。また、東京観光デジタルパンフレットギャラリー等への掲載を行い、Web上でもパンフレットが閲覧できるよう取り組みました。	引き続き、観光ガイドマップ等の多言語化・Web化を推進し、利便性の向上を図るとともに、観光ガイドマップのリニューアルを行うなど、情報発信力の強化に取り組みます。
R5	５年ぶりに観光ガイドマップの全面リニューアルを行い、新たに「観光ガイドブック」を作成しました。また、観光ガイドブック及びグルメマップの多言語化を推進するとともに、東京観光デジタルパンフレットギャラリー等への掲載を行い、Web上での閲覧環境を整えました。	引き続き、観光ガイドブック等の多言語化・Web化を推進し利便性の向上を図るとともに、観光ガイドブック等を活用し魅力の発信に取り組みます。
R6	観光ガイドブック及びグルメマップを多言語で作成するとともに、東京観光デジタルパンフレットギャラリー等への掲載を行い、Web上での閲覧環境を整えました。	観光ガイドブック等による情報発信を継続するとともに、観光施設やコミュニティバス等の交通情報など、エリア全体の情報を一元化した多言語対応のデジタルマップを導入し、区内周遊における利便性の向上を図ります。
R7	観光ガイドブックの作成・配布・Web掲載を継続するとともに、観光施設やイベント、コミュニティバス等の情報をカテゴリ別に掲載した多言語対応のデジタルマップを導入し、区内周遊における利便性の向上を図りました。	観光ガイドブックの作成・配布・Web掲載を継続するとともに、新たに導入したデジタルマップを活用し、イベント等の情報発信を随時実施することにより、区の多彩な観光資源の魅力発信を図ります。

（3）分野別基本方針③　つながりから生まれる観光の推進
ア　他分野（スポーツ、文化芸術等）との融合

4－③－ア　文の京ミュージアムネットワーク【再掲】

事業概要

区内博物館、美術館、庭園等、文化・芸術に関する施設が「文の京ミュージアムネットワーク」（文京ミューズネット）として連携し、各施設の特色や個性を発信します。

令和8年度に向けた目標（P）

区と施設及び施設間の連携を深め、区の貴重な文化資源として積極的に周知していきます。

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	例年実施している事業（全体会議、文京ミューズネットマップの作成、ミューズフェスタの開催）のほか、単年度事業として入館料助成キャンペーンを行い、２か月間で16,398件もの利用がありました。これに伴いミューズネットマップ日本語版も作成した35,000部すべてが配布終了するなど、文の京ミューズネットの認知度が大きく向上したと考えれられます。	令和５年度は施設改修工事のためミューズフェスタの開催を中止します。代替事業としてミューズ施設をめぐるデジタルスタンプラリーを実施し、ミューズネットの活動を盛り上げます。
R5	例年同様全体会議及び文京ミューズネットマップの作成を行いました。 施設改修工事のため「文京ミューズフェスタ」が中止となり、代替事業として実施した「文京ミューズネット周遊デジタルカードラリー」には26施設が参加し、706人の参加がありました。 また全国藩校サミット文京大会の機運醸成のため、３施設から藩校に関連した所蔵品の展示等の協力を得ました。	「文京ミューズフェスタ」は一部を委託化して内容を充実させていきます。 また、近年増大している海外からの観光客等に周知できるよう英語版文京ミューズネットマップの活用方法を検討していきます。
R6	例年同様全体会議及び文京ミューズネットマップの作成を行いました。 また、施設改修工事が完了し、「文京ミューズフェスタ」を開催し、446人が来場されました。	区の貴重な文化資源に触れられる機会を提供するため、「文京ミューズフェスタ」の開催期間を増やすことを検討します。
R7	例年同様、全体会議及び文京ミューズネットマップの作成を行いました。また、「文京ミューズフェスタ」は開催期間の延長を検討しましたが、現状の出展施設の職員体制では２日間の開催は困難であるとの申し出があったため、開催期間の延長は見送ることとしました。	令和８年度も１日開催となりますが、SNSを活用した情報発信や各施設との積極的な連携をすることで、より多くの方に区の貴重な文化資源に触れる機会を提供していきます。

4－③－ア　文京博覧会（ぶんぱく）【再掲】

事業概要

区内産業・商業・消費者団体などによる展示・実演・販売を行います。区内大学の産学連携または地域連携事業も紹介します。

指標：文京博覧会（ぶんぱく）への来場者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	8,000	9,000	10,000	11,000	12,000
実績（D）	8,507	10,625	14,256	13,542	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	区内企業・産業団体・区内大学などによる展示・実演・研究発表・販売などを行い、区内産業等について広く区内外に情報発信を行いました。	区内産業や伝統工芸等を文京区内外により広く知ってもらうため、積極的な情報発信を行っていく必要があります。
R5	コロナ禍以前と同規模で開催し、区内企業・産業団体・区内大学などによる展示・実演・研究発表・販売などを行い、区内産業等について文京区内外に広く情報発信をすることができました。	開催内容の充実を図るとともに、各種SNSを活用した効果的な情報発信を行うことで、区内産業や伝統工芸等の更なる認知度向上を目指します。
R6	昨年度に引き続き、区内企業・産業団体・区内大学などによる展示・実演・研究発表・販売などを行いました。区内産業等について文京区内外に広く情報発信をすることができました。	来場者が楽しみながら区内産業や伝統工芸への理解を深められるよう、内容の充実を図っていきます。
R7	区内企業・産業団体・区内大学などによる展示・実演・研究発表・販売などを行いました。令和６年度より来場者数は微減となったものの、一部レイアウト変更を図り、出展者数を増やしたことで来場者からの反響は良好でした。	改良できる点は積極的に行い、集客力の向上を図っていきます。また、各出展団体や店舗と引き続き検討を重ね、安全で楽しいイベントを目指します。

イ 国内外の協定等締結自治体や近隣自治体等との連携・協力

4－③－イ 都市交流フェスタ【再掲】

事業概要

外国人と日本人が日本や世界各国の様々な文化体験を通じて、国際交流、国内交流のそれぞれの魅力を体験するイベントを実施します。

指標：都市交流フェスタの来場者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	1,300	1,350	1,400	1,450	1,500
実績（D）	1,300	4,785	6,079	14,110	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	4年振りに対面での国際交流フェスタを実施し、前回（令和元年度）より来場者数が200人増加しました。また、国内交流自治体の物産展を実施する等国内の魅力発信も併せて行いました。	国際交流のみならず、国内交流の魅力発信を充実させ、双方の文化に触れてもらうイベントへと規模を拡大します。そのため、より誘客でき、かつ、交流自治体の認知度向上へつながる出展を検討し、内容の充実を図ります。
R5	礫川公園でのキッチンカー出店や、道路を一部規制しトラックステージを設置するなど、事業内容の大幅なリニューアルに伴い、前回より来場者が約3,500人増加しました。また、交流自治体のご当地キャラクターとのふれあいや国内外の文化体験などを通じて、交流自治体の認知度向上や異文化交流の機会とすることができました。	開催期間の見直しなど、より参加者の方が楽しみながら文化体験等ができるイベントとなるよう、内容の充実を図ります。引き続き、区内団体との協働により住民間の交流促進につながる出展を検討し、本区の魅力を再発見・再確認できる機会とします。
R6	初の2日間開催とし、前回より来場者が約1,300人増加しました。初日は、熊本県縁の竹あかりのライトアップを施した中、交流自治体の特産品及びグルメを来場者に楽しんでもらうことができました。2日目は、前年度に引き続き文京シビックセンター及び礫川公園を一体的に活用し、国内外の文化体験及び交流自治体による物産展等多様なプログラムを通じて、より多くの方に交流都市の魅力を体感してもらうことができました。	区及び交流自治体の魅力発信の強化として、観光及び文化等の体験内容の充実を図るとともに、区内団体等との協働を検討します。また、交流自治体と協働し、来場者に区及び交流自治体の魅力を多角的に発信できるイベントへと発展させていきます。
R7	開催会場を3か所に増やしたことで、来場者数が前回比で約8,000人増加しました。初日には、昨年度に引き続き交流自治体の熊本県縁の竹あかりによるライトアップ装飾を実施し、来場者にはキッチンカー等でご当地グルメや交流自治体の物産展を楽しんでいただきました。 2日目には、文京シビックセンター、礫川公園に加え、東京ドームシティ　ラクーアを新たな会場として追加し、規模を拡大しました。特にステージプログラムでは交流自治体に関連する内容を多く盛り込み、より多角的に交流都市の魅力の発信をすることができました。	区制施行80周年という節目の開催であることを踏まえ、より多くの区民に区及び交流都市の魅力を発信するとともに、住民間の相互交流の一層の促進を図るため、「文京区×交流都市ハッシュタグキャンペーン」事業の相乗展開など、内容の充実・高度化を図っていきます。

4－③－イ　文京博覧会（ぶんぱく）【再掲】

事業概要

区内産業・商業・消費者団体などによる展示・実演・販売を行います。区内大学の産学連携または地域連携事業も紹介します。

指標：文京博覧会（ぶんぱく）への来場者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	8,000	9,000	10,000	11,000	12,000
実績（D）	8,507	10,625	14,256	13,542	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	区内企業・産業団体・区内大学などによる展示・実演・研究発表・販売などを行い、区内産業等について広く区内外に情報発信を行いました。	区内産業や伝統工芸等を文京区内外により広く知ってもらうため、積極的な情報発信を行っていく必要があります。
R5	コロナ禍以前と同規模で開催し、区内企業・産業団体・区内大学などによる展示・実演・研究発表・販売などを行い、区内産業等について文京区内外に広く情報発信をすることができました。	開催内容の充実を図るとともに、各種SNSを活用した効果的な情報発信を行うことで、区内産業や伝統工芸等の更なる認知度向上を目指します。
R6	昨年度に引き続き、区内企業・産業団体・区内大学などによる展示・実演・研究発表・販売などを行いました。区内産業等について文京区内外に広く情報発信をすることができました。	来場者が楽しみながら区内産業や伝統工芸への理解を深められるよう、内容の充実を図っていきます。
R7	区内企業・産業団体・区内大学などによる展示・実演・研究発表・販売などを行いました。令和６年度より来場者数は微減となったものの、一部レイアウト変更を図り、出展者数を増やしたことで来場者からの反響は良好でした。	改良できる点は積極的に行い、集客力の向上を図っていきます。また、各出展団体や店舗と引き続き検討を重ね、安全で楽しいイベントを目指します。

（4）分野別基本方針④　何度でも訪れたくなるおもてなしの環境整備
ア　観光客の受入基盤整備

4－④－ア　観光ガイドブック、グルメマップの作成・多言語化【再掲】

事業概要

区内観光施設や名所・旧跡等を掲載した「観光ガイドブック」及び区内飲食店を紹介する「グルメマップ」を作成します。また、両マップの多言語化及びWEB化を推進します。

指標：観光ガイドブックの作成部数（部）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	60,000	70,000	70,000	70,000	70,000
実績（D）	58,000	53,500	72,500	77,500	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	観光ガイドマップを５か国語、グルメマップを３か国語で作成するなど、インバウンド需要も見据えた多言語化を推進しました。また、東京観光デジタルパンフレットギャラリー等への掲載を行い、Web上でもパンフレットが閲覧できるよう取り組みました。	引き続き、観光ガイドマップ等の多言語化・Web化を推進し、利便性の向上を図るとともに、観光ガイドマップのリニューアルを行うなど、情報発信力の強化に取り組みます。
R5	５年ぶりに観光ガイドマップの全面リニューアルを行い、新たに「観光ガイドブック」を作成しました。また、観光ガイドブック及びグルメマップの多言語化を推進するとともに、東京観光デジタルパンフレットギャラリー等への掲載を行い、Web上での閲覧環境を整えました。	引き続き、観光ガイドブック等の多言語化・Web化を推進し利便性の向上を図るとともに、観光ガイドブック等を活用し魅力の発信に取り組みます。
R6	観光ガイドブック及びグルメマップを多言語で作成するとともに、東京観光デジタルパンフレットギャラリー等への掲載を行い、Web上での閲覧環境を整えました。	観光ガイドブック等による情報発信を継続するとともに、観光施設やコミュニティバス等の交通情報など、エリア全体の情報を一元化した多言語対応のデジタルマップを導入し、区内周遊における利便性の向上を図ります。
R7	観光ガイドブックの作成・配布・Web掲載を継続するとともに、観光施設やイベント、コミュニティバス等の情報をカテゴリ別に掲載した多言語対応のデジタルマップを導入し、区内周遊における利便性の向上を図りました。	観光ガイドブックの作成・配布・Web掲載を継続するとともに、新たに導入したデジタルマップを活用し、イベント等の情報発信を随時実施することにより、区の多彩な観光資源の魅力発信を図ります。

4－④－ア　文の京ミュージアムネットワーク【再掲】

事業概要

区内博物館、美術館、庭園等、文化・芸術に関する施設が「文の京ミュージアムネットワーク」（文京ミューズネット）として連携し、各施設の特色や個性を発信します。

令和8年度に向けた目標（P）

区と施設及び施設間の連携を深め、区の貴重な文化資源として積極的に周知していきます。

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	例年実施している事業（全体会議、文京ミューズネットマップの作成、ミューズフェスタの開催）のほか、単年度事業として入館料助成キャンペーンを行い、２か月間で16,398件もの利用がありました。これに伴いミューズネットマップ日本語版も作成した35,000部すべてが配布終了するなど、文の京ミューズネットの認知度が大きく向上したと考えれられます。	令和５年度は施設改修工事のためミューズフェスタの開催を中止します。代替事業としてミューズ施設をめぐるデジタルスタンプラリーを実施し、ミューズネットの活動を盛り上げます。
R5	例年同様全体会議及び文京ミューズネットマップの作成を行いました。 施設改修工事のため「文京ミューズフェスタ」が中止となり、代替事業として実施した「文京ミューズネット周遊デジタルカードラリー」には26施設が参加し、706人の参加がありました。 また全国藩校サミット文京大会の機運醸成のため、３施設から藩校に関連した所蔵品の展示等の協力を得ました。	「文京ミューズフェスタ」は一部を委託化して内容を充実させていきます。 また、近年増大している海外からの観光客等に周知できるよう英語版文京ミューズネットマップの活用方法を検討していきます。
R6	例年同様全体会議及び文京ミューズネットマップの作成を行いました。 また、施設改修工事が完了し、「文京ミューズフェスタ」を開催し、446人が来場されました。	区の貴重な文化資源に触れられる機会を提供するため、「文京ミューズフェスタ」の開催期間を増やすことを検討します。
R7	例年同様、全体会議及び文京ミューズネットマップの作成を行いました。また、開催期間の延長を検討しましたが、現状の出展施設の職員体制では２日間の開催は困難であるとの申し出があったため、開催期間の延長は見送ることとしました。	今年度も１日開催となりますが、SNSを活用した情報発信や各施設との積極的な連携をすることで、より多くの方に区の貴重な文化資源に触れる機会を提供していきます。

イ 多様な人材の育成・活用

4－④－イ 観光ガイド事業【再掲】

事業概要

区民を中心としたボランティアの観光ガイドを育成するとともに、まちあるきコースの開発や案内を行います。

指標：観光ガイドの新規登録者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	10	－	10	－	10
実績（D）	8	－	－	8	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	新型コロナウイルス感染症の影響で中止していたガイドツアーを令和３年度より段階的に再開し、令和４年度には予約ガイドツアーを再開しました。また、３年ぶりに新規ガイドの募集を行い、新たに８名の新規ガイドを登録しました。	引き続き、様々なガイドツアーを実施するとともに、ガイドツアーの周知を行うことで、観光ガイドの育成を図りつつ、本区の魅力を広く発信していきます。
R5	文京花の五大まつり等の開催に合わせて様々なガイドツアーを実施するとともに、予約ガイドツアーの広報を図ることで、ガイドツアーの参加者数が増加しました。	引き続き、様々なガイドツアーを実施するとともに、ガイドツアーの周知を行うことで、観光ガイドの育成を図りつつ、本区の魅力を広く発信していきます。
R6	文京花の五大まつり等の開催に合わせて、観光ボランティアガイドによる多彩なガイドツアーを実施することで、前年に引き続き、ガイドツアーの参加者数を増加することができました。	引き続き、様々なガイドツアーを実施し、本区の魅力を広く発信するとともに、ガイドツアーの継続的な実施に向け、新規ガイドの募集等を行います。
R7	文京花の五大まつり等の開催に合わせて、観光ボランティアガイドによる多彩なガイドツアーを実施することで、前年に引き続き、ガイドツアーの参加者数を増加させることができました。また、ガイドの増員とスキル向上を図るため、観光ガイド養成講座を実施し、新たに８名のガイドを登録しました。	引き続き、様々なガイドツアーを実施するとともに、ガイドツアーの周知を行うことで、観光ガイドの育成を図りつつ、本区の魅力を広く発信していきます。

第７章　国内・国際交流分野の点検・評価

１．国内・国際交流分野の評価

文京区アカデミー推進協議会委員（学識経験者）
国内･国際交流分科会座長　山田　徹雄

基本方針①「国内交流自治体との交流促進と相互発展」

交流自治体の魅力を発信する試みとして従来から行われてきた都市交流フェスタにおいて、新たに東京ドームシティー　ラクーアを加えた3会場において2日間開催した成果が明確な形で現れ、来場者数がおよそ8,000人増加（前回比）したことを特に指摘しておく。

交流を進めてきた自治体との活動の活性化という点において、水戸市、甲州市との協定締結記念行事のバスツアーが実現した。

自治体との交流の一環として、近年重要性を増しているのが災害時に備えた関係強化である。一層の進展を期待する。

指標にある認知度の目標設定が過大である可能性は否定できないが、「国内交流自治体との交流促進と相互発展」という方針は十分に達成しており、高く評価する。

基本方針②「国際理解を育み定着に向けた機会づくり」

海外都市との交流において、当該年度は、フランス共和国のパリ第5区（パンテオン区）との間で音楽交流事業が行われた。中華人民共和国北京市通州区及びドイツ連邦共和国カイザースラウテルン市、また大韓民国ソウル特別市松坡区とは、従来に引き続き活発な交流が継続されている。

トルコ共和国イスタンブール市ベイオウル区とは、友好都市提携10周年を迎える記念事業として、写真展、トルコフェスタによって、交流の活性化が実現している。

他の分野との連携を通じて多様な切り口で継続的に自治体間交流が実施させていること、また交流事業への積極的な取り組みが継続されることを期待する。

交流のレベルが「国家間」ではなく「都市間」であることが、国際情勢に左右されない交流の原点であることをあらためて認識する良き契機となっていることを指摘しておきたい。

基本方針③「外国人が活躍できる環境づくり」

従来から評価の高いやさしい日本語を活用した留学生との交流会の拡充及びレベルを階層化した連続講座の実施により、区民と留学生との交流が継続的かつ深化した形で行われている。

補助金事業であるBチャレ事業の一部として、区内在住外国人と区内団体、ひいては区民との交流する機会が増している。

外国人が活躍するための一層のインフラ整備として、やさしい日本語の活用は必須であり、災害時にも有効である。また、日本語習得にとどまらず、地域の教育･文化資源をさらに活用する姿勢が求められる。そのためにも、文化･歴史･生活習慣の相互理解が大切な要素と考える。

小括

分野別基本方針①～③については、定性的な観点から十分な達成を示し、大いに評価できる。定量的にも概ね目標を達成しているが、一部、過大な設定がなされている印象を与えている。

2. 主要事業一覧

分野別基本方針①国内交流自治体との交流促進と相互発展		アカデミー推進計画	総合戦略	重点
ア 国内交流自治体の魅力発信とPR の充実				
101	国内交流自治体食材購入費補助事業	○	○	
102	都市交流フェスタ【再掲】	○	○	
イ 国内交流自治体との交流の活性化				
103	交流自治体主催の区民向け事業への協力	○		
104	区事業における物産展等の出店	○		
ウ 横断的な交流事業の展開				
105	文京博覧会（ぶんぱく）【再掲】	○		
106	「文の京文化発信プロジェクト」【再掲】	○	○	
分野別基本方針②国際理解を育み定着に向けた機会づくり		アカデミー推進計画	総合戦略	重点
ア 海外都市との交流の活性化				
107	海外都市との交流の活性化	○	○	
108	ホームステイ生徒交換事業	○	○	
イ 国際理解に向けた情報の収集・発信・共有				
109	生涯学習講座での国際理解推進	○		
110	都市交流フェスタ	○	○	
111	国際理解促進事業	○	○	○
ウ 横断的な交流事業の展開				
112	国際理解促進事業【再掲】	○	○	○
分野別基本方針③外国人が活躍できる環境づくり		アカデミー推進計画	総合戦略	重点
ア 多言語及びやさしい日本語を活用した情報発信の充実				
113	外国人の日常生活支援のための多言語化	○		
114	国際理解促進事業【再掲】	○	○	○
イ 外国人の活躍できる場の提供支援				
115	区内大学、ボランティア団体等との協働・連携	○		

※総合戦略の欄は、「文の京」総合戦略（令和6年度～令和9年度）に掲載されている事業。

※重点の欄は、令和7年度に文京区の重点施策として選定された事業。

3. 分野別基本方針に対する事業を通じた達成状況

(1)分野別基本方針① 国内交流自治体との交流促進と相互発展

指標	現状値		目標値
国内交流自治体の認知度	18.5% （令和元年度）	19.6% （令和７年度）	25.0%

【分野別基本方針① 国内交流自治体との交流促進と相互発展の状況】

交流自治体の魅力発信とPRの充実では、東京ドームシティ ラクーアを新たな会場として追加し、初の3会場にて都市交流フェスタを2日間開催したことで来場者数が前回比で約8,000人の増加につながり、より多くの方に交流自治体の魅力発信をすることができました。また、例年開催している物産展及び文化体験ブースの設置に加え、前年度に引き続き交流自治体ゆかりの装飾、伝統芸能披露をはじめとした交流自治体関連でのステージパフォーマンスなど、多角的に交流自治体のPRの充実を図ることができました。引き続き、住民間の交流促進につながる出展を検討し、本区及び交流自治体の魅力を再発見・再確認できる機会とします。

交流自治体との交流の活性化では、水戸市と協定締結記念及び甲州市との協定締結10周年記念事業の一環として、区民が水戸市及び甲州市を訪れ各自治体の魅力を体験する日帰りバスツアーを実施しました。あわせて、文京博覧会等各事業と連携し物産展を開催することで、幅広く区民に交流自治体の魅力を発信することができました。今後も、交流自治体の観光資源や物産を広くPRすることで、交流自治体の魅力を区民に広く周知し、住民間の交流を促進します。

横断的な交流事業の展開では、熊本県、熊本市及び新宿区との覚書締結10周年記念事業として、アカデミア講座における文京区と熊本をテーマとした講座の実施や、肥後細川庭園における春のライトアップイベントを開催しました。引き続き、交流自治体の文化に触れる機会を提供し、さらなる交流の活性化に繋がるような事業を実施します。

これらの取組を着実に進めることで、文京区及び国内交流自治体双方の魅力を発信するとともに、日頃から協定締結等自治体をはじめ、交流自治体との連携を強化し、災害等の際に備えた関係性構築のために、より自治体同士の関係を強固にしていきます。

【アカデミー推進協議会の意見】

◎都市交流フェスタの来場者増を評価する。周年など節目でのイベントは、自治体間の関係性を再確認する良い機会と考える。

◎都市交流フェスタなどの事業は、個人で訪れる機会の少ない自治体と交流できる貴重な機会であり、今後も継続してほしい。

◎会場増による回遊性向上や区の人口増加傾向等を踏まえると、区の魅力を周知することで、更なる来場者増加が期待できる。

(2)分野別基本方針②　国際理解を育み定着に向けた機会づくり

指標	現状値		目標値
外国人と交流している区民の割合	25.2% （令和元年度）	13.6% （令和７年度）	35.0%
海外の姉妹都市・友好都市の認知度	26.1% （令和元年度）	29.4% （令和７年度）	35.0%

【分野別基本方針②　国際理解を育み定着に向けた機会づくりの状況】

海外都市との交流の活性化では、フランス共和国パリ市5区と交流事業の一環として、4月に同区の音楽学校の生徒と区内の中･高校生が音楽交流事業を実施し、7月には同区と友好交流に関する覚書を締結しました。中華人民共和国北京市通州区とは、9月に区公式訪問団を派遣し、11月には通州区長等公式訪問団の受け入れを行いました。ドイツ共和国カイザースラウテルン市とは、7月にホームステイ事業として同市の4名の生徒が文京区を訪問し、学生同士が互いの理解を深め、姉妹都市間の交流ができました。また、1月に区内専門学校の協力のもと、同市市制750周年を記念した記念ビデオ制作を行いました、大韓民国ソウル特別市松坡区とは、9月に同区を訪問する区民ツアーを実施し、2月には女子サッカーチームが文京区を訪問、文京区内の合同チームと交流試合を行いました。さらに、3月には同区職員が区事業に出展する等、人的交流を促進しました。引き続き姉妹都市等との友好関係を深め、その理解と認知度向上を図るとともに、人的交流の活性化に取り組んでいきます。

横断的な交流事業の展開では、友好都市提携10周年を迎えるトルコ共和国イスタンブール市ベイオウル区との記念事業の一環として、写真展やトルコフェスタを開催しました。写真展では、ベイオウル区との同時開催として、ベイオウル区をはじめとするトルコ共和国の日常の風景に関する写真を展示しました。トルコフェスタでは、トルコの食品及び雑貨販売やワークショップ、古典音楽コンサート等の体験を通じて、多くの区民がトルコ文化に触れる機会を提供しました。その他にも、韓国文化講座等区民が多様な文化に触れる機会を創出しました。引き続き講座内容、開催日時等の区民ニーズを的確に把握し、参加者数の増加を図ります。特に、講座内容はターゲットに合わせた内容を検討するとともに、SNSの活用等の効果的な事業周知を行います。

姉妹都市等と協働し、区民の国際理解の定着に向けた情報発信や異文化に触れる機会づくりを継続し、一時的な体験で終わらないように継続性を持たせた事業展開を検討します。

【アカデミー推進協議会の意見】

◎人々の往来やスポーツ･文化などの多様な切り口で、継続的に自治体間交流を実施している点が大変よいと感じている。

◎盛んな交流事業への取組に感銘を受けた。イベントや節目の取組を区民へ確実に周知してほしい。

（3）分野別基本方針③　外国人が活躍できる環境づくり

指標	現状値		目標値
外国人における文京区への愛着度	－ （令和元年度）	－ （令和７年度）	50.0%

【分野別基本方針③　外国人が活躍できる環境づくりの状況】

国際理解促進事業として、やさしい日本語を活用した留学生との交流会を拡充し、基礎編及び発展編の2回連続講座を年2回開催しました。やさしい日本語を学び実践するとともに、区民と留学生が交流する機会を提供することができました。区民が国籍問わず交流する機会として、引き続き取組を継続します。

外国人の活躍できる場の提供支援では、Bチャレ事業の一環として区内団体と協働し、日本文化の体験を通じ区内在住外国人と日本人が交流する機会を創出しました。引き続き区民が国籍問わず交流する機会を創出するとともに、区内在住の外国人支援の在り方及び関係団体等との協働について、関係部署等と改めて検討します。

これらの取組を着実に進めることで、区内在住・在学外国人が、暮らしやすく、また、地域活動等に参加しやすい環境を整え、外国人が活躍できる環境づくりを促進します。

【アカデミー推進協議会の意見】

◎災害発生時など、日本語での情報伝達が必要となる場面を想定し、「やさしい日本語」を学ぶ講座の継続を希望する。

◎公共施設の外国人利用の広がりを踏まえ、施設内の案内表示等にも「やさしい日本語」を使用してほしい。外国人に「やさしい日本語」を学ぶ講座に参加してもらうのと同時に、日本人に対しても外国人への理解促進の働きかけが必要と考える。

◎外国人事業者が増加傾向にある。受け入れ側が歓迎の姿勢を示し、行事や商店会等に巻き込むなどの交流から、ルールの周知と相互理解が進むと思う。

4. 主要事業の成果に対する評価

(1)分野別基本方針① 国内交流自治体との交流促進と相互発展
ア 国内交流自治体の魅力発信とPR の充実

５－①－ア 国内交流自治体食材購入費補助事業

事業概要

協定締結自治体と食を通じた交流の活性化を図る事業。区内飲食店が交流自治体の食材を利用し料理等を提供した場合、食材購入費の一部を補助します。料理提供期間に合わせ、食めぐりスタンプラリーを実施することで交流自治体の魅力を発信し、区民への周知を図ります。

指標：参加店舗数（件）/食めぐりスタンプラリー応募者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	16/254	16/260	17/270	17/275	18/280
実績（D）	16/254	16/159	13/118		

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	食めぐりスタンプラリー参加店舗が８店舗増加し、スタンプラリー応募件数も44件増加しました。また、スタンプラリー当選賞品を協定等締結自治体の特産品にリニューアルしたことで、区民が交流自治体を知る契機となり、文京区の交流自治体の認知度向上につなげることができました。	引き続き交流自治体、区民及び参加事業者３者にメリットのある事業になるよう、当選商品の検討及びスタンプラリーの方法を検討していきます。また、事業の認知度の向上を図るだけではく、協定締結等自治体の認知度向上にも寄与する周知を行います。
R5	参加店舗の業態等により、応募者数は減少してしまいました。しかし、スタンプラリー当選賞品の見直し及び当選人数の増加により、冷蔵品等も含めた幅広い協定等締結自治体の特産品を賞品とすることで、区民の交流自治体の認知度及び魅力度向上につなげることができました。	参加店舗の増加ために、申請の受付方法及び周知方法等の見直しを検討します。また、引き続き事業の魅力度向上及び交流自治体の認知度向上につながるよう、区民が参加しやすく、より集客効果を高める方法を検討していきます。
R6	参加店舗の減少等により、応募者数が減少しました。一方で、交流自治体所在の事業者が推奨する特産品を賞品として贈呈するとともに、交流自治体パンフレットを同封することで、交流自治体の認知度向上につなげることができました。	参加店舗及び参加者数が減少している状況を鑑み、今後は、同様の事業趣旨を持つ都市交流フェスタ等において、交流自治体の食材を使用する区内飲食店の出展等により、食を通じた自治体間交流のさらなる活性化に取り組んでいきます。また、各種事業において交流自治体による特産品の販売等を実施し、幅広く区内外に向けた交流自治体を周知する機会とします。

5－①－ア　都市交流フェスタ【再掲】

事業概要

外国人と日本人が日本や世界各国の様々な文化体験を通じて、国際交流、国内交流のそれぞれの魅力を体験するイベントを実施します。

指標：都市交流フェスタの来場者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	1,300	1,350	1,400	1,450	1,500
実績（D）	1,300	4,785	6,079	14,110	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	4年振りに対面での国際交流フェスタを実施し、前回（令和元年度）より来場者数が200人増加しました。また、国内交流自治体の物産展を実施する等国内の魅力発信も併せて行いました。 文化体験コーナーが特に好評であり、文化体験等を通じた異文化交流の機会とすることができました。	国際交流のみならず、国内交流の魅力発信を充実させ、双方の文化に触れてもらうイベントへと規模を拡大します。そのため、在住・在学外国人をはじめ新たな参加者を誘客でき、かつ、交流自治体の認知度向上へつながる出展を検討し、内容の充実を図ります。
R5	礫川公園でのキッチンカー出店や、道路を一部規制しトラックステージを設置するなど、事業内容の大幅なリニューアルに伴い、前回より来場者が約3,500人増加しました。また、交流自治体のご当地キャラクターとのふれあいや国内外の文化体験などを通じて、交流自治体の認知度向上や異文化交流の機会とすることができました。	開催期間の見直しなど、より参加者の方が楽しみながら文化体験等ができるイベントとなるよう、内容の充実を図ります。引き続き、区内団体との協働により住民間の交流促進につながる出展を検討し、本区の魅力を再発見・再確認できる機会とします。
R6	初の2日間開催とし、前回より来場者が約1,300人増加しました。初日は、熊本県縁の竹あかりのライトアップを実施し、交流自治体の特産品及びグルメを来場者に楽しんでもらうことができました。2日目は、前年度に引き続き文京シビックセンター及び礫川公園を一体的に活用し、国内外の文化体験及び交流自治体による物産展等多様なプログラムを通じて、より多くの方に交流都市の魅力を体感してもらうことができました。	区及び交流自治体の魅力発信の強化として、観光及び文化等の体験内容の充実を図ります。また、交流自治体と協働し、来場者に区及び交流自治体の魅力を多角的に発信できるイベントへと発展させていきます。
R7	開催会場を3か所に増やしたことで、来場者数が前回比で約8,000人増加しました。初日には、昨年度に引き続き交流自治体の熊本県縁の竹あかりによるライトアップ装飾を実施し、来場者にはキッチンカー等でご当地グルメや交流自治体の物産展を楽しんでいただきました。 2日目には、文京シビックセンター、礫川公園に加え、東京ドームシティ　ラクーアを新たな会場として追加し、規模を拡大しました。特にステージプログラムでは交流自治体に関連する内容を多く盛り込み、より多角的に交流都市の魅力の発信をすることができました。	区制施行80周年という節目の開催であることを踏まえ、より多くの区民に区及び交流都市の魅力を発信するとともに、住民間の相互交流の一層の促進を図るため、「文京区×交流都市ハッシュタグキャンペーン」事業の相乗展開など、内容の充実・高度化を図っていきます。

イ 国内交流自治体との交流の活性化

5－①－イ 交流自治体主催の区民向け事業への協力

事業概要

熊本県、熊本市、新宿区とのシンポジウムや、盛岡市のモリハチ祭りの共催などを行い、事業に協力します。

指標:後援・共催事業数(件)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標(P)	1	3	3	3	3
実績(D)	0	3	1	2	

	成果・評価(D・C)	次年度に向けた取組等(A)
R4	4年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、各自治体と連携した後援等の事業の実施はありませんでした。	5年度以降、各自治体が事業が活発になることから、徐々に後援等の依頼の増加が見込まれます。依頼等があった場合は、事業趣旨の精査をし、後援等する際は、情報発信等に積極的に協力します。
R5	盛岡市の文士劇及びモリハチ祭りの共催及び現代版組踊「肝高の阿麻和利」の後援をし、文化芸術及び物産展等を通じて交流都市の魅力を発信しました。	今後も交流自治体から後援等の依頼があれば、引き続き事業趣旨を精査し、各自治体と連携し、情報発信に協力します。また、共催及び後援等にかかわらず交流自治体との事業連携を活発化させていきます。
R6	盛岡市とモリハチ祭りを共催し、物産展等を通じて交流都市の魅力を発信しました。その他、玉名市とミニトマト苗植え体験事業及び金沢市と氷室の雪氷展示等協定締結等自治体との交流事業を実施しました。	今後も交流自治体から後援等の依頼があれば、引き続き事業趣旨を精査した上で各自治体と連携し、情報発信に協力します。また、共催及び後援等にかかわらず交流自治体との事業連携を活発化させていきます。
R7	熊本県、熊本市及び新宿区との「文化と歴史を縁とする包括連携に関する覚書」締結10周年記念シンポジウム及び盛岡市とモリハチ祭りを共催し、物産展等を通じて交流都市の魅力を発信しました。その他、玉名市とミニトマト苗植え体験事業及び金沢市と氷室の雪氷展示等協定締結等自治体との交流事業を実施しました。	今後も交流自治体から後援等の依頼があれば、引き続き事業趣旨を精査した上で各自治体と連携し、情報発信に協力します。また、共催及び後援等にかかわらず交流自治体との事業連携を活発化させていきます。

5－①－イ　区事業における物産展等の出店

事業概要

文京博覧会、花の５大まつり、藩校サミット、時代まつり等への交流自治体物産展の出店により、周知をします。

指標：物産展等の出店日数（日）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	45	50	50	50	50
実績（D）	45	75	99	99	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	各イベントに交流自治体が物産展を出店し、誘客につなげることができ、併せて区民に国内交流自治体の魅力を広く発信し、周知することができました。 物産展の出店を通じ、交流自治体との関係構築に寄与し、さらなら自治体同士の連携強化につなげることができています。	今後も交流自治体の参加を促し、その地域の観光資源や物産を広くPRすることで、国内の魅力を区民に広く周知し、交流を継続するとともに、より自治体同士の関係を強固にし、さらに自治体間交流の促進につなげていきます。
R5	盛岡文士劇等交流自治体が実施するイベント等においても積極的に物産展を開催しました。各事業と連携し、物産展を開催することで、幅広く区民に交流自治体魅力を発信することができました。また、金沢市とともに物産展を開催し、自治体PRだけでなく、震災復興を支援する趣旨での事業を展開することができました。	協定締結等自治体をはじめ、交流自治体との連携を強化し、より自治体同士の関係を強固にしていきます。また、その地域の観光資源や物産を広くPRすることで、国内の魅力を区民に広く周知し、住民間の交流を促進します。
R6	Sky View Lounge BAR等各種事業での機会をとらえて、交流自治体による物産展を開催しました。また、都市交流フェスタでは、15自治体の出展があり、区民に交流自治体の魅力を発信することができました。また、令和５年度に引き続き金沢市とともに震災復興を支援する趣旨で物産展を開催しました。	交流自治体と連携し、交流自治体の観光資源や物産を広くPRすることで、その魅力を区民に広く周知し、認知度向上を図るとともに、住民間の交流につながるよう事業を実施します。また、各種事業を共同で実施することで、より自治体同士の関係を強固にしていきます。
R7	文京花の五大まつりをはじめ、各事業において自治体と連携し物産展を開催することができました。また、都市交流フェスタでは交流のある16自治体が出店し、区民の交流自治体の認知度向上に寄与しました。	引き続き交流自治体と連携した物産展等を行うことで、自治体同士の連携を強化していきます。また、区制80周年に向けた区民参加型の事業を実施することにより、区民の交流自治体の認知度向上や魅力を周知するとともに、住民間交流の促進につなげます。

ウ 横断的な交流事業の展開

5－①－ウ 文京博覧会（ぶんぱく）【再掲】

事業概要

区内産業・商業・消費者団体などによる展示・実演・販売を行います。併せて交流自治体物産展の出店を行います。

指標：文京博覧会（ぶんぱく）への来場者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	8,000	9,000	10,000	11,000	12,000
実績（D）	8,507	10,625	14,256	13,542	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	区内企業・産業団体・区内大学などによる展示・実演・研究発表・販売などを行い、区内産業等について広く区内外に情報発信を行うことにより、文京区内外に広く周知することができました。	区内産業や伝統工芸等を文京区内外により広く知ってもらうため、積極的な情報発信を行っていきます。
R5	コロナ禍以前と同規模で開催し、区内企業・産業団体・区内大学などによる展示・実演・研究発表・販売などを行い、区内産業等について文京区内外に広く情報発信をすることができました。	開催内容の充実を図るとともに、各種SNSを活用した効果的な情報発信を行うことで、区内産業や伝統工芸等の更なる認知度向上を目指します。
R6	昨年度に引き続き、区内企業・産業団体・区内大学などによる展示・実演・研究発表・販売などを行いました。区内産業等について文京区内外に広く情報発信をすることができました。	来場者が楽しみながら区内産業や伝統工芸への理解を深められるよう、内容の充実を図っていきます。
R7	区内企業・産業団体・区内大学などによる展示・実演・研究発表・販売などを行いました。令和６年度より来場者数は微減となったものの、一部レイアウト変更を図り、出展者数を増やしたことで来場者からの反響は良好でした。	改良できる点は積極的に行い、集客力の向上を図っていきます。また、各出展団体や店舗と引き続き検討を重ね、安全で楽しいイベントを目指します。

5－①－ウ 「文の京文化発信プロジェクト」【再掲】

事業概要

文京区らしさを活かした芸術文化の創造・発信と、事業を通じた交流を目的として実施しているプロジェクト。演劇、音楽、伝統芸能、美術など様々な分野のイベントを対象としており、全国規模の芸術文化団体や、全国の自治体との協働（共催）により、特色を活かした創造的な活動とその成果の発信を通じて、文の京・文京を広くアピールします。

指標：事業参加者数の合計（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	374	498	623	623	623
実績（D）	228	1214	846	803	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	コロナ禍のため一事業は中止を継続しましたが、他の事業は再開しました。 コロナ禍前の２年間（平成30年、令和元年）の平均値623人（終了事業の実績を除く）の６割である374人の参加を目標としましたが、例年500人近い参加者がある石見神楽公演の中止の影響もあり、達成率は６割でした。	令和５年度は参加者数をコロナ禍前の８割の水準に戻すことを目標とします。 盛岡市と友好都市提携５周年を迎えるため、両自治体で互いの文化を発信する事業を開催し、交流を活発化させます。ミスさんさ派遣委託等の事業を開催して区民に盛岡市の文化に触れる機会を提供していきます。
R5	盛岡市友好都市提携５周年記念事業を開催したため、目標を大きく上回る実績がありました。 啄木学級ではロバート キャンベル氏を講師に迎え、270人の参加がありました。また3,500人の集客があった時代まつりの時代行列にミスさんさ踊りを派遣しました。盛岡さんさ踊り体験ワークショップでは２回のワークショップを開催し希望者22人が都市交流フェスタの舞台で踊りを披露しました。また盛岡市主催「盛岡文士劇」東京公演を共催しました。 その他、かなざわ講座の共催や沖縄県うるま市主催の現代版組踊「肝高の阿麻和利」を後援しました。	令和６年度は金沢市友好交流都市提携5周年のため、金沢市でも盛んな能楽関係の事業やその他の共催事業を記念事業として充実させた内容で開催していきます。
R6	各事業の参加者数合計を成果指標としており、目標を達成することができました。 令和６年度は津和野町東京事務所開所10周年記念として石見神楽公演を実施しました。また、能プロジェクトでは、金沢市友好交流都市提携５周年記念事業として、加賀宝生の能楽師の登壇や、前田家から宝生会に贈られた能装束等をロビーに展示しました。	引き続き、啄木学級やかなざわ講座等を通じて交流自治体の文化に触れる機会を提供し、さらなる交流の活性化に繋がるような事業にしていきます。
R7	各事業の参加者数合計を成果指標としており、目標を達成することができました。 昨年度に引き続き石見神楽公演を開催し、600人の申込がありました。啄木学級では岩手県出身の作家を講師として招き、講演を開催しました。共催事業のかなざわ講座では、加賀宝生流を題材にした講演を開催しました。	引き続き、交流自治体と連携を深めながら、各事業を通じて交流自治体の文化に触れる機会を提供していきます。 また、新たに協定を締結した自治体との交流に向けても検討していきます。

(2)分野別基本方針② 国際理解を育み定着に向けた機会づくり
ア 海外都市との交流の活性化

5－②－ア 海外都市との交流の活性化

事業概要

これまで交流のなかった新たな都市も含めて、機会をとらえて積極的に海外都市との交流を行い、友好を深めるとともに、行政間の交流を区民に広げ、さらに活性化させるよう取り組みます。

指標:訪問団の派遣等交流件数

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標(P)	1	1	2	2	3
実績(D)	0	2	4	6	

	成果・評価(D・C)	次年度に向けた取組等(A)
R4	新型コロナウイルス感染の流行以降、海外都市との交流は中止しています。新たな交流都市の検討をするため、英語圏の視察を行う等、円滑な対面での交流が再開できるように、交流の在り方を検討しました。	姉妹都市等交流自治体とは、対面での交流の再開の検討を進めるとともに、オンラインを活用したハイブリッド型の交流の在り方を検討します。新たな都市との交流については、自治体だけではなく、教育機関等との交流等も行い、友好関係を構築します。
R5	交流が検討されていた大韓民国ソウル特別市松坡区と、職員の相互派遣を行い、今後の交流の在り方について前向きに議論が進展しました。その他の都市とも、オンライン等を活用し、人的交流の再開について、検討しました。	松坡区との本格的な交流を開始し、交流事業の在り方等の検討を進めます。また、令和５・６年で姉妹都市等の３都市の首長が新任されるため、さらなる友好関係の構築目指し、人的交流を活性化させます。
R6	４月に松坡区庁長等松坡区公式訪問団を受け入れ、覚書を締結し、12月には松坡区へ区公式訪問団を派遣して姉妹都市として提携しました。また、松坡区職員が区事業に出展する等、人的交流を促進しました。 パリ市５区及びベイオウル区については、写真展及び文化講座等を通じて、交流自治体の魅力の周知を図りました。	松坡区区民ツアー及び韓国文化講座を実施し、新たな姉妹都市である松坡区への理解及び認知度向上を図ります。 提携10周年を迎えるベイオウル区等各友好都市等についても、引き続き関係団体と連携しながら交流活性化に取り組んでいきます。
R7	パリ市５区と4月に区内高等学校との音楽交流を経て、7月にオンラインにて覚書を締結しました。 また松坡区との姉妹都市提携(令和7年12月)を記念し、9月に松坡区及びソウル市内を訪問する区民ツアーを実施し、区民30名が参加しました。2月には区内にて女子サッカーチームとの交流試合を行い、３月には文京区都市交流フェスタのため松坡区職員が来日・ブース出展しました。 さらに、通州区とは9月・10月に首長の相互訪問によって互いの区への理解を深め、今後の交流事業を検討しました。	国際情勢を注視しつつ、姉妹都市の住民と文京区民との交流を深める取り組みを実施するとともに、関係部署との連携を通じて、更なる姉妹都市間の交流を図ります。

5－②－ア　ホームステイ生徒交換事業

事業概要

姉妹都市のカイザースラウテルン市と交流の一環として、隔年で中学生、高校生の派遣受け入れを実施しています。姉妹都市での生活体験を通じて、市民交流を図り、異文化理解を推進します。

指標：参加者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	4	4	4	4	4
実績（D）	0	3	4	4	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	交換生徒の受入れは新型コロナウイルス感染症の影響で延期しましたが、代替事業として、オンライン交流会を実施しました（11人参加）。コロナ禍の学校生活について意見交換をし、姉妹都市間の交流を継続することができました。	ホームステイ生徒の受入れを再開し、対面での交流事業を実施し、段階的に対面での交流を再開します。また、令和６年度の派遣に向けて、次期交換生徒の募集をするとともに事業の検討を進めます。
R5	平成31年度に派遣した生徒が、令和５年度は受入れ側として、カイザースラウテルン市生徒を迎え入れました。４年ぶりに対面での事業を実施し、互いの理解を深め、姉妹都市間の学生同士の交流ができました。派遣後から期間が空いたため、各家庭の事情等により、区及びカイザースラウテルン市ともに全家庭の参加とはなりませんでした。	第20回ホームステイ生徒交換事業の参加者を募集し、７～８月の約２週間、カイザースラウテルン市へ日本生徒を派遣します。姉妹都市であるカイザースラウテルン市の文化を体験する機会を提供することで、参加者の国際理解を促進するとともに、姉妹都市との友好関係を深めます。
R6	令和６年度は、区内の中高生を対象に第21回参加生徒を募集し、派遣しました。令和元年度以来５年ぶりにカイザースラウテルン市の家庭にホームステイをし、対面での交流が実現しました。令和５年度に実施された第20回目のドイツ生徒受入れに続く形で、双方向の交流が再び定着しつつあることが確認でき、今後の継続的な交流に向けた好循環が生まれています。	次年度は、令和６年度参加のカイザースラウテルン市生徒を区の家庭で受け入れる形で交流を実施します。ドイツの生徒が日本での生活や文化を深く体験できるよう、ホスト家庭へのサポートを強化し、円滑な受け入れ体制を整えます。 また、区内案内等区の公式行事を通じて、姉妹都市であるカイザースラウテルン市との友好関係を一層深め、国際理解を促進することを目指します。
R7	令和６年度に派遣した生徒が、令和７年度は受入れ側として、カイザースラウテルン市生徒を迎え入れました。各家庭でのホームステイ並びに区公式行事として実施した区内及び都内案内を通して、姉妹都市間の学生及び家庭同士の交流を深めました。 令和８年度実施の第21期事業に向けて、ホームステイ派遣生徒及び受入れ家庭の書類・面接選考を実施し、事業の趣旨を踏まえた適切な参加者の選定を行いました。次年度の円滑な事業を運営できるよう基盤を整えました。	次年度に向けては、生徒の安全・安心な派遣を最優先とし、説明会の実施による保護者への十分な情報提供や、適切な航空券手配など渡航の準備に努めます。また、カイザースラウテルン市担当者との連携を密にとり、緊急時連絡体制や行程管理を整え、より安全性の高い事業運営を推進するとともに、参加者の国際理解を深める充実した内容にて実施します。

イ 国際理解に向けた情報の収集・発信・共有

5－②－イ 生涯学習講座での国際理解推進

事業概要

アカデミア講座において、語学、外国文化、歴史等をテーマにした各種の講座を開催することで、幅広い国際理解の機会を提供していきます。

指標：受講者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	535	550	600	650	650
実績（D）	485	565	590	630	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	年間を通じて幅広い分野の講座を提供が叶ったほか、アカデミアサポーターの協力により、充実した講座運営に繋がりました。	最新の話題を的確に把握するとともに、生涯学習支援者区内大学と連携を図り、充実した講座内容を企画します。
R5	引き続き、諸外国の人々や文化について学び、理解することや、多様な価値観の尊重、外国語によるコミュニケーション能力向上等、世界情勢も踏まえた講座を実施しました。	引き続き、諸外国の歴史や文化、習慣等を理解するほか、外国語によるコミュニケーション能力向上等、国際的な視野を持ち、多文化共生の意識のの普及を図ります。
R6	各期において、諸外国の歴史や文化、外国語によるコミュニケーション能力向上等、多くのメニューの提供が叶いました。	引き続き、外国の歴史や文化の理解、外国語に関する講座を実施するとともに、国外の交流都市に関する講座の実施についても検討します。
R7	友好都市を含む諸外国の歴史や文化、語学など多彩な講座を引き続き実施し、区民から高い関心が寄せられ、多数の応募がありました。目標にはわずかに届かなかったものの、受講者数は前年度を上回り、国際理解を深める機会を広く提供することができました。	引き続き、区民の関心が高い語学や諸外国の歴史・文化に関する講座を提供するとともに、新規テーマの開拓による潜在的ニーズの掘り起こしに努め、さらなる国際理解の推進と受講者数の増加を図ります。

5－②－イ　都市交流フェスタ

事業概要

外国人と日本人が日本や世界各国の様々な文化体験を通じて、国際交流、国内交流のそれぞれの魅力を体験するイベントを実施します。

指標：都市交流フェスタの来場者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	1,300	1,350	1,400	1,450	1,500
実績（D）	1,300	4,785	6,079	14,110	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	4年振りに対面での国際交流フェスタを実施し、前回（令和元年度）より来場者数が200人増加しました。また、国内交流自治体の物産店を実施する等国内の魅力発信も併せて行いました。 文化体験コーナーが特に好評であり、文化体験等を通じた異文化交流の機会とすることができました。	国際交流のみならず、国内交流の魅力発信を充実させ、双方の文化に触れてもらうイベントへと規模を拡大します。そのため、在住・在学外国人をはじめ新たな参加者を誘客でき、かつ、交流自治体の認知度向上へつながる出展を検討し、内容の充実を図ります。
R5	礫川公園でのキッチンカー出店や、道路を一部規制しトラックステージを設置するなど、事業内容の大幅なリニューアルに伴い、前回より来場者が約3,500人増加しました。また、交流自治体のご当地キャラクターとのふれあいや国内外の文化体験などを通じて、交流自治体の認知度向上や異文化交流の機会とすることができました。	開催期間の見直しなど、より参加者の方が楽しみながら文化体験等ができるイベントとなるよう、内容の充実を図ります。引き続き、区内団体との協働により住民間の交流促進につながる出展を検討し、本区の魅力を再発見・再確認できる機会とします。
R6	初の2日間開催とし、前回より来場者が約1,300人増加しました。初日は、熊本県縁の竹あかりのライトアップを実施し、交流自治体の特産品及びグルメを来場者に楽しんでもらうことができました。2日目は、前年度に引き続き文京シビックセンター及び礫川公園を一体的に活用し、国内外の文化体験及び交流自治体による物産展等多様なプログラムを通じて、より多くの方に交流都市の魅力を体感してもらうことができました。	区及び交流自治体の魅力発信の強化として、観光及び文化等の体験内容の充実を図ります。また、交流自治体と協働し、来場者に区及び交流自治体の魅力を多角的に発信できるイベントへと発展させていきます。
R7	開催会場を3か所に増やしたことで、来場者数が前回比で約8,000人増加しました。初日には、昨年度に引き続き交流自治体の熊本県縁の竹あかりによるライトアップ装飾を実施し、来場者にはキッチンカー等でご当地グルメや交流自治体の物産展を楽しんでいただきました。 2日目には、文京シビックセンター、礫川公園に加え、東京ドームシティ　ラクーアを新たな会場として追加し、規模を拡大しました。特にステージプログラムでは交流自治体に関連する内容を多く盛り込み、より多角的に交流都市の魅力の発信をすることができました。	区制施行80周年という節目の開催であることを踏まえ、より多くの区民に区及び交流都市の魅力を発信するとともに、住民間の相互交流の一層の促進を図るため、「文京区×交流都市ハッシュタグキャンペーン」事業の相乗展開など、内容の充実・高度化を図っていきます。

5－②－イ　国際理解促進事業

事業概要

姉妹都市・友好都市に因んだ文化講座の開催及びやさしい日本語による交流会、区内関係団体との連携事業を実施します。

指標：区内関係団体との連携事業数（件）/事業への参加者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	6/350	7/370	7/380	8/390	8/400
実績（D）	6/350	6/1,771	10 /753	6/3,157	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	オンラインを用いた交流会を実施するとともに、対面での講座を再開することができました。しかし、交流事業内容及び実施状況によって参加者は年度によって大きく増減しています。 参加者アンケートからオンラインの有効性もあるものの、対面実施のニーズがあることも確認しました。	対面及びオンラインを活用したハイブリット型の連携事業を検討するとともに、区民ニーズを的確に把握し、対象者含めた講座内容の精査等を行い、参加者増加を図ります。
R5	トルコ文化講座を新規開設し、区民が多様な文化に触れる機会を創出しました。周年事業として、トルコ写真展を開催したため、参加者が大幅に増加しました（トルコ写真展参加者：1,426人）。また、留学生との交流会を拡充する等住民間の交流の機会を促進することができました。	前年度同様、対面実施のニーズが高いため、講座内容及び開催時間帯等区民ニーズを的確に把握し、参加者増加を図ります。また、オンラインを活用した講座の実施についても、引き続き検討します。
R6	友好都市提携10周年を迎えるベイオウル区等、交流自治体に関わる文化講座等を実施しました。トルコ文化講座では、ワークショップ及び古典音楽コンサート等体験を通じて、多くの区民がトルコ文化に触れる機会を提供しました。 また、観光担当と協働して留学生との交流会を拡充する等、日本人と外国人の交流の機会を促進することができました。	引き続き、講座内容や開催日時等の区民ニーズを的確に把握し、参加者数の増加を図ります。特に、講座内容はターゲットに合わせた内容を検討するとともに、SNSの活用等の効果的な事業周知を行います。
R7	６月の同日に２回、韓国文化講座を実施しメドゥプ（組紐）のキーホルダーを作成を通じて伝統的な文化を学び、交流都市の魅力に触れました。８月には、文京区・ベイオウル区友好都市提携10周年記念事業としてトルコフェスタを開催しました。トルコ関連のステージパフォーマンス、文化体験ワークショップ、雑貨・食品の販売を行い、トルコ文化に親しむ機会を提供することができました。 また、昨年度に引き続き観光担当と共同してやさしい日本語を通じた留学生との交流会を実施し、相互の国際理解促進のための交流が行われました。	引き続き、様々な年代層の方に参加いただけるような事業の実施やSNS等を活用した広報を行いつつ、様々な事業を通じて交流都市の魅力を身近に感じられる機会を創設していきます。

ウ 横断的な交流事業の展開

5－②－ウ 国際理解促進事業【再掲】

事業概要

姉妹都市・友好都市に因んだ文化講座の開催及びやさしい日本語による交流会、区内関係団体との連携事業を実施します。

指標：区内関係団体との連携事業数（件）/事業への参加者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	6/350	7/370	7/380	8/390	8/400
実績（D）	6/350	6/1,771	10/753	8/3,252	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	オンラインを用いた交流会を実施するとともに、対面での講座を再開することができました。しかし、交流事業内容及び実施状況によって参加者は年度によって大きく増減しています。 参加者アンケートからオンラインの有効性もあるものの、対面実施のニーズがあることも確認しました。	対面及びオンラインを活用したハイブリット型の連携事業を検討するとともに、区民ニーズを的確に把握し、対象者含めた講座内容の精査等を行い、参加者増加を図ります。
R5	トルコ文化講座を新規開設し、区民が多様な文化に触れる機会を創出しました。周年事業として、トルコ写真展を開催したため、参加者が大幅に増加しました（トルコ写真展参加者：1,426人）。また、留学生との交流会を拡充する等住民間の交流の機会を促進することができました。	前年度同様、対面実施のニーズが高いため、講座内容及び開催時間帯等区民ニーズを的確に把握し、参加者増加を図ります。また、オンラインを活用した講座の実施についても、引き続き検討します。
R6	友好都市提携10周年を迎えるベイオウル区等、交流自治体に関わる文化講座等を実施しました。トルコ文化講座では、ワークショップ及び古典音楽コンサート等体験を通じて、多くの区民にトルコ文化に触れていただける機会を提供することができました。 また、観光担当と協同して留学生との交流会を拡充する等、日本人と外国人の交流の機会を促進することができました。	引き続き講座内容、開催日時等の区民ニーズを的確に把握し、参加者数の増加を図ります。特に、講座内容はターゲットに合わせた内容を検討するとともに、SNSの活用等の効果的な事業周知を行います。
R7	6月の同日に2回、韓国文化講座を実施しメドゥプ（組紐）のキーホルダーを作成を通じて伝統的な文化を学び、交流都市の魅力に触れました。8月には、文京区・ベイオウル区友好都市提携10周年記念事業としてトルコフェスタを開催しました。トルコ関連のステージパフォーマンス、文化体験ワークショップ、雑貨・食品の販売を行い、トルコ文化に親しむ機会を提供することができました。 また、昨年度に引き続き観光担当と協同してやさしい日本語を通じた留学生との交流会を実施し、相互の国際理解促進のための交流が行われました。	引き続き、様々な年代層の方に参加いただけるような事業の実施やSNS等を活用した広報を行いつつ、様々な事業を通じて交流都市の魅力を身近に感じられる機会を創設していきます。

（3）分野別基本方針③　外国人が活躍できる環境づくり
ア　多言語及びやさしい日本語を活用した情報発信の充実

５－③－ア　外国人の日常生活支援のための多言語化

事業概要

外国人住民の日常生活に必要な行政文書の多言語化を進め、区窓口での手続きの効率化を図っています。

指標：全庁調査により多言語化した文書数（件）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	30	30	30	30	30
実績（D）	30	31	32	51	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	各課で外国人の日常生活支援のための多言語化を促進するために、全庁の翻訳希望文書を集約し、令和４年度は11課において、７言語、30文書を翻訳しました。更新を含め、最多の文書を翻訳し、各課で活用をしました。	これまで８言語の翻訳をしましたが、多くの文書の翻訳は英語、中国語、韓国語に留まっています。今後、各課において多言語化の必要性を認識した際に機動的に対応できるように、体制を構築します。
R5	各課で外国人の日常生活支援のための多言語化を促進するために、全庁の翻訳希望文書を集約し、令和５年度は16課において、６言語、31文書を翻訳しました。更新を含め、最多の文書を翻訳し、各課で活用をしました。	多言語化の必要性を認識した際に機動的に対応できるように、各課でそれぞれ多言語化を実施します。引き続き各課からのニーズに応じて、必要な支援を行います。
R6	令和６年度から各課でそれぞれ多言語化を実施しています。13課において、新たに９言語、32文書の翻訳を実施し、行政文書を多言語化しました。また、各課が翻訳を実施する際には、実施方法等について希望に応じて必要な支援を行いました。	引き続き、全庁の行政文書の多言語化を推進するために、各課の行政文書の翻訳について、必要な支援を行っていきます。
R7	令和６年度から引き続き各課でそれぞれ多言語化を実施しています。14課において、８言語、51文書の翻訳を実施し、行政文書を多言語化しました。また、各課が翻訳を実施する際には、実施方法等について希望に応じて必要な支援を行いました。	引き続き、全庁の行政文書の多言語化を推進するために、各課の行政文書の翻訳について、必要な支援を行っていきます。

5－③－ア　国際理解促進事業【再掲】

事業概要

やさしい日本語を活用した留学生との交流会を開催

指標：交流会への参加者数（人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	30	30	30	30	30
実績（D）	31	70	81	59	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	やさしい日本語を活用した留学生との交流会を、Zoomを用いたオンラインでの開催をし、区民と留学生の交流する機会を提供することができました。参加者アンケートからオンラインの有効性もあるものの、対面実施のニーズがあることも確認しました。	対面及びオンラインを活用したハイブリット型の連携事業を検討するとともに、区民ニーズを的確に把握し、難易度及び対象者を含めた講座内容の精査等を行い、参加者増加を図ります。
R5	やさしい日本語を活用した留学生との交流会を拡充し、基礎編及び発展編の２回連続講座を開催しました。やさしい日本を学び、実践するとともに区民と留学生の交流する機会を提供することができました。	基礎編及び発展編と体系的に学ぶことで、区民の満足度が高まり、留学生含め参加者の交流が活発になることがアンケートからわかりました。今後も取り組みを継続します。
R6	やさしい日本語を活用した留学生との交流会を拡充し、基礎編及び発展編の２回連続講座を年２回開催しました。やさしい日本語を学び実践するとともに、区民と留学生が交流する機会を提供することができました。また、区民と留学生が区内の観光スポットをテーマに交流する等内容の充実を図りました。	昨年度と同様に、やさしい日本語を体系的に学ぶことで区民満足度が高まることがわかりました。区民が国籍問わず交流する機会として、引き続き取組を継続します。また、観光分野等の連携を強化し、更なる内容の充実を図ります。
R7	やさしい日本語を用いた留学生との交流会を年間を通じて拡充し、連続講座を定例化しました。継続的な学習機会と、地元をテーマに区民と留学生が共に考える交流の場を提供することで、相互理解を深め、地域共創の促進に繋げることができました。	やさしい日本語を学び更に実践する本交流会については引き続き高い需要があるため、今後も継続していきます。また、留学生と実際に交流できる点に特に意義を感じる参加者が多いため、交流会の中でもよりコミュニケーションの実践を充実させられるような事業づくりに取り組みます。

イ 外国人の活躍できる場の提供支援

5－③－イ 区内大学、ボランティア団体等との協働・連携

事業概要

「外国人のための専門家相談会」の共催をはじめ、区内の大学や団体の実施する事業を後援等することで、情報を広く発信していきます。

指標：協働・連携した事業数（件）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標（P）	1	2	2	2	3
実績（D）	1	1	2	2	

	成果・評価（D・C）	次年度に向けた取組等（A）
R4	外国人にとって異国の地で慣れた言語で相談できる場所を提供することに一定の需要がありました。区の手続きの際にチラシを見たり、紹介を受けて知ったりという案件があり、共催の効果が見られました。	区内在住外国人支援につながる後援等事業について、情報を積極的に発信していくとともに、関係団体との協働の在り方を検討していきます。
R5	令和４年度と同様に実施をし、相談者も７組から９組へと増加し、一定の需要があることが改めて確認でき、共催の意義をあったと考えられます。	引き続き区内在住外国人支援につながる後援等事業について、情報を積極的に発信していくとともに、関係団体との協働の在り方を検討していきます。
R6	令和５年度に引き続き外国人のための専門家相談会を実施し、20人の参加がありました。 また、Bチャレ事業の一環として区内団体と協働し、日本文化の体験を通じ区内在住外国人と日本人が交流する機会を創出しました。	引き続き区内在住外国人支援につながる事業について、情報を積極的に発信していくとともに、関係団体等との協働について、関係部署等と改めて検討します。
R7	昨年に引き続き外国人のための専門家相談会を実施し、12人の参加者から20件の相談がありました。 また、Bチャレ事業の一環として区内団体と協働し、日本文化の体験を通じ区内在住外国人と日本人が交流する機会及び外国人支援に興味のある人材を具体的な活動につなげる機会を創出しました。	引き続き区内在住外国人支援につながる事業について、情報を積極的に発信していくとともに、関係団体等と協働して外国人を含む区民への国際交流機会提供等に努めていきます。